

千代田区基本構想懇談会
からの提言書

令和4（2022）年11月

千代田区基本構想懇談会

目次

1. はじめに	1
2. 懇談会の概要	2
(1) 開催目的.....	2
(2) 懇談会メンバー.....	2
(3) 開催日時・各会の主なテーマ.....	3
3. 提言内容	5
(1) 「はじめに」・「区と基本構想の役割」について.....	5
(2) 「めざすべき将来像」について.....	7
(3) 「分野別の将来像」について.....	11
(4) 「基本構想の実現に向けて」について.....	18
(5) 基本構想全体に関わる意見.....	19
4. 区の実施に対する留意点	21
(1) 教育関連.....	21
(2) 文化関連.....	22
(3) 福祉関連.....	24
(4) 保健関連.....	25
(5) 暮らし関連.....	25
(6) まちづくり関連.....	27
(7) 全般・その他.....	28
5. 参考	29
(1) (仮称) 第4次基本構想（たたき台）	30
(2) 議事要旨.....	35
(3) 団体関係者ヒアリング結果.....	100
(4) アンケート結果等.....	107
(5) 千代田区基本構想懇談会設置要綱.....	123

1. はじめに

千代田区の新たな基本構想の策定に向け、区民の参画や協働を通じて、区民が共感できる基本構想を検討するために、千代田区基本構想懇談会（以下「懇談会」という。）が設置されました。

令和3（2021）年度に、無作為抽出の在住区民4,000名を対象に「区の施策や将来像に関するアンケート」が実施されました。懇談会のメンバーは、その回答者で、懇談会への参加を希望した区民の中から、千代田区の年齢や男女比を考慮して無作為に選ばれた18名と学識経験者4名で構成されました。

懇談会は、令和4（2022）年7月から11月にかけて、全体会と分野別の部会を計6回開催し、（仮称）第4次基本構想のたたき台等について協議を重ねてきました。

全体会では、現総合計画の振り返りや、各部会の意見を踏まえて将来像について検討し、意見の取りまとめを行いました。また、部会では、各分野の視点から将来像やめざすべき姿について協議し、様々な意見を活発に交わしました。

千代田区がこれからも発展し、区に関わるすべての人にとって誇れる素晴らしいまちとなるよう、ここに提言書として提出します。

新たな基本構想の策定にあたっては、今回の提言の内容が反映され、今後の区政運営に活かされることを期待します。

令和4（2022）年11月
千代田区基本構想懇談会

2. 懇談会の概要

(1) 開催目的

本懇談会は区民が共感できるような新たな基本構想をめざし、区が作成した（仮称）第4次基本構想のたたき台（5. 参考（1）を参照）等について提言するため、開催されたものである。

なお、本懇談会は学識経験者4名、区民18名の合計22名（うち区民1名辞退）で構成され、さらに、「教育と文化」、「福祉と保健」、「くらしとまちづくり」の3分野に分けた部会を設置し、各分野の視点から協議を行った。

(2) 懇談会メンバー

◆区民（五十音順）

氏名	所属部会
秋元 純	教育と文化
石井 輝光	くらしとまちづくり
奥田 聖	くらしとまちづくり
賈 松年	教育と文化
坂田 みほ子	福祉と保健
佐藤 陽一	くらしとまちづくり
清水 誠	くらしとまちづくり
杉野 順清	教育と文化
鈴木 寿明	福祉と保健
竹田 靖子	教育と文化
田中 晶子	教育と文化
玉川 優子	教育と文化
都野 織恵	福祉と保健
都丸 雄一郎	福祉と保健
中谷 太一	福祉と保健
難波 千鶴	福祉と保健
根本 安曇	くらしとまちづくり

※辞退者は無記名

◆学識経験者

氏名	所属部会
牛山 久仁彦 (明治大学政治経済学部教授)	会長
藤井 千恵子 (元国土舘大学体育学部教授／ 元千代田区教育委員会指導主事)	副会長／教育と文化【部会長】
石山 麗子 (国際医療福祉大学大学院教授)	福祉と保健【部会長】
杉崎 和久 (法政大学法学部教授)	くらしとまちづくり【部会長】

(3) 開催日時・各会の主なテーマ

令和4(2022)年度に以下のとおり、懇談会を実施した。

回	開催日時	主な内容
第1回全体会	7月25日 18:00-20:30	●区の現況説明 ●新たな基本構想策定について概要説明
第1回部会 (教育と文化)	7月28日 18:00-20:30	●千代田区の良いところ・好きなところについて意見交換 ●めざすべき将来像・分野別の将来像について意見交換 ●現行計画における施策の振り返り
第1回部会 (福祉と保健)		
第1回部会 (くらしとまちづくり)		
第2回全体会	8月29日 18:00-20:30	●団体関係者ヒアリング、職員アンケート等結果の報告 ●めざすべき将来像・分野別の将来像等について協議 ●構造等について協議
第2回部会 (教育と文化)	9月2日 18:00-20:00	●属性別アンケート等結果の報告 ●めざすべき姿について意見交換
第2回部会 (くらしとまちづくり)		
第2回部会 (福祉と保健)	9月9日 18:00-20:00	

第3回全体会	10月6日 18:00-20:30	●提言書の作成
第4回全体会	11月8日 18:00-19:30	●提言書の取りまとめ

3. 提言内容

懇談会では、区が作成した「(仮称)第4次基本構想(たたき台)」の内容について意見交換を行ってきた。その内容を踏まえ、「(仮称)第4次基本構想(たたき台)」の構成要素ごとに以下の(1)～(5)のとおり提言する。

(1)「はじめに」・「区と基本構想の役割」について

(提言内容)

「はじめに」の部分については、本基本構想を手にとってくれた人の関心を引き付ける重要な部分である。文量を工夫するなど、できる限り簡潔で理解しやすい内容となるようにされたい。また、歴史に触れる場合には客観的で正確な記述に努めるようにされたい。

提言内容に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- ・「はじめに」が長すぎる。「私たちは～」以降の2段落だけでよいのではないか。
- ・「千代田区は、約400年にわたり、政治・経済・文化の中心として歴史を刻んできました。」とあるが、千代田区自体は400年前から存在していたわけでないので現実に即した記載にした方がよい。
- ・「はじめに」の前段で記載している歴史や政治の話は誰でも分かるような話なので、基本構想にあえて記載する必要はないように感じる。
- ・「千代田」の歴史は、「千代田」の存在意義であるため、歴史の記載は必要であり、正確に記述すべきである。
- ・コロナウイルスを「未曾有の危機」と称しているが、これまでの歴史上、人類はコレラなどの感染症と向き合ってきた経緯があり、コロナウイルスは「未曾有」では無い。
- ・「我が国の人口は減少に転じ」とあるが、減少に転じているのではなく、すでに減少傾向にあり、その傾向が継続中であると思われる。

(提言内容)

新型コロナウイルス感染症拡大について触れているが、それ以外にも、多様性の尊重、ジェンダー平等、国際化の進展、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催、社会全体のデジタル化の推進などの社会情勢も変化していることを理解したうえで、区民をはじめとする千代田区に関わるすべての人のための基本構想であることを明確にされたい。

提言内容に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- 「子ども、女性、高齢者、障害者など」とあるが、ジェンダーマイノリティや外国人についても触れてほしい。
- 20 年前と現在の大きな違いは、「多様性」、「国際化」、「IT 化」であり、その 3 点が内包されていると良いのではないか。
- 「はじめに」の「区民の命や健康を守る」については、区民ではなくとも区内で活動する人も含まれるようにすべきである。
- ジェンダーの観点が抜けているように感じる。団体関係者ヒアリングでの意見でも、「ジェンダーという言葉が出てこないことにも違和感を覚える」とある。
- 新たなファクターとして、アフターオリパラ対応、SDGs の理念を明示的に表現してもよいのではないか。

(提言内容)

「区と基本構想の役割」の部分については、区役所が、区民をはじめとする千代田区に関わるすべて人にとって、身近で頼れる存在であろうとすることを明確にされたい。

提言内容に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- 行政がより関与していくような表現が入ると、「行政が身近なまち」という千代田区のイメージをもっと上げることができるのではないか。
- 住民と行政とのつながりを示す構想にしてほしい。

(2)「めざすべき将来像」について

(提言内容)

千代田区は、日本の政治・経済・文化の中心に位置し、先駆的で特色ある取り組みを実施してきた自治体の1つであるため、今も躍進し続けていることが伝わるようにされたい。また、千代田区らしさを表現するなど千代田区の将来像であることをより明確にされたい。

提言内容に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- ・ 説明文がなければ「千代田区」だと分らない。
- ・ 千代田区は大企業が集積し、歴史もあるなど理想的な都市である。「日本を牽引していく」「日本のモデルケースをめざす」「NO.1、模範的である」という思いを描いてはどうか。
- ・ 日本をリードしているのが千代田区のみであるような書きぶりは控えた方がよい。傲慢のように聞こえる。
- ・ 千代田区は既に躍進しているので「躍進し続ける」とした方が、希望があってよい。
- ・ 写真や絵で千代田区らしさを表現すると良いのではないか。町会の様子を写真で紹介すると、「こうしたら地域を活性化できる」というイメージにつながるのではないか。
- ・ 自治体のトップランナーとして現状に満足するのもいいが、トップランナーを維持するには努力が必要である。10年後、20年後もトップランナーを維持するための取り組みなどを議論し、表現するべきではないか。
- ・ トップランナーという言葉は、とても良い言葉であり、反映されていないのは良くない。トップランナーとして千代田区がどうあるべきかをアピールしてもよい。教育分野などにおいては、現在も特色のある取り組みをしているが、全国ナンバーワンとして挑戦的・実験的・先端的な取り組みを更に進めてもいいのではないか。
- ・ 他の市町村と比べ、ある意味ゴールに近いのは千代田区であり、「もう少しでそのゴールに手が届く、理想ではなく実現できる。」ということを表現したい。
- ・ モデルケースになれるような区をめざすという視点を区には持ってほしく、そのような内容を「はじめに」の中に入れても良いのではないか。

(提言内容)

「伝統とモダン」という表現について、区の説明では、「モダン」は新しい文化や新しく住まう人、近未来の景色などの思いが込められているとのことであった。その思い自体は理解するものであるが、本懇談会では、別の表現に改めることも含めて様々な意見が挙げられた。については懇談会で出た様々な意見を踏まえ、表現について改めて検討していただきたい。

提言内容に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- 人によって「守るべき伝統」で思い浮かぶものが異なるので、認識をすり合わせて具体化することで、その先の将来の姿もよりイメージしやすくなる。
- 具体的なイメージが湧かない。
- モダンという表現はわかりにくい。
- 「モダン」は「現代」という意味で使用していると思われるが、歴史の区分としては、現代は、「ポストモダン」と呼ばれることもあるため、分かりづらく、別の表現に変えた方が良い。
- なぜ「モダン」だけ、日本語ではなく外来語を使用しているのか。日本語で言い換えられると良い。また、「未来」のニュアンスを入れられると良い。また、とけあうのではなく、それぞれの良いところを取り入れるイメージの方が良いのではないか。
- 「伝統とモダンがとけあう」という表現は気に入っている。「伝統とモダンが調和する」という表現にするのも良い。
- 「モダン」という表現については、千代田区は、これまでも、そして現在も日本の中心地であり、モダンの要素を備えつつも、歴史など古いものが残っているように感じる。そのように考えると、「モダン」という表現はそのままでも良いのではないか。また「とけあう」という表現に関しては、現実的にとけあう（溶け合う）ことは無いだろうが、日本語の表現としては問題ないのではないか。
- 「伝統とビジネス」という表現を使うと差別化でき、千代田区らしい表現になる。
- 一方で、ビジネスというよりは、条例にもあるとおり、文化や教育についての印象も強い。

(提言内容)

伝統や歴史、文化について、これまで守ってきたものを引き続き大切にしていくとともに、新しい文化や価値観が調和、融合されたまちを目指していただきたい。

提言内容に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- 皇居の存在で江戸時代の伝統のイメージはあるが、上野エリアと比較すると弱い。もっと歴史や伝統を強調してほしい。
- 江戸時代から蓄積してきた文化などは、千代田区特有の魅力である。そういった魅力は明確に強みとして記載した方が良い。
- 常に新しいものが生み出され、それが伝統として受け継がれてきた場所という認識があっても良い。
- 伝統というと保守的なイメージが強い。伝統に加えてこれからの世代と何かを作り上げていく旨の記載がほしい。
- 京都を見習って歴史と現代感の融合をめざす。

(提言内容)

千代田区に住み、働き、学び、集う人びとは、年齢、性別、障害の有無、国籍などの多様性にあふれている。また、まちに目を向けると、質の高い多様なまち並みが既に備わっている。これらの多様さが尊重され、魅力を更に引き出していくことを示していただきたい。

提言内容に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- 「働き、学び、集う」とあるが、千代田区は国籍・性別・障害など多様性にあふれている。もっと具体的に記載したほうが良いのではないか。
- 質の高い様々なまちの要素が既に備わっている。将来に向けての魅力を既にある魅力からもっと引き出せると良い。

(提言内容)

千代田区に関わるすべての人が、地域のつながりや世代を越えたつながりを築けることが、千代田区のめざすべき将来像においても重要な要素であると考ええる。めざすべき将来像には、このような「つながり」の重要性を想起させる言葉を取り入れていただきたい。

提言内容に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 地域のつながりや人間味があることを守りながら、発展していったほしい。・ 都心に位置する千代田区だが、他の区と比べても地域のつながりが強い。・ 「地域のつながりや人間味があることを守りながら」という意見があるが、個人的には千代田区は人間味が薄いように感じている。例えば、八百屋のような小規模の施設が少ないように感じる。・ 学生や新社会人などと世代間交流ができる場所があると良い。 |
|---|

(提言内容)

懇談会の議論を経て、様々な千代田区の良いところや魅力を共有した。この魅力的な千代田区に、住みたい人が住み続けられるまち、持続可能なまちになることをめざすべき将来像の中に取り入れていただきたい。

提言内容に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 安全安心に生活できるなど、長期的に住み続けられるという持続可能性についても触れた方が良いのではないか。 |
|---|

(3)「分野別の将来像」について

(自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち)

(提言内容)

子育てについては、ライフスタイルのみならずライフステージにも考慮がなされ、生み育てたいと願う人が充実した子育てができているような将来像を掲げていただきたい。また、子どもの個性や意思が尊重され、大切に育まれることが伝わるようにしていただきたい。

提言内容に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- ・ 「ライフスタイル」ではなく「ライフステージ」、「安心」ではなく「充実」に変更して、「ライフステージに応じて充実した子育て」に変更すべきではないか。
- ・ 出産に対する支援も充実させて千代田区で生み育てたいと思う人が増えるような内容も基本構想に盛り込んでほしい。
- ・ 共働きやシングルの方もいるので、それを踏まえた表現が良い。「ライフスタイル」は残し、「ライフスタイル・ライフステージ」に変更するのはどうか。
- ・ 構想で記載されている「多様なライフスタイル」とは、親に関する多様性なのか、子どもに関する多様性なのかが分かりにくいため、表現をもう少し工夫した方が良い。
- ・ 「生み育つ」、「生まれ育つ」といった要素がこの構想では見受けられない。今後、千代田区として、転入で人口を増やしていくのか、それとも、千代田区で産まれる子どもを増やし、人口を増やしていくのか、区のスタンスを示した方が良いのではないか。
- ・ 「意思」とは具体的に何を指すのかわからない。個性や意思は勝手に育つわけではないため、個性や意思を「育む・育てる」や「考える力を伸ばす」という表現に変えた方が良く考える。
- ・ 個性や意思を「育む・育てる」という言い方には上から目線のように少し違和感がある。子どもの個性や意思を「育てる」のではなく「尊重する」という表現のほうが適切なのではないか。
- ・ 自分たちが自信を持っている事を相手に伝えることは、「育てる」に繋がるのではないか。そういった意味では、「育てる」という表現は重要なのではないか。
- ・ 言葉の使い方の問題であるが単に「育む・育てる」のではなく、「育み、育

てる場」が提供され、それを活用するかどうかは、本人の個性や意思を尊重できるような意図が伝わるように工夫すれば良いのではないか。

- 「平等」という言葉が大事なポイントになる。一人ひとりの子どもに合った個性や意思を尊重できる機会を与えられることが必要である。

(提言内容)

こちらの分野別の将来像には社会的包摂の考えをより反映するべきと考える。年齢、性別、障害の有無、国籍などに関わらず、多様性を尊重し、誰一人取り残されることのない、お互いに支え合い、希望をもてる将来像を掲げていただきたい。

提言内容に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- 「子どもからお年寄りまで」という表現があるが、年齢だけでなく、人種や性別などの観点からも多様性を表現できると良い。
- 「ライフステージ・ライフスタイル」について、千代田区には、すでに多くのライフステージを経験した高齢者層も多くいるため、そのような方たちも想定した表現を「誰一人取り残されることなく～」の箇所に反映させた方が良いのではないか。
- 「子どもからお年寄り」という表現は限定的で多様性を感じない。ダイバーシティードインクルージョンの考え方に沿い、多様な存在を認めるというニュアンスを追加できると良い。
- 将来像を掲げるにあたっては、「自分らしく」という言葉はキーワードになっている。
- 支え合うといったイメージもあるため、「誰が誰から取り残されることなく、支え合っていく」のか、もう少し具体的に書くと良い。
- 物理的に孤独感を感じるケースと、時間軸の中で孤独感を感じるケースがあるだろう。普段困っていないような人であっても、取り残されたように感じる瞬間はある。そのような場合に、公的サービスだけではなく、相談できる相手があり、支え合えるような状況があることは、理想である。
- マイノリティの立場にない人にとっては、「取り残される」という意味が伝わりにくく、「めざすべき姿」がイメージしにくい。構想の中で、取り残されている人たちを明示することで、取り残されているマイノリティが社会にいることを気付かせることが大事である。最終的に平等な社会をめざすためには、まずはマイノリティの「特別扱い」をするような段階を踏む必要がある。

- 同じ社会にいる全員に平等な機会を公正に提供するには、それぞれの立場に応じた配慮が必要である。
- 孤独を感じている人はおり、そのような人たちにとっては、「誰一人取り残されることがなく」という表現は響く。
- 「誰一人取り残されることがなく」という表現は、SDGs から引用された言葉なのではないか。この表現を、千代田区として噛み砕いて使用し、障害者に対する意識が高まっていけば、ありがたい。
- 「誰一人取り残されることがなく」においては、自分が取り残されているという自覚がある人、無い人どちらも内包すると捉えると良いのではないか。
- 「誰一人取り残されることがなく」で対象となる人でも、後半の「自分らしく、自立した生活を送ることができています」では対象とならない人もいると思うので、前半と後半の対象者を一致させると良いのではないか。
- 様々なバリアを取り払っていくことを基本構想の中に盛り込むと良いのではないか。
- 「誰一人取り残されない」ためには、まさにバリアを取り払っていくことが重要ある。
- 年齢だけでなく、性別、障害の有無、国籍に並列して、「多様性」というキーワードを入れていただきたい。

（提言内容）

健康面については、様々な観点から考える必要がある。昨今メンタルヘルスが注目を浴びている社会的背景を考慮し、体だけの健康だけでなく精神面の健康についても向上されることが分かるような将来像としていただきたい。

提言内容に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- 健康とあるが、身体的な健康だけでなく「精神」の健康の要素も盛り込んでほしい。
- 「衛生的」という言葉は少し学問的な印象があるので、例えば「清潔で快適」という表現のほうが分かりやすい。
- 歩いているだけで健康になるようなまちづくり（ウォーカブルシティ）という考え方がある。運動に興味のない人でも自然と歩きたく、動きたくなるようなまちづくりも大切だろう。健康づくりは、まちづくりと連動しながら検討することが必要になるだろう。
- 「いきいきと健康に暮らせるまちづくりをする」というような表現にすると良い。

(提言内容)

千代田区は伝統や歴史があるまちなので、それらを守り、後世に受け継いでいっていただきたい。区に関わる人達が区の伝統や歴史を学び、知ることで、皆が心豊かに成長することを期待できるような将来像としていただきたい。

提言内容に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- ・ 国際的な学びの場や文化的な施設といった地域性を活かした内容が盛り込まれると良いかもしれない。
- ・ 「伝統と歴史あるまち」がアンケートでも上位であり、ニーズがあると考えられるので、もっと重視をし、具体的に基本構想の中に表現しても良いのではないか。
- ・ 区民自身が区内に文化財があることを理解して大事にしていく姿勢を行政に育んでもらえれば、文化財を保護する1つの要因になる。文化財を保護し、いかに伝えていくかということを基本構想の中に活かしてほしい。

(集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち)

(提言内容)

千代田区で生まれ育った人と新たに千代田区に住む人がつながり、地域との関係を築くことが重要であると考え。特に、単身世帯や夫婦のみの世帯は地域とのつながりを築くきっかけが少ない。千代田区に関わるすべての人が、互いにつながるきっかけを得られるようにすることで、支え合うことができるまちを将来像として掲げていただきたい。

提言内容に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- ・ 子どもがいることでパパ友やママ友とのつながりがあるが、交流するきっかけがない単身者や子どもがいない夫婦とは付き合いがほとんどない。
- ・ 子ども、子育て以外に地域と繋がれるようなルートがあったら良い。
- ・ 区がフォーマルな交流の場を提供するのではなく、自然体で、興味関心を通じてつながるコミュニケーションの場を増やしていけると良い。
- ・ 新住民も気軽にお祭りなどに参加ができるようなプラットフォームが必要だと考える。また、ボランティアなど出合いのきっかけを行政が積極的に周知し、少しずつ人とのつながりを形成できると良い。また、それは、単発的な取組みではなく、継続的に取り組めると良い。
- ・ 特に抽象的な表現な印象を受ける。人とのつながりが何を指すのかわかるように具体的に表現した方が良い。

- お祭りに参加したいと思っている方が多いように感じた。自分から「支えにいく」といったニュアンスも表現できて良いのではないかな。

(提言内容)

千代田区は大企業が集積し、日本の経済をけん引してきた。また、多くの大学や学校があり、若く活気にあふれている。千代田区を支え、賑わいを創出している様々な企業や商店、大学を大切に、千代田区の地域特性を活かした将来像を取り入れていただきたい。

提言内容に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- 分野別将来像に千代田区らしさを出すためには、ビジネスの要素を打ち出しても良いのではないかな。歴史と文化のあるまちは沢山ある一方で、ビジネスが集積しているのは千代田区が圧倒できる点である。「集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち」にビジネスの要素を追加しても良い。
- アフターコロナの社会でこそ、人々が集える場所を作ることが重要であり、賑わいを取り戻す必要がある。
- 国際的な面も強いことや地域に大学が点在していることも特徴である。大学との連携を構想に入れ込めれば千代田区らしさが出てくるだろう。
- 千代田区は小規模な商店や企業への支援があまりないので、自治体を支える小さな商店・企業に対して支援を行う必要がある。

（やすらぎを感じ、安心して快適に暮らせるまち）

（提言内容）

千代田区は皇居を中心に自然にあふれているが、地域によっては緑が少なく区民が自然に触れ合う機会が少なくなっている。自然は人々にやすらぎを与える重要な要素であり、自然があることで住民も千代田区に対し愛着や誇りを感じるものである。都心でありながらも、公園の整備などを通じて身近に自然と触れ合うことができるまちづくりを推進する意思を将来像に込めていただきたい。

提言内容に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- ・ 「やすらぎ」にはいろいろな意味が含まれているようだが、例えば「自然環境」のように、もっとストレートに伝わるような表現にしてはどうか。
- ・ 千代田区には皇居があるため緑が多いという印象を抱くが、神田地区や秋葉原など自然があふれているとは言えない。
- ・ 身近な緑は必要である。
- ・ バランスよく公園を設置してほしい。
- ・ 再開発したエリアは緑が多く配置されていて良い。
- ・ 千代田区の人々は、再開発よりもまち並みを変えずに残していきたい人が多いと想像していた。
- ・ まちづくりについて、現在の区の方針性は高層化に一本化されており、例えば街路樹に対して区としてのスタンスがないのではないかと。
- ・ 子どもに対するアンケートにおいて、「環境に優しいまち」の水準が低かった。これは、子どもがよく利用する公園などの自然環境が豊かではないということの示唆ではないか。良好な環境を次世代に継承する前に、まずは更なる緑化に努める必要があるのではないかと。
- ・ 「良好な環境が次世代に継承され」の部分がリード文で読み取れない。

（提言内容）

これからのまちづくりにあたっては、交通の利便性の向上やバリアフリー化など千代田区に関わる人々が生活しやすくなることを将来像に取り入れていただきたい。

提言内容に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- ・ コミュニティバスやレンタサイクルなど、交通に関しても触れてほしい。
- ・ 移動とバリアフリーなど区民が移動に困らないようにするニュアンスがほしい。

(提言内容)

災害については、近年台風や集中豪雨といった激甚化する自然災害や今後懸念される大規模地震など注目を集めているところである。昼間人口やビルの多さといった千代田区の個別事情に留意しながら、ハード面の整備や災害時における体制の強化など災害に強いまちを実現していくことを期待する。

提言内容に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- 神田や秋葉原は古いビルが多く、ビル間が狭いため、火災が起こった際に被害が甚大になる可能性がある。
- 帰宅困難者の問題では、区内には広い校庭など大きな避難所がない気がする。
- 自然災害が多発している中で、千代田区は水害に対処できるのか疑問である。そのため、「やすらぎを感じ、安心して快適に暮らせるまち」の中に、これからの自然災害に対処すると同時に持続可能な社会を作ることが要素として加えられると良いのではないか。
- 災害対策に関し、「持続可能」という表現を使用するイメージはあまり無い。また、「持続可能」という表現を使用することで、経済、暮らし、災害などの様々なイメージが想定されるため、何について言及しているのか分かりにくくなってしまっている。そのため、例えば、「ハード面の整備などを通じ、災害に強いまちを実現していく」など、明確に記載しても良いのではないか。
- めざすべき姿の主語は「私たち（区民）」だと考えられるが、「強靱な都市基盤や災害に備えた体制が構築され、」の部分の主語は「私たち（区民）」ではなく「行政」ではないか。

(4)「基本構想の実現に向けて」について

(提言内容)

住民自治は区民の参画・協働が前提であり、区は、区民の様々な意見を尊重し、区民からの理解を得られるよう区政運営に努めていただきたい。

提言内容に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- 自治は区民参画が前提であり、区民の賛成意見・反対意見をうまく調和させることで成り立つものであると考えている。
- 「民主主義を踏まえ少数派の意見も尊重する」といった内容を盛り込んでほしい。
 - 「うまく調和する」というよりは、例えば「賛成意見・反対意見という対立する構造を避ける」というような表現にすると良いのではないか。
 - 区政運営にあたり、区民から賛成意見・反対意見があるが、区にはそれらの意見をうまく調和することで、曖昧にしてほしくない。
 - 実際には賛成反対だけでなく、どちらでも良いという声も含め、多様な意見がある。そのような意見を踏まえて合意を目指すような趣旨がここでは伝わると良いのではないか。
 - 区民の多様な意見を尊重しながら、最終判断を民主的にしていただけるような趣旨が提言内容に反映できれば良い。

(提言内容)

人権や平和を守る取組みについては、「はじめに」でも述べられている「国際平和都市千代田区宣言」を十分に踏まえたうえで進めていかれたい。

提言内容に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- 千代田区の理念は、「教育と文化のまち千代田区宣言」と「国際平和都市千代田区宣言」を基本に千代田区の自治を検討すれば良いのではないか。
- 物理的にも身体的にも平和を保てるような内容にしてほしい。

(5) 基本構想全体に関わる意見

(提言内容)

本基本構想の特徴として期限が設定されていないことが挙げられる。めまぐるしく社会情勢が変わる現代において、あえて期限を設定しないことで、社会に大きな変化が生じた際に柔軟に取組みの見直しを図ることができるということであった。しかし、期限がないことにより、将来像がどの程度未来を見据えているのかが分かりにくいことを懸念する意見が挙げられた。期限の設定については一長一短あるため、もう一度その必要性について慎重に検討されたい。

提言内容に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- 基本構想をどれくらいの期間使うのかが気がかりである。今後長期的に使うものとして、一つ一つの言葉遣いを慎重に検討する必要がある。
- 基本構想に期限はあった方がよく、その期限によって記載内容もかわってくるのではないか。
- 次の基本構想は期間を設定していないため、文章中に時間的な有限・無限が混在している。
- 第4次基本構想は無期限を前提に作っているが、中身は20年期限だった第3次基本構想とほぼ変わっていない。アンケートでは10年の後の姿について聞いており、今回の基本構想も10年を期限とするなど、対応が必要ではないか。
- 恒久的な構想として考えるのであれば、時勢の変化に対応できるような内容にするべきである。
- 短いスパンで振り返りの場を設けるのは良い。

(提言内容)

本基本構想が千代田区に関わるすべての人と共有するものであることに鑑み、正確な記述に努め、簡潔で理解しやすい構成や文面、見やすいデザインなどの工夫をし、誰からも親しまれる基本構想としていただきたい。

提言内容に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- 「私たち」が「千代田区」、「千代田区民」あるいは「すべてのステークホルダー」のどれを指すのか不明確に見える部分がある。「私たち」を使わない表現の方が良いのかもしれない。
- 3つの分野別の将来像の粒度感が異なっている。「やすらぎを感じ、安心し

て快適に暮らせるまち」は具体的だが、「自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち」・「集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち」は抽象的であるため、3つの分野別将来像の粒度を揃えた方がよい。

- 構想の内容が抽象的で、なにをしていくのかわからない。
- 注視すべき内容、将来こうしたいという内容をはっきりさせた方がよい。
- 「健やか」・「健康」という言葉は、WHOで「身体・精神・社会的にバランスが取れている状態」と定義されている。行政の計画として、そのような言葉の定義とも連動しながら検討を進めた方がよい。
- 「普遍的な幸せ」とあるが、人によって普遍的な幸せは異なるため、記載内容を変更した方がよい。
- めざすべき姿を削除してリード文を充実させる方法や、リード文の抽象度を上げて、めざすべき姿との分けを明確にする方法もあるのではないか。
- 分野別の将来像「やすらぎを感じ、安心して快適に暮らせるまち」について、リード文と比べて、めざすべき姿がより具体的になっているわけでもなく、位置づけが分かりにくい。
- めざすべき将来像にある「伝統」に関する表現が、分野別の将来像においては抜け落ちている。
- 分野別の将来像の3つの区分が分かりにくい。重なり合っている部分も多いように感じる。
- 第4次基本構想（たたき台）における「めざすべき将来像」と「分野別の将来像」は、第3次基本構想の第2章及び第3章の枠組みをそのまま使用していることは問題である。基本構想の中でも最重要項目のため、一から見直していただきたい。

4. 区の実施に対する留意点

ここでは基本構想に掲げる将来像を実現するための施策を推進するうえでの留意点を、(1)～(7)のとおりとする。

(1) 教育関連

■子育てについて

(留意点)

子育てのスタイルや考え方が多様であることを考慮し、親が安心して子育てができるように、より一層の支援や環境づくりが継続的に図られることを望む。

留意点に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- ・ 子育てについて、継続的に安心して暮らせるメソッドなどがあると良い。
- ・ 給付金・児童手当など話題性のある施策を打ち出している。
- ・ 親が共働きで子どもが放置され、ゲームに夢中になりすぎている家庭がある。
 - 「共働き」が当然となっている現代において、共働きが問題であるような表現は問題なのではないか。また、子どもが放置されることと、ゲームに夢中になりすぎていることは、因果関係がなく、提言書に掲載する表現としてももう少し注意していただきたい。
 - 私も「共働き」という言葉遣いには、違和感を覚える。親が共働きであることと、子どもへ目が行き届かないことは、無関係であり、誤解を招かないような表現を考える必要がある。
- ・ 高校授業料無償化や児童手当などについては、千代田区民は所得制限で対象外となる人が多い。対象外となってしまった人に対しても、都や国の施策とは別に、区の支援があるとありがたい。

■教育について

(留意点)

千代田区の人口増加を考慮しながら、教育環境の充実を図られたい。また、企業や教育機関が集積しているという千代田区の特徴を活かしながら、子どもの個性を伸ばし、意思を尊重した、国際化社会にも対応した教育を実践されたい。

留意点に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- ・ 一人ひとりの子どもに合った個性や意思を尊重できる機会を与えられることが必要である。
- ・ 子ども達の教育や運動施設等が充実している。
- ・ 海外の小中学校とのつながりなど、国際的なつながりを築く機会を与えるべきではないかと考える。
- ・ 千代田区は企業が多いため、千代田区の企業人、霞が関、教育の場との連携を強化すると良いのではないかと考える。
- ・ 人口の増加に伴い、公立学校のキャパシティを憂慮している。
- ・ 安い会費で剣道、サッカー、囲碁などのクラブ活動に参加できるが、クラブの先生方へのサポートが不十分だと感じている。
- ・ クラブ活動の先生方への謝礼を検討してほしい。
- ・ 公立の小中学校の質が比較的高い。

(2) 文化関連

■文化・芸術について

(留意点)

千代田区は古くからの歴史、文化や芸術にあふれたまちである。こうした伝統や芸術を守り、いかに次世代に引き継いでいくかを考える必要がある。そのためには、伝統や芸術を保護するとともに、今以上に触れる機会を創出することが重要であると考えます。さらには、他区との連携や民間企業などの力を活かして文化施策を推進されたい。

留意点に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- ・ 美術館やイベントが充実している。
- ・ 本が強みであるなら、行政としてどのように支えていくかは大事な点である。
- ・ 文化財を保護し、いかに伝えていくかということを考えてほしい。

- 千代田区にある大名屋敷、邸宅跡等の名所を広めると良い。
- 日比谷図書文化館には風ぐるまが巡行していない。歴史的な収蔵物がある場所には風ぐるま等で行けるようにしてほしい。
- 竹橋の東京国立近代美術館は、常設展示は素晴らしいが、企画展は渋い内容が多いので、区が協賛して上野や六本木のように魅力的な展覧会を開催してほしい。
- 神田明神ではアニソン盆踊りを実施しており、日本の伝統と現代文化の融合であるように感じ、そこが千代田区の良さであると感じた。
- 分野別将来像の「文化芸術に触れ、受け継ぎ、学んでいくことで、心が豊かになっています。」についてだが、上野には文化芸術施設が多くあり、そのような近隣区との連携を進めていく事も良いのではないかな。
- 千代田区は劇場が多くあるが、そのような場にこの20年の中で劇団を誘致できれば良かったのではないかな。周辺区には中央区や台東区など文化が集積している区も多いため、そのような区とも連携し、文化施策を推進しても良いのではないかな。
- 千代田区の広報紙に日比谷の劇場が特集されていたが、千代田区民以外からも関心を持たれていたと伺っている。まちづくりというと、ディベロッパーが関与するものかと思いがちであるが、千代田区と一緒に劇団などを誘致しても良いのではないかな。

■生涯学習について

(留意点)

生涯学習は、人々の暮らしを豊かにするとともに、人や地域とのつながりを築く重要なものだと考える。千代田区の教育機関等との連携や、生涯学習の機会の充実を図るなど生涯学習の取組みを推進していただきたい。

留意点に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- 図書館の図書（ビジネス書等の専門書）の充実。
- 「千代田区らしさ＝大学がある」ことであると考え。千代田区の教育機関を活かして住民の学び直しを促進することは千代田区ならではの取組みであり、「人とのつながり」にも関係する。
- 千代田区は大使館も多くある環境で、外国語学校だけでなく気軽に語学を学べるサークルのようなものがあると良い。
- 教育について、大学や専門学校は充実している。
- 生涯学習が出来るような環境づくりに努めてほしい。

(3) 福祉関連

■福祉について

(留意点)

福祉に関わる課題は多岐にわたるが、近年はヤングケアラーなど家庭内の介護等の担い手といった新たな課題への関心が高まっている。当事者本人だけでなく、その家族などすべての人が健やかで自分らしく生活できるよう、相談体制の充実など必要な支援を、他自治体と連携を図りながら取り組んでいただきたい。

留意点に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- ・ 区指定の健康診断実施機関はアクセスが悪いため、比較的通いやすい台東区にかかりつけ医がいるが、千代田区と台東区で連携ができていない。他区では区の医師会同士で連携が取れているので、千代田区でも他区との連携をしてほしい。
- ・ 無料で定期健診等を受けられるなどサービスが手厚い。
- ・ 訪問看護の際に、特定の訪問看護しか選択できないという制約があるが、医者と患者の相性等もあるので、自由に選択できる仕組みづくりをしてほしい。
- ・ 身元保証人が確保できなくても安心して医療と介護が受けられるような仕組みづくりがあると良い。足立区では社会福祉協議会が身元保証人を代行するサービスがあると聞いている（高齢者あんしん生活支援事業）。千代田区でも、サービスの利用条件等を緩やかにしながら、同様の制度を検討してほしい。身元保証人制度に関して日本は他の先進国に比べ遅れている。
- ・ マイナンバーと保険証の紐づけをすることで、カバーできるところ（入院・治療に関する合意書等）もあるので、その検討も行う必要がある。
- ・ ヤングケアラーについては、自分がヤングケアラーである自覚がない場合や、親の介護をしたくないとも思っていない場合もあるが、自分の時間を確保できないことに悩みを抱えている調査結果が出ている。相談ができる相手がいることが重要だろう。
- ・ 港区では、マンションの空きスペースを活用して、看護ステーションを誘致した民間の事例がある。そのような取組みを行政が民間に紹介をすることや、助成金を支出するなどの支援をしてほしい。
 - そのような取組みは、官民連携や助成金を支出するなどの方策が取れるだろう。人々の暮らしの中に看護ステーションなどを取り込むことで、気軽に相談ができるようになるだろう。

(4) 保健関連

■健康について

(留意点)

心身の健康がともに増進されるような環境づくりに取り組んでいただきたい。まちの衛生環境に配慮し、みんなが清潔で快適に過ごせるように努めるとともに気軽に健康増進を図れるような場所についても留意いただきたい。

留意点に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- ・ ゴキブリやネズミなどの問題は、区民の不快感につながするため、清潔で快適に暮らせることが重要である。
- ・ 公衆トイレが清潔で衛生的であることは重要であり、それは区民の安全・安心につながる。

(5) くらし関連

■コミュニティについて

(留意点)

千代田区の人口は増加傾向であるが、転入してきた住民と昔から住んでいる住民、昼間区民と在住区民との間には交流する機会が少なく、つながりを築くことが困難になっている。特に、単身者や夫婦のみの世帯などは交流するきっかけが少なく、地域との関係が希薄になりやすい。千代田区の特徴を活かした交流の場を設けるなど、つながりを築くための取組みを行うことで、地域への愛着や支え合いの精神を育んでいただきたい。

留意点に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- ・ 地方に比べて千代田区は排他的な風土があると感じる。これは伝統とモダンの融合の観点からも、昔から住んでいる人々と新しく移住してきた人々がうまく交流できるようになるとよい。
- ・ 地域住民と大学との連携をより推進することで、学び、集う機会や学生との交流にもつながる。
- ・ 学校などの既存コミュニティを活用して、そのコミュニティに属していない人も楽しめるようなイベントがあると良いのではないかな。
- ・ 新住民も気軽にお祭りなどに参加ができるようなプラットフォームが必要だと考える。また、ボランティアなど出会いのきっかけを行政が積極的に周知し、少しずつ人とのつながりを形成できると良い。また、それは、単

発的な取組みではなく、継続的に取り組めると良い。

- ・ 子ども、子育て以外に繋がれるようなルートがあったら良い。
- ・ 子どもや高齢者は行政サービスのニーズが高く、比較的行政の目も行き届きやすいだろうが、単身世帯のニーズもあると思われる。単身世帯の人々が地域の活動に関わることで、結果的に子どもや高齢者に良い影響を及ぼすことができるのではないかと考える。
- ・ 昼間の人口と夜間の人口差が大きいので、そのつながりがあると良いと考える。
- ・ 人口の差が大きいことがコミュニティ形成を困難にさせているとは考えにくい。それよりも、昼間区民と在住区民の交流が少ないことがコミュニティ形成を困難にさせている。
- ・ 急激な人口増加と高齢化が原因で区内のつながりが希薄になってしまったのではないか。
- ・ 千代田区の物価は高いように感じている。昼間区民も本当は千代田区に在住したいと考えているだろうが、物価が高いため千代田区に住むことが難しいのではないか。

■生活環境について

(留意点)

地域の治安が良好であることがまちの魅力を高めることにつながるものと考え。路上喫煙対策や客引き行為の防止、騒音対策等に取り組んでいただき、誰もが安心して、暮らし続けたいと思えるような生活環境づくりに努めていただきたい。

留意点に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- ・ 暴走族の取り締まりを強化してほしい。
- ・ 「生活環境」では、路上喫煙や客引き行為に関する記載があるが、ここに騒音による被害についても触れてほしい。特に靖国神社の周辺は、騒音トラブルが多いように感じている。」
- ・ 小学生の登下校中のパトロールが良い。住宅街など比較的安全なところもパトロールしてほしい。
- ・ 神田駅周辺や秋葉原地区では治安など、あまり改善されていない。むしろ、秋葉原地区は酷くなっている。
- ・ 東京駅付近など分煙や客引き対策が完成されているところがあるが、一方で、秋葉原駅付近は15年前と比べて危険なまちになっている印象がある。お巡りさんに隠れて路上喫煙しているところを多くみており、そういう人

をアプリで通報するなどし、重点的にパトロールするような取り組みをしてほしい。

- 神田地区は、秋葉原地区と同じような状態であり、まだ改善されていない印象である。神田地区の印象が悪くなるようなSNSの発言もあった。
- 千代田区役所付近でも路上喫煙している人をたまに見かける。マンション前など私道で路上喫煙している人はなんとかならないのか。
- 秋葉原地区では先日も風営法違反や児童福祉法違反等の店舗が摘発されていた。インターネット上では「秋葉原は新しい風俗街」などと言われており、住んでいる身としては悲しい気持ちになる。

（６）まちづくり関連

■まちづくりについて

（留意点）

まちの利便性は都心である千代田区の魅力の１つである。快適に過ごすことができることは、まちの活性化の基盤ともなり、今後もバリアフリー化を進める等利便性の向上に取り組んでいただき、誇れるまちであるよう努めていただきたい。

留意点に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- 特に古くからある地下鉄駅など、エレベーターの整備が進んでいない駅にはエレベーターをつけてほしい。
- 利便性が高い。行きたいところに簡単にアクセスできて便利。
- 風ぐるまの運行本数を増やすことや無料化することで、誰でも風ぐるまを利用できるようにし、区内に一体感がでるようなまちづくりが進められると良い。

■災害対策について

(留意点)

有事に備えて、国や東京都等との連携も図りつつ、千代田区の特性を踏まえた災害対策を講じ、区民等に積極的に周知していただきたい。

留意点に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- ・ 隅田川の氾濫が起きた場合など、地域がどのようなになるのか、あまり周知されていない。
- ・ 有事の際に、国や東京都との連携が強い区になると良いのではないかな。
- ・ 東日本大震災の際に、子どもの迎えに行けず、子どもたちは自分で帰宅した。災害が起きた際の体制や、どのように子どもたちを守っていくのかをマニュアル化し、周知していくべきではないかと考える。

(7) 全般・その他

■デジタル技術の活用について

(留意点)

様々な行政分野においてデジタル化を推進し、千代田区に関わる人が様々な情報を得やすく、便利な生活をおくることができるよう取り組んでいただきたい。

留意点に関連する懇談会メンバーからの個別意見

- ・ IT を使える人とそうでない人の情報格差だけでなく、地元にながら根差していない人が地元の情報を取得できないという情報格差が起きているため、地域情報の格差を無くしていくような要素があると良いのではないかな。
- ・ 神田祭などの伝統を地域に広げるために IT のような現代的なツールを使うことが、伝統とモダンの融合の良い具体となるのではないかと考えている。

■その他

懇談会メンバーからの意見

- ・ 共生については、隣の区との連携が大切であると感じている。特徴の似ている他区との連携を強化しても良いのではないかな。
- ・ 構想の見直しの際にも、区民から意見をもらえる仕組みを構築できると良い。

5. 参考

(1) (仮称) 第4次基本構想 (たたき台)

(2) 議事要旨

(3) 団体関係者ヒアリング結果

(4) アンケート結果等

(5) 千代田区基本構想懇談会設置要綱

（１）（仮称）第４次基本構想（たたき台）

(仮称)第4次基本構想(たたき台)

はじめに

千代田区は、約 400 年にわたり、政治・経済・文化の中心として歴史を刻み、発展してきました。

しかし、昭和 30 年代の日本の高度成長期から平成初頭のバブル経済の崩壊にかけて業務地化が進み定住人口が減少した結果、地域の活力低下や自治体の存続そのものが危ぶまれる状況に至りました。

こうした社会的背景のもと、昭和 53 年6月に区として初めて策定した基本構想と、平成4年6月に策定した新基本構想では、都市の魅力を高め、人口回復に向けた政策を展開してきました。平成 12 年の国勢調査では、45 年ぶりに定住人口が増加に転じましたが、依然として千代田区に住み続けられ、住みたくなるまちをめざすことが最大の課題であるとの認識のもと、平成 13 年、定住人口 5 万人を目標とした第 3 次基本構想を策定しました。現在はこの目標を超え、当分の間、人口増加の傾向が続くことが見込まれています。

本区の人口が増加傾向にある一方、わが国の人口は減少傾向に転じ、経済など活力の低下が懸念されています。また、少子・高齢化の進展、首都直下地震、地球温暖化など、区民の命や暮らしに直結する様々なリスクが高まっています。

このような中、令和 2 年以来の新型コロナウイルス感染症の感染拡大で、私たちは未曾有の危機に直面しました。暮らしに様々な制約を受け、不安と閉塞感に包まれる中、「命」の重さと人の「つながり」の大切さを改めて強く認識させられました。そして、日々刻々と移り変わるコロナ禍にあって、私たちが当たり前だと思っていた明るい暮らしを取り戻すため、変化に対応することでアフターコロナの暮らしをめざしてきました。

私たちは、こうしたコロナ禍の経験を踏まえ、これから先の変化が激しく、不確実な世の中にあっても、リスクや環境変化に的確に対応し、持続可能な地域社会を築いていきます。そして、人生 100 年時代を迎え、基礎的な地方公共団体として、区民の命や健康を守ることを第一に、「教育と文化のまち千代田区宣言」や「国際平和都市千代田区宣言」などを踏まえ、子ども、女性、高齢者、障害者など区民が輝けるまちを実現していきます。また、デジタル技術の活用やイノベーションを通じて、環境、文化、防災、エネルギーなど、様々な分野における課題の解決に努め、アフターコロナの暮らしに明るさと豊かさを実感できる千代田の新時代を築いていきます。

ここに、千代田の新時代における将来像を明らかにした基本構想を定め、区に関わるすべての人々とともに、将来像の実現に向けて取り組んでいきます。

1 区と基本構想の役割

（１）住民に最も身近な基礎的な地方公共団体としての役割

地方公共団体は、憲法で定める地方自治の本旨に基づき、住民福祉の増進を図るために、地域における行政を自らの判断と責任において総合的に実施する役割を広く担う存在です。また、住民に最も身近な行政主体である千代田区は、東京都など、広域行政を担う地方公共団体と異なり、住民の暮らしに直接かかわる仕事を優先的に行っています。

これまで千代田区は、基礎的な地方公共団体として、自主的かつ自律的な自治体運営を進めてきました。今後も引き続き、安定的な財源の確保に取り組むとともに、自らの意思と責任で主体的に取り組める住民自治の確立をめざしていきます。

（２）基本構想の役割

基本構想は、千代田区の将来像や分野別のあるべき姿を描き、その実現に向けて進むべき方向性を示すものです。

また、区の行政計画の最上位に位置づけられる理念であるとともに、行政運営の基本となる指針です。

さらに、区民や団体、企業など、千代田区にかかわるすべての人びとと共有し、一体となって実現するための指針としての役割を持つものです。

2 めざすべき将来像

伝統とモダンがとけあい、未来に躍進するまち ～彩りあふれる、希望の都心～

千代田区は、約 400 年にわたり、政治・経済・文化の中心として歴史を刻んできました。私たちが受け継いできた伝統は、長い歴史の中で、それぞれの時代における人びとが新たな文化や価値観を取り入れ、発展してきたものであり、千代田区の魅力を高めてきました。

社会の変化が激しい時代にあっても、私たちは、先人が築いてきた伝統を大切にしながら、新たな時代における文化や価値観とも調和をはかり、未来に向け力強く躍進していきます。そして、千代田に住み、働き、学び、集うすべての人びとが輝き、彩りあふれ、将来にわたって希望に満ちた魅力あふれるまちをめざします。

3 分野別の将来像

コロナ禍を経験した私たちは、人や社会とのつながりが制限されるなかで、これまで当たり前だった日常のなかに、“普遍的な幸せ”があることを肌で感じました。

このような実体験から、私たちは、時代や社会情勢が激しく移り変わるなかにあっても、変わることのない魅力あふれる未来の姿を描き、人やまちを豊かにすることの重要性を改めて認識しました。

私たちは、今ここに「めざすべき将来像」を実現したまちと人びとの姿を掲げ、時代の変化に的確に対応しながら、その実現に向けて、果敢に挑戦していきます。

自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち

いつまでも元気で充実していること。

それはすべての「人」にとって普遍的な願いです。

その願いを叶えるため、子どもからお年寄りまで、共に支え合い、自分らしく健康に、安心して生活を送れるまちをめざします。

また、生涯を通じて心豊かに学び、成長しあえるまちをめざします。

- 多様なライフスタイルに応じて安心して子育てができています。
- すべての子どもたちの個性や意思が尊重され、すくすくと成長しています。
- 誰一人取り残されることがなく、自分らしく、自立した生活を送ることができています。
- 衛生的な環境のもと、いきいきと健康に暮らしています。
- 生涯にわたり学びやスポーツに親しむことで、充実した人生を送れるようになっています。
- 文化芸術に触れ、受け継ぎ、学んでいくことで、心が豊かになっています。

集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち

まちには「人」がいて、はじめて活気とにぎわいが生まれます。

活気とにぎわいで魅力あふれるまちには、人が集まります。

そこで育まれた人とのつながりを大切に、支え合うことができるまちをめざします。

また、地域経済を活性化させ、誰もが豊かさを享受できるまちをめざします。

- 活発な事業活動により、地域がうるおい、豊かな暮らしを享受できています。
- 人とのつながりが感じられ、支え合うことができています。

やすらぎを感じ、安心して快適に暮らせるまち

良好な環境は、「人」の暮らしを豊かにし、
災害に強い安全なまちは、「人」の安心につながります。
また、暮らし続けたいと思える住環境は、人々の誇りとなります。
皇居を中心とした自然と近代的なまち並みを活かしながら、
誰もが安心して快適にすごせるまちをめざします。

- 良好な環境が次世代に継承され、このまちに愛着や誇りを感じています。
- 人にやさしいまちづくりにより、心地よい都心生活をおくっています。
- 強靱な都市基盤や災害に備えた体制が構築され、安心して暮らすことができます。

4 基本構想の実現に向けて

(1) 変化の激しい時代への柔軟な対応

私たちは、変化が激しく将来の予測が難しい時代を迎えています。このようなかで将来像を実現していくためには、機動的な区政運営が不可欠です。このため、効果的、効率的な行財政運営に努めるとともに、新たな技術や民間活力も積極的に活用しながら、様々な課題に柔軟に対応していきます。

(2) 多様性を尊重し認め合う社会づくり

将来像を実現し、豊かな地域社会を持続可能なものとするためには、多様な価値観や考え方を尊重し、互いに認め合うことが重要です。このため、多様性を包摂する社会づくりを推進します。

また、国際都市東京の中心である千代田区として、国や文化などの多様性を尊重し、人権や平和を守る取組みを進めていきます。

(3) 参画・協働の推進

区と区民が一丸となって将来像を実現していくため、区民に対する情報発信を適時適切に行い、区政への区民の主体的な参画を推進していきます。

また、区民、事業者、他自治体など、様々な主体との連携、協働を推進し、地域課題の解決や新たな活力の創出につなげていきます。

(2) 議事要旨

千代田区基本構想懇談会 第1回全体会 議事要旨

【開催概要】

- 1 開催日時
令和4年7月25日（月）18時～20時30分
- 2 会場
千代田区役所4階 会議室A・B
- 3 出席状況
学識経験者4名中1名欠席
区民 18名中2名欠席
- 4 千代田区
樋口区長、古田政策経営部長
事務局： 夏目企画課長、沖田企画担当係長、岩森主任、落合主事、小野寺主事

【次第】

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 構成員の紹介
- 4 懇談会の設置目的と進め方について
- 5 区の現況説明
 - (1) 令和3年度 区の施策や将来像に関するアンケート実施概要について
 - (2) 令和3年度 人口推計結果について
 - (3) 区の現況にかかる関連データ集について
 - (4) 質疑
- 6 新たな基本構想の策定に向けた検討について
- 7 今後の予定
- 8 閉会

【配布資料】

- ・ 委嘱状
- ・ 資料1 : 懇談会の進め方について
- ・ 資料2 : 令和3年度 区の施策や将来像に関するアンケート実施概要
- ・ 資料3 : 令和3年度 人口推計結果について
- ・ 資料4 : 区の現況にかかる関連データ集
- ・ 資料5 : 新たな基本構想の策定に向けた検討について
- ・ 資料6 : （仮称）第4次基本構想（たたき台）
- ・ 参考資料1 : ちよだみらいプロジェクトー千代田区第3次基本計画 2015ー
- ・ 参考資料2 : 基本構想懇談会 第1回部会のトピックについて
- ・ 参考資料3 : 施策シート
- ・ 参考資料4 : 千代田区基本構想懇談会設置要綱

【議事要旨】

1 開会

2 挨拶

3 構成員の紹介

◎事務局

- ・参考資料 4 に基づき、会長及び副会長を指名

4 懇談会の設置目的と進め方について

◎事務局

- ・資料 1 に基づき説明

5 区の現況説明

◎事務局

- ・資料 2 ・ 資料 3 ・ 資料 4 に基づき説明

○区民

- ・千代田区の人口が増加する理由は何か。

◎事務局

- ・住宅供給施策や子育て支援施策の充実、民間企業がマンションを建設したこと、さらには都心回帰の影響など、複合的要因がある。
- ・土地のキャパシティには限界があるため、その点は今後注視する必要がある。

○区民

- ・資料 3 と資料 4 の 6 ページに掲載されている 2020 年～2040 年の人口推計結果について、予測値に 1 割程度差がある。どのような算出の違いで、このような差が生じているのか。

◎事務局

- ・調査の主体が、資料 3 は区、資料 4 は国立社会保障・人口問題研究所であり、使用しているパラメーターが異なることが予測値の差に繋がったと推測する。

○区民

- ・説明の中で、都心回帰の傾向があるという話があった。しかし、若い世代は、近年リモートワークが推奨され、また住宅の価格が上昇しているため、都心は住みづらく、地方に人口が流れるのではないかと考えている。千代田区では、そのような影響を感じているか。

◎事務局

- ・住民基本台帳のデータによると、2019 年以降に人口増加の伸び率が小さくなったが、直近では回復しつつある。流入人口が大きく減少しているという印象はない。影響が明らかになるまでには、もう少し時間がかかると考えられる。

○区民

- ・人口増加について、千代田区の東側と西側で異なる傾向はあるか。東側の人口の方が増えている印象がある。

◎事務局

- ・最近では東側の人口の方が伸びている。新しいマンション等が建設されたことが要因ではないかと考えている。

○区民

- ・人口・世帯に関する、外国人のデータが少ないように感じる。今後、日本全体での人口減少を踏まえると、外国人の労働力を増やす必要がある。外国人に関する人口動態のデータはあるのか。

◎事務局

- ・外国人人口に関するデータは別途管理している。ここ数年、コロナウイルスの影響で外国人の国内への流入が減少しているため、区内の在住外国人の人口も減少している。

○区民

- ・千代田区の人口が増加している原因の一つは、タワーマンションが増加し、大手不動産の誘致が上手く出来ているからだろう。
- ・その一方で、千代田区には古い分譲マンションも多くあり、そのマンションを貸出ししている人も多くいる。分譲賃貸は一般の新築賃貸よりも入居審査が緩いため、外国人や所得がそこまで高くない人でも、千代田区に賃貸マンションを借りることができるため、そのような事も千代田区の人口増加の原因となっているのではないかと。そういった観点から、区の人口増加の原因を研究してほしい。

◎事務局

- ・頂いたご意見も踏まえ、人口増加の理由については、引き続き研究していきたい。

6 新たな基本構想の策定に向けた検討について

◎事務局

- ・資料 5・6 に基づき説明

○区民

- ・分野別の将来像に記載してある「多様なライフスタイルに応じて安心して子育てができています」はどのようなライフスタイルを想定しているのか。

◎事務局

- ・働き方の多様化や、介護といった様々な事情などを踏まえたライフスタイルを想定している。

○区民

- ・東京都も同様に基本構想を策定している。東京都の構想と照らし合わせながら策定する必要はないのか。

◎事務局

- ・以前は、法律で基本構想の策定が義務付けられていたが、法律が改正され、その後、基本構想を策定するかしないかは各自治体に委ねられている。
- ・東京都については、基本構想と計画が一体化したような「未来の東京戦略」を策定している。その戦略に照らして、東京都と同じような構想を策定していく必要性はなくなっている。

○区民

- ・都と区の役割分担はあるのか。

◎事務局

- ・法律上、広域自治体である都と基礎的自治体である区には事務上の役割分担がある。時には都と区で類似した取組みを行うこともあるが、その場合目的を明確にして実施していく必要があると認識している。

○区民

- ・基本構想を策定するにあたって、千代田区の理念はあるか。

◎事務局

- ・めざすべき将来像に記載している内容が基本構想策定にあたっての理念である。これまで千代田区は伝統・歴史を受け継ぎながら、様々は変化に応じながら発展してきた。これからの社会の変化が激しい中にあっても伝統や歴史を大切にしながら、新たな文化や価値観を取り入れ、未来に躍進するまちを目指していくことを想定している。古いものを大切にしながら、新しいものを取り入れていくという「不易流行」の考え方をめざすべき将来像に据えている。

○区民

- ・基本計画を策定しないことのメリット・デメリットは何か。

◎事務局

- ・メリット：基本計画を策定するには、１～２年の期間を要する。一度策定したものは、容易には改定出来ない。計画の期間は、５年や１０年のものなどがあるが、その期間中も社会は変化し、その変化に対応していく必要がでてくる。そのような対応が積み重なると、次第に計画に記載していないような取組みを行うこととなり、計画と実際の取組みが乖離してしまうという問題点がある。そのため、今回は基本計画を策定せず、毎年の予算編成の際に、個々の取組みに中期的な方向性を示すこととする。そうすることで、分かりやすく、より社会の変化にも柔軟に対応することが可能となる。
- ・デメリット：基本計画を策定した時点では、施策等が分かりやすく整理されている。また、進捗管理という観点では、基本計画に記載のある取組みについては、分かりやすい部分がある。しかし、基本計画に代えて、中期的な方向性を示すことによって、基本計画を策定した場合と同様の対応ができると認識している。

○区民

- ・基本構想の中で、「まち」という言葉を、敢えてひらがな表記にしている理由はあるか。

◎事務局

- ・イメージの問題かもしれないが、「街」は、ハード的なイメージがあり、「町」は場所だけのイメージがある。ハード面だけでなく、人とのつながりなどソフト面であるコミュニティの意味合いも内包したいという趣旨で、ひらがなで「まち」と記載している。

○区民

- ・現基本計画である「みらいプロジェクト」を策定した理由は何か。

◎事務局

- ・平成１３年に策定した基本構想のもと、これまで３回基本計画を策定した。現基本計画策定時は、計画的な行政運営に重きを置くことの一環で、主な取組みを掲載することにより、計画上の進捗管理なども行う目的があった。しかし、社会情勢の変化の激しさなどへの対応の課題があり、計画を策定しないこととした。

○区民

- ・第３次基本構想は目標人口５万人という数値目標があり達成したことは素晴らしいと思う。これから策定する長期的な基本構想に数値目標を入れることが難しいということであれば、基本計画に設けてほしい。

◎事務局

- ・基本構想に目標年次や数値目標などを入れるかについては、懇談会の中でも議論してもらいたい。区としては、人口が増加傾向にある中で目標人口を掲げるのではなく、想定される人口を踏まえて運営していくことが望ましいと考えている。他に数値目標を設けるのであれば、この懇談会でも議論していきたい。

7 今後の予定

◎事務局

- ・参考資料２・３に基づき説明

8 閉会

千代田区基本構想懇談会 第1回部会（教育と文化部会） 議事要旨

【開催概要】

- 1 開催日
令和4年7月28日（木）18時～20時30分
- 2 会場
千代田区役所4階 会議室B・401 会議室
- 3 出席状況
学識経験者1名（欠席者無し）
区民 6名（欠席者無し）
- 4 千代田区
樋口区長、古田政策経営部長、大谷子ども総務課長
事務局： 夏目企画課長、沖田企画担当係長、岩森主任、落合主事、小野寺主事

【次第】

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 本日流れ
- 4 ディスカッション
テーマ1：千代田区の良いところ・好きなところについて
テーマ2：（仮称）第4次基本構想（たたき台）の「めざすべき将来像」について
テーマ3：現行計画における施策の振り返りについて
テーマ4：（仮称）第4次基本構想（たたき台）の「分野別の将来像」について
- 5 今後の予定
- 6 閉会

【配布資料】

- ・資料1：千代田区基本構想懇談会 第1回部会資料
- ・資料2：施策シート
- ・資料3：（仮称）第4次基本構想（たたき台）
- ・参考資料：基本構想に関する主な意見等

【議事要旨】

1 開会

2 挨拶

3 本日流れ

4 ディスカッション

《テーマ１：千代田区の良いところ・好きなところについて》

◎事務局

- ・千代田区の良いところ、好きなところについて、区民の皆さまが日頃感じることや、印象に残っていることについてご発言いただきたい。

■ 子育て・教育

○区民

- ・待機児童が少ない。

○区民

- ・教育に熱心で、公立小・中学校の教育レベルが高い。

○区民

- ・教育機関や大きな大学病院が多数ある。

○区民

- ・人口増加に伴う、公立学校のキャパシティ不足している。

○区民

- ・教育の中で男女共生社会をどのように活かして、将来の人間像をどのように作っていくか。

■ 文化

○区民

- ・洗練された美しいまち並みと昔ながらの雰囲気のまち並みの両方がある。

○区民

- ・日本武道館などの全国トップの施設がある。

○区民

- ・国や東京都の文化施設も含めて区内にある文化施設に千代田区がどの程度関与できるのかが分かりにくい。

○学識経験者

- ・様々な施設があるが、国や東京都のものなのか、それとも区の所有なのか分かりにくい。

○区民

- ・他区に比べて近代美術館など魅力の下がっている施設がある。

■ その他

○区民

- ・行政サービスが手厚い。

○区民

- ・都心へのアクセスが良い。

○区民

- ・まちがすっきりしていて綺麗である。

○区民

- ・教育や文化というより経済のまちの印象がある。

《テーマ2：（仮称）第4次基本構想（たたき台）の「めざすべき将来像」について》

◎事務局

- ・「次期基本構想」に掲げる「めざすべき将来像」について、ご発言いただきたい。

■ 伝統・文化・価値観

○区民

- ・人によって「守るべき伝統」で思い浮かぶものが異なるので、認識をすり合わせて具体化することで、その先の将来の姿もよりイメージしやすくなると思う。

○区民

- ・町会で担ぐ神輿、神田まつりなどの祭りが思い浮かぶ。

○区民

- ・文人通りは文人の旧居跡を紹介する看板が整備されている。

○区民

- ・出版、印刷や古書の文化が強みである。それらを行政としてどのように支えていくかが大事である。

○区民

- ・民間事業者にも史跡等を残していくよう行政の立場から指導してほしい。

■ 千代田区の魅力

○区民

- ・千代田区の人材は、再開発よりもまち並みを変えずに残していきたい人が多いと想像していた。

○区民

- ・千代田区にある大名屋敷、邸宅跡等の名所を広めると良い。

■ 人・調和

○区民

- ・京都を見習って歴史と現代感の融合をめざす。

○区民

- ・外観で分かりやすい伝統を維持しつつ、最先端技術を取り入れ、地域のつながりを深めていくと良い。

○区民

- ・地域のつながりや人間味があることを守りながら、発展していったほしい。

○区民

- ・地域のおじさんおばさんたちが一生懸命お世話をしてくれると盛り上がってくる。

○区民

- ・再開発をきっかけに元々の地権者が引っ越すことになれば、地域のつながりが弱くなるのが懸念される。

■ その他

○区民

- ・具体的なイメージが湧かない。

○区民

- ・白百合学園、暁星、九段中等教育学校等が集まるエリアは独特な雰囲気面白いと感じている。

《テーマ3：現行計画における施策の振り返りについて》

※施策シート 資料2

※施策 児童・生徒が安全にのびのびと成長できる環境を整えます

◎事務局

- ・施策シートは、各部会に関わる現基本計画の施策として、区民等が「重要度が高い」と回答した施策を取り上げている。施策シートに記載したデータ等参考にしながら、この施策の良い点・課題点等について、ご意見をいただきたい。

■ 「子どもの遊び場」事業について（プレーリーダーについて）

○区民

- ・すでにプレーリーダーを配置して事業を行っているのか。また、どのくらいの時間行っているのか。

◎事務局

- ・区内の公園や区の施設で、時間・場所を限定してボール遊び等が自由にできるよう「子どもの遊び場事業」を行っている。その事業の中で、時間を区切って、遊具の貸し出しや遊びの手伝い、ボール遊びができるように、「プレーリーダー」を配置する取組みを行っている。「プレーリーダー」を配置する取組みについては、通常、一般の公園ではボール遊びができないが、プレーリーダーがいる間はやわらかいボールで遊ぶことができる。場所によって異なるが、通年、週1回2時間程度、1校区に1か所ほど行っている。

○区民

- ・もっとプレーリーダーの人数や時間を増やしてもいいのではないか。土日両方行ってほしい。

○学識経験者

- ・今はものを投げる力が弱い子どもが多いため、どんどん取り入れていいのではないか。

■ 「子どもの遊び場」事業について（クラブ活動について）

○区民

- ・安い会費で剣道、サッカー、囲碁などのクラブ活動に参加できるが、クラブの先生方へのサポートが不十分だと感じている。
- ・グラウンドを借りる際の千代田区との調整が大変であったり、半分ボランティアになってしまったりしているのがかわいそうだと思う。

○区民

- ・クラブ活動の先生方への謝礼を検討してほしい。

◎事務局

- ・自主グループ活動への支援に関する意見として頂戴する。

○区民

- ・クラブ活動や習い事等の生涯学習に港区の施設を利用している人が多い。

■ 施策について

◎事務局

- ・資料2の一番下「子どもの遊び場の1か所1回あたり利用人数」は、子どもの遊び場の利用者が増えれば、より子どもがのびのびと成長できるのではないかという趣旨で、指標を掲げている。

◎事務局

- ・放課後子ども教室を運営している。学童クラブに所属していない子どもも、学校施設を活用して放課後を安全で健やかにすごせるよう「放課後子ども教室」で、学び・遊び・スポーツなどを行っている。

■ 子どもの安全確保の取組みについて（東郷公園の安全性について）

○区民

- ・東郷公園の安全性を高める必要があると考える。

○区民

- ・公園で小さい子どもがスマホやゲーム機で遊んでいると年長の子どもが奪ってしまうというような、子供同士のトラブルの話を聞く。

◎事務局

- ・トラブルがあった場合には、安全生活課や警察、学校、地域などと連携し、パトロールなどを行っている。その場でご注意いただいたり、情報をお寄せいただきたい。子どもの安心・安全確保のためには、地域での見守りも大切にしていきたい。

■ 子どもの安全確保の取組みについて（登下校のパトロールについて）

○区民

- ・小学生の登下校中のパトロールが良い。住宅街など比較的安全なところもパトロールしてほしい。

○区民

- ・以前脅迫状が届いた際に、すぐに通報しパトロールを強化するなど、危険な情報が届いた場合には速やかに対応している。子ども 110 番の家（子どもが身の危険を感じたときに飛び込んで助けを求められる住宅や店舗、事務所など）という取組みを PTA 主導で行い、側面支援を行政が行っている。

◎事務局

- ・「ちよだまちかど見守り隊」と称し、小学校・児童館の登下校時に、保護者・教職員・地域の方々と一緒に、子どもたちの見守り活動やパトロール活動を実施している。

■ その他

○区民

- ・東北大震災の際に、子どもの迎えに行けず、子どもたちは自分で帰宅した。災害が起きた際の体制や、どのように子どもたちを守っていくのかをマニュアル化し、周知していくべきではないかと考える。

○学識経験者

- ・交通安全、防災、生活安全など、幅広く考えていくことが大事である。

《テーマ4：（仮称）第4次基本構想（たたき台）の「分野別の将来像」について》

◎事務局

- ・テーマ3での議論を踏まえながら、「次期基本構想」に掲げる「分野別の将来像」についてご意見をいただきたい。

～自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち～

■社会包摂・多様性

○区民

- ・「誰一人取り残されることなく」の部分は重要である。

○区民

- ・子どもや高齢者は行政サービスのニーズが高く行政の目も行き届きやすいと思うが、千代田区は単身世帯が最も多く、単身者のニーズもあると思う。単身者が地域の活動に関わることで、結果的に子どもや高齢者に良い影響を及ぼすことができる。

■ 子育て・教育

○区民

- ・千代田区は企業が多いので、企業、国、教育の場が連携することで、子どものうちに社会で必要なことを学ぶことができるという千代田区ならではの取組みができると思う。

○区民

- ・海外の小・中学校のつながりなど、国際的なつながりを築く機会を与えることが大切だと思う。

～集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち～

■ コミュニティ

○区民

- ・子どもがいることでパパ友やママ友とのつながりがあるが、交流するきっかけがない単身者や子どもがいない夫婦とは付き合いがほとんどない。

○区民

- ・区がフォーマルな交流の場を提供するのではなく、自然体で、興味関心を通じてつながるコミュニケーションの場を増やしていけると良い。

千代田区基本構想懇談会 第1回部会（福祉と保健部会） 議事要旨

【開催概要】

- 1 開催日
令和4年7月28日（木）18時～20時30分
- 2 会場
千代田区役所4階 会議室B・401会議室
- 3 出席状況
学識経験者2名（欠席者無し）
区民 6名（欠席者無し）
- 4 千代田区
樋口区長、古田政策経営部長、佐藤福祉総務課長
事務局： 夏目企画課長、沖田企画担当係長、岩森主任、落合主事、小野寺主事

【次第】

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 本日流れ
- 4 ディスカッション
テーマ1：千代田区の良いところ・好きなところについて
テーマ2：（仮称）第4次基本構想（たたき台）の「めざすべき将来像」について
テーマ3：現行計画における施策の振り返りについて
テーマ4：（仮称）第4次基本構想（たたき台）の「分野別の将来像」について
- 5 今後の予定
- 6 閉会

【配布資料】

- ・資料1：千代田区基本構想懇談会 第1回部会資料
- ・資料2：施策シート
- ・資料3：（仮称）第4次基本構想（たたき台）
- ・参考資料：基本構想に関する主な意見等

【議事要旨】

1 開会

2 挨拶

3 本日流れ

4 ディスカッション

《テーマ1：千代田区の良いところ・好きなところについて》

◎事務局

- ・千代田区の良いところ、好きなところについて、区民の皆さまが日頃感じることや、印象に残っていることについてご発言いただきたい。

■ 治安

○区民・学識経験者

- ・夜間に外出しても大丈夫なほど治安が良い。

○区民

- ・高齢の家族が安心して生活できる。

■ 教育・文化

○区民

- ・公立学校等の教育環境が充実している。

○学識経験者

- ・子ども達の教育や運動施設等が充実している。

○区民

- ・図書館にはビジネス書があるなど図書が充実している。

○区民・学識経験者

- ・歴史的・文化的な場所が多い。

○区民

- ・美術館やイベントが充実している。

■ その他

○区民

- ・病院等の施設や公的サービスが充実し、医療従事者も多い。

○区民

- ・交通アクセスが便利。

○区民

- ・千代田区だからできること（皇居ボランティア等）があり、環境に恵まれている。

○区民

- ・まちが清潔である。

《テーマ2：（仮称）第4次基本構想（たたき台）の「めざすべき将来像」について》

◎事務局

- ・「次期基本構想」に掲げる「めざすべき将来像」について、ご発言いただきたい。

■ 伝統・文化・価値観

○区民

- ・ 伝統という保守的なイメージが強い。伝統に加えてこれからの世代と何かを作り上げていく旨の記載がほしい。

○区民

- ・ 江戸時代から蓄積してきた文化などは、千代田区特有の魅力である。そういった魅力は明確に強みとして記載した方がよい。

○区民

- ・ 常に新しいものが生み出され、それが伝統として受け継がれてきた場所という認識があってもよい。

■ 人・調和

○区民

- ・ 地域住民と大学との連携をより推進することで、学び集う機会や学生との交流にもつながる。

○区民

- ・ 学生や新社会人などと世代間交流ができる場所があるとよい。

○学識経験者

- ・ 昼間人口と夜間人口の人口差が大きいので、そのつながりがあるとよい。

■ 彩（多様性）

○区民

- ・ オフィス街が多く人が住まない閉鎖的な印象があるため、開かれたイメージを盛り込む必要がある。

○学識経験者

- ・ 質の高い様々なまちの要素が既に備わっている。将来に向けての魅力を既にある魅力からもっと引き出せるとよい。

○区民

- ・ 千代田区には個性的なまち並みが揃っており、統一感がない印象を受ける。そのような区の特徴は、在住者には魅力だが、外部には千代田区の魅力として見えにくい。

○区民

- ・ 千代田区は、既に多様なまちが混在している。皇居などの伝統だけでなく、秋葉原のように他のまち並みをイメージできるようなフレーズを入れた方がより魅力的なまちに発展していくことを伝えられるのではないかな。

■ その他

○区民

- ・ 「千代田区は、約 400 年にわたり、政治・経済・文化の中心として歴史を刻んできました。」とあるが、千代田区自体は 400 年前から存在していたわけでないので現実に即した記載にした方がよい。

○区民

- ・ 注視すべき内容、将来こうしたいという内容をはっきりさせた方がよい。

○学識経験者

- ・ 千代田区には、区民以外にも、様々な人が活動しているため、その点を基本構想にどのように反映させていくのか検討する必要がある。

《テーマ3：現行計画における施策の振り返りについて》

※施策シート 資料2

※施策 安心して医療が受けられるしくみづくりと、医療と介護の連携の推進に努めます

◎事務局

- ・施策シートは、各部会に関わる現基本計画の施策として、区民等が「重要度が高い」と回答した施策を取り上げている。施策シートに記載したデータ等参考にしながら、この施策の良い点・課題点等について、ご意見をいただきたい。

■ 施策に関して

○区民

- ・医療と介護はセットなのか。

◎事務局

- ・この施策では、医療と介護はセットで考えられている。高齢者の状態に合わせ、在宅、入院、施設入所等の動きを関係機関がスムーズに連携して支援することを意図して掲げている。

■ みらいプロジェクトに掲げた資料に関して

○区民

- ・高齢者総合サポートセンターは既に設置されているという理解で問題ないか。

◎事務局

- ・九段坂病院に合築する形で高齢者総合サポートセンターを設置しており、医療と介護の拠点施設としての役割を担っている。

○区民

- ・「訪問診療の実施している医療機関数」は、初期値・中間値・見直し時と現状は理解できるが、目標値を確認すると後退しているように思える。

◎事務局

- ・当初目標値（R1 年度：10 か所、R6 年度：15 か所）は H30 年度に達成している。

■ 包摂的な医療制度構築

○区民

- ・区指定の健康診断実施機関はアクセスが悪いため、比較的通いやすい台東区にかかりつけ医がいる。しかし千代田区と台東区では医療連携が取れていない。他区では区の医師会同士で連携が取れているので、千代田区でも他区との連携をしてほしい。

○区民

- ・訪問医療に関しては、コロナの影響で高齢者だけのものではなくなったため、その点も踏まえていく必要がある。

○区民

- ・訪問看護の際に、特定の訪問看護しか選択できないという制約があるが、医者と患者の相性等もあるので、自由に選択できる仕組みづくりをしてほしい。

○学識経験者

- ・介護保険の地域密着型サービスでは、隣の区と協定を結び、区境に住む方にも滞りのないサービスが受けられるような仕組みがある。医療や保健福祉においてもそのような配慮が必要と考える。包摂的なコミュニティをつくるには、行政サービスが包摂的な考え方になり、地域の団体と話し合いをして取り組むことが重要である。
- ・「医療」というと、高齢者の生活を支えるという印象を受けるが、今後はあらゆる世代・あらゆる立場の人を対象に支援していく必要がある。

○区民

- ・千代田区は、高校生まで医療費の補助があり、そのような施策は千代田区に住むことの魅力に繋がる。高齢者だけではなく子どもへの視点も忘れずに検討を進めてほしい。

■ 医療と介護の連携について

○区民

- ・この施策は、平成 27 年作成のためコロナを想定していなかったが、現在は、「安心して医療が受けられる」という点を重視する人が多いと予想される。今後、アンケートを実施する際は、医療と介護を分けた方がよいのではないかな。

◎事務局

- ・前回のアンケートからコロナにより状況が変わったため、新たに発生したことに対応していく必要はあると考える。次期構想の下では、テーマごとに計画的に実施していきたい。

■ 身元保証人に関して

○区民

- ・身元保証人が確保できなくても安心して医療と介護が受けられるような仕組みづくりがあると良い。足立区では社会福祉協議会が身元保証人を代行するサービスがあると聞いている。千代田区でも、サービスの利用条件等を緩やかにしながら、同様の制度を検討してほしい。身元保証人制度に関して日本は他の先進国に比べ遅れている。
- ・ふるさと納税により 23 区の納税額が減少していると聞いている。千代田区への納税額に応じポイントを貰える制度を構築し、そのポイントを預託金の支払いなどにポイント還元できるような取り組みも考えられる。

○区民

- ・身元保証人は、患者の容態が変わった際などに、今後の対応を判断する役割も担うため、必要だと思うが、保証人がいないと入院ができないといったことがないように区からも支援してほしい。

○区民

- ・千代田区は、高齢者になると、転出してしまう傾向なのか。

◎事務局

- ・人口推計の分析では、60 歳の方の移動の傾向が見られる。千代田区は、給与住宅が多いため、定年退職で給与住宅から転出する人がいると推察される。

○区民

- ・マイナンバーと保険証の紐づけをすることで、カバーできるところ（入院・治療に関する合意書等）もあるので、その検討も行う必要がある。

《テーマ4：（仮称）第4次基本構想（たたき台）の「分野別の将来像」について》

◎事務局

- ・テーマ3での議論を踏まえながら、「次期基本構想」に掲げる「分野別の将来像」についてご意見をいただきたい。

～自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち～

■健康・医療

○区民

- ・高齢者に重きが置かれているが、外国人のことが想定されていない。外国人のことも想定すると開かれた区政であるとアピールできるのではないか。

○区民

- ・健康とあるが、身体的な健康だけでなく「精神」の健康の要素も盛り込んでほしい。

○学識経験者

- ・構想は抽象的な内容になるかと思うが、次の具体的な計画につなげていくにあたり、どういう意図で一つ一つの言葉を使用しているのかを意識していく必要がある。例えば、「健やか」・「健康」という言葉は、WHOで「身体・精神・社会的にバランスが取れている状態」と定義されている。行政の計画として、そのような言葉の定義とも連動しながら検討を進めた方が良い。

■社会包摂・多様性

○学識経験者

- ・「○多様なライフスタイル～」と「○すべての子どもたちの～」については、子育てと子ども時代のことは詳細に記載されている一方で、それ以外のライフステージが記載されていない。どんな人、どんなライフステージであったとしても、孤立せずに繋がりを持てることが重要である。「集い」の意味を幅広く捉えた方が良いと思う。また、中にはゆるやかに繋がりたい人もいるため、繋がり方についても幅を持たせた方がよい。

○学識経験者・区民

- ・多様性が認識・尊重される必要がある。その先には、自分らしく生きることができる社会の実現があると思う。

■その他

○区民

- ・もう少し内容に具体性を持たせた方がよい。

○区民

- ・物理的にも身体的にも平和を保てるような内容にしてほしい。

○区民

- ・「普遍的な幸せ」とあるが、人によって普遍的な幸せは異なるため、記載内容を変更した方がよい。

○区民

- ・将来像を掲げるにあたっては、「自分らしく」という言葉はキーフレーズになっていると思う。

千代田区基本構想懇談会 第1回部会（くらしとまちづくり） 議事要旨

【開催概要】

- 1 開催日
令和4年7月28日（木）18時～20時30分
- 2 会場
千代田区役所4階 会議室B・401 会議室
- 3 出席状況
学識経験者1名（欠席者無し）
区民 6名中1名欠席
- 4 千代田区
古田政策経営部長、小玉コミュニティ総務課長
事務局： 夏目企画課長、沖田企画担当係長、岩森主任、落合主事、小野寺主事

【次第】

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 本日流れ
- 4 ディスカッション
テーマ1：千代田区の良いところ・好きなところについて
テーマ2：（仮称）第4次基本構想（たたき台）の「めざすべき将来像」について
テーマ3：現行計画における施策の振り返りについて
テーマ4：（仮称）第4次基本構想（たたき台）の「分野別の将来像」について
- 5 今後の予定
- 6 閉会

【配布資料】

- ・資料1：千代田区基本構想懇談会 第1回部会資料
- ・資料2：施策シート
- ・資料3：（仮称）第4次基本構想（たたき台）
- ・参考資料：基本構想に関する主な意見等

【議事要旨】

1 開会

2 挨拶

3 本日流れ

4 ディスカッション

《テーマ1：千代田区の良いところ・好きなところについて》

◎事務局

- ・千代田区の良いところ、好きなところについて、区民の皆さまが日頃感じることや、印象に残っていることについてご発言いただきたい。

■ 行政・施策

○区民

- ・財政基盤が安定している。

○区民

- ・無料で定期健診等を受けられるなどサービスが手厚い。

○区民

- ・給付金・児童手当など話題性のある施策を打ち出している。

○区民

- ・サブカルチャーを利用したまちおこしなど話題性がある。

○区民

- ・比較的公立の小中学校の質が高い。

■ 地勢・まち並み

○区民

- ・土日に車が少なく暮らしやすい。

○区民

- ・東京駅付近は治安が良くて安心感がある。

○区民

- ・道路が広く整備され、また、新幹線や飛行機も利用しやすく交通の利便性が高い。

○区民

- ・坂が少なく平ら。

○区民

- ・たくさんの近代建築が保存されている。

○区民

- ・江戸城内に住んでいるという感覚があってよい。

《テーマ2：（仮称）第4次基本構想（たたき台）の「めざすべき将来像」について》

◎事務局

- ・「次期基本構想」に掲げる「めざすべき将来像」について、ご発言いただきたい。

■ 伝統・文化・価値観

○区民

- ・「伝統とモダンがとけ合う」という表現は気に入っている。「伝統とモダンが調和する」という表現にするのも良い。

○区民

- ・「伝統とビジネス」という表現を使うと差別化でき、千代田区らしい表現になると思う。

○区民

- ・一方で、ビジネスというよりは、条例にもあるとおり、文化や教育についての印象も強い。

○区民

- ・皇居の存在で江戸時代の伝統のイメージはあるが、上野エリアと比較すると弱い。もっと歴史や伝統を強調してほしい。

■ 彩（多様性）

○区民

- ・「働き、学び、集う」とあるが、千代田区は国籍・性別・障害など多様性にあふれていると思う。もっと具体的に記載したほうが良いのではないかな。

■ 千代田区の将来

○区民

- ・千代田区は既に躍進しているので「躍進し続ける」とした方が、希望があって良い。

○区民

- ・他の市町村と比べ、ある意味ゴールに近いのは千代田区であり、「もう少しでそのゴールに手が届く、理想ではなく実現できる。」ということ表現したい。

■ その他

○区民

- ・基本構想に期限はあった方がよく、その期限によって記載内容もかわってくるのではないかな。

○区民

- ・構想の内容が抽象的で、なにをしていくのかわからない。

○区民

- ・安全安心に生活できるなど、長期的に住み続けられるという持続可能性についても触れた方が良いのではないかな。

○区民

- ・説明文がなければ「千代田」だと分らない。

○区民

- ・千代田区は大企業が集積し、歴史もあるなど理想的な都市である。「日本を牽引していく」「日本のモデルケースをめざす」「N01、模範的である」という思いを描いてはどうか。

《テーマ3：現行計画における施策の振り返りについて》

※施策シート 資料2

※施策 清潔で、風格ある、安全・安心なまちづくりを進めます

◎事務局

- ・施策シートは、各部会に関わる現基本計画の施策として、区民等が「重要度が高い」と回答した施策を取り上げている。施策シートに記載したデータ等参考にしながら、この施策の良い点・課題点等について、ご意見をいただきたい。

■ 施策に関して

○区民

- ・概ね達成されているものが多いという印象を受けた。良い意味で伸びしろがないので、もっと高い目標にしてもいいかもしれない。

○区民

- ・施策の達成状況は、千代田区内でもエリア差があるだろう。例えば、神田地区や秋葉原地区では治安など、あまり改善されていないように思う。むしろ、秋葉原地区は酷くなっている。

■ 路上喫煙・分煙等について

○区民

- ・東京駅付近など分煙や客引き対策が完成されているところがあるが、一方で、秋葉原駅付近は15年前と比べて危険なまちになっている印象がある。お巡りさんに隠れて路上喫煙しているところを多くみており、そういう人をアプリで通報するなどし、重点的にパトロールするような取り組みをしてほしい。

○区民

- ・神田地区は、秋葉原地区と同じような状態であり、まだ改善されていない印象である。神田地区の印象が悪くなるようなSNSの発言もあった。

○区民

- ・千代田区役所付近でも路上喫煙している人をたまに見かける。マンション前など私道で路上喫煙している人はなんとかならないのか。

◎事務局

- ・私道は条例の対象外になっているが、路上喫煙防止の協力を要請している。路上喫煙が多い地域を指導員が巡回しているので気になる地域があれば区役所に連絡してほしい。

■ その他

○区民

- ・秋葉原地区では先日も風俗が摘発されていた。インターネット上では「秋葉原は新しい風俗街」などと言われており、住んでいる身としては悲しい気持ちになる。

○区民

- ・駅周辺や繁華街の落書きについて、どのような対策をしているのか。

◎事務局

- ・駅を中心に年2回ほどパトロールを行っており、そこで見つけた落書きを消している。

《テーマ4：（仮称）第4次基本構想（たたき台）の「分野別の将来像」について》

◎事務局

- ・テーマ3での議論を踏まえながら、「次期基本構想」に掲げる「分野別の将来像」についてご意見をいただきたい。

～やすらぎを感じ、安心して快適に暮らせるまち～

■ やすらぎ・緑化

○区民

- ・「やすらぎ」にはいろいろな意味が含まれているようだが、例えば「自然環境」のように、もっとストレートに伝わるような表現にしてはどうか。

○区民

- ・千代田区には皇居があるため緑が多いという印象を抱くが、神田地区や秋葉原など自然があふれているとは言えない。

○区民

- ・バランスよく公園を設置したり、民間企業と協力して緑化に努める必要がある。

○区民

- ・身近な緑は必要だと思う。再開発したエリアは緑が多く配置されていて良い。

■ 移動交通

○区民

- ・コミュニティバスやレンタサイクルなど、交通に関しても触れてほしい。

○区民

- ・移動とバリアフリーなど区民が移動に困らないようにするニュアンスがほしい。

■ 防犯・防災

○区民

- ・神田や秋葉原は古いビルが多く、ビル間が狭いため、火災が起こった際に被害が甚大になる可能性がある。

○区民

- ・帰宅困難者の問題では、区内には広い校庭など大きな避難所がない気がする。

■ その他

○区民

- ・構想に個別具体的内容を書くことが無理なのであれば、このフレーズでいい気がする。

○区民

- ・めざすべき将来像にある「伝統」に関する表現が、分野別の将来像においては抜け落ちている。

○区民

- ・分野別の将来像の3つの区分が分かりにくい。重なり合っている部分も多いように感じる。

千代田区基本構想懇談会 第2回全体会 議事要旨

【開催概要】

- 1 開催日時
令和4年8月29日（月）18時～20時30分
- 2 会場
千代田区役所4階 401・402会議室
- 3 出席状況
学識経験者4名（欠席者無し）
区民 17名中1名欠席
- 4 千代田区
古田政策経営部長
事務局： 夏目企画課長、沖田企画担当係長、岩森主任、落合主事、小野寺主事

【次第】

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 報告
 - ・第1回部会の振り返り
 - (1) 千代田区の良いところ・好きなところ
 - (2) めざすべき将来像について
 - (3) 分野別の将来像について
 - ・ヒアリング結果等について
 - (4) 団体関係ヒアリングの結果について（別紙1）
 - (5) 意見公募の結果について（別紙2）
 - (6) 職員アンケートの結果について（別紙3）
- 4 説明
 - (1) 提言書について
- 5 協議
 - (1) めざすべき将来像について
 - (2) 分野別の将来像について
 - (3) その他
アはじめに・区と基本構想の役割
イ基本構想の実現に向けて
ウ構造等について
- 6 今後の予定
- 7 閉会

【配付資料】

- ・資料1 : 第1回部会の振り返り・協議事項
- ・資料2 : （仮称）第4次基本構想（たたき台）
- ・別紙1 : 団体関係者ヒアリングの結果について
- ・別紙2 : 意見募集の結果について
- ・別紙3 : 職員アンケートの結果について

【議事要旨】

1 開会

2 挨拶

3 報告

・第1回部会振り返り

(1) 千代田区の良いところ・好きなところ

(2) めざすべき将来像について

(3) 分野別の将来像について

◎事務局

・資料1に基づき説明

○学識経験者

・生涯学習は、すべての区民が学び続けられる、というニュアンスを強調できると良い。

・ヒアリング結果等について

(4) 団体関係ヒアリングの結果について

◎事務局

・資料1、別紙1に基づき説明

(5) 意見公募の結果について

◎事務局

・資料1、別紙2に基づき説明

(6) 職員アンケートの結果について

◎事務局

・資料1、別紙3に基づき説明

4 説明

(1) 提言書について

◎事務局

・資料1に基づき説明

5 協議

(1) めざすべき将来像について

○学識経験者

・資料1に基づき説明

○区民

・団体関係ヒアリングや意見公募等の結果は、しっかりと読み込んだ上で意見を発言したい。
懇談会当日に資料配布され、短時間で資料を読みこんだ上で、発言することは難しい。

○区民

- ・千代田区らしさを表現するためには、具体的な地名を取り入れた表現とすると良い。ただし、どの地名を具体的に盛り込むべきなのかについては慎重な議論が必要である。

◎事務局

- ・提言書を作成するにあたり、委員の皆様の意見を一つに集約することは困難であるため、様々な意見をいただきたい。

○区民

- ・「共生」とあるが、例えば、たばこについては、喫煙者と非喫煙者の共生はどのような事を想定しているか。また、「多様性」は包括的な表現であり、今回の構想において多様性とは何を想定しているのか、明示すべきなのではないか。まちづくりについては、現在の区の方針性は、人口を増やすために、ビルを高層化することに一本化されている。また、千代田区の「緑」は、皇居周辺の緑地や街中の街路樹が主であると思うが、街路樹への区の認識はどうなっているのか。そのような問題も含め、将来的な千代田区の在り方を示してほしい。

○区民

- ・共生については、隣の区との連携が大切であると感じている。例えば、霞が関、永田町、皇居、丸の内のようなエリアは日本のトップとしての自負を持って良いと思うが、特徴の似ている他区との連携を強化しても良いのではないか。例えば、神田エリアの雰囲気は墨田区と似ている。また大学が多いという点では文京区と特徴が似ている。そういった特徴の似ている他区との連携を強化するべきではないか。また、有事の際に、国や東京都との連携が強い区になると良いのではないか。

○区民

- ・ジェンダーの観点が抜けているように感じる。団体関係者ヒアリングのp.9にも、「ジェンダーという言葉が出てこないことにも違和感を覚える」とある。また、意見公募結果においても、性風俗店に対する規制を求める意見が上がっている。前回のくらしとまちづくりの部会でも、秋葉原が新しい風俗街と思われるのが悲しいと問題提起した。日本はジェンダーギャップ指数が低い、千代田区は外国人が多く訪れる街なので、海外に恥ずかしくないような取り組みを取り入れてほしい。

○区民

- ・職員アンケートの結果にも記載されているが、モダンという表現はわかりにくい。神田明神ではアニソン盆踊りを実施しており、日本の伝統と現代文化の融合であるように感じ、そこが千代田区の良さであると感じた。

○区民

- ・「モダン」は「現代」という意味で使用していると思われるが、歴史の区分としては、現代は、「ポストモダン」と呼ばれることもあるため、分かりづらく、別の表現に変えた方が良い。また、溶け合うという表現は、既にある文化や規範に、外から来た人たちを適応させるイメージがあるため、「共存」などの表現の方が良いのではないか。

○区民

- ・なぜ「モダン」だけ、日本語ではなく外来語を使用しているのか。日本語で言い換えられると良い。また、「未来」のニュアンスを入れられると良い。また、溶け合うのではなく、それぞれの良いところを取り入れるイメージの方が良いのではないか。

(2) 分野別の将来像について

○区民

- ・分野別の将来像の「自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち」の中で、「こどもからお年寄りまで」という表現があるが、年齢だけでなく、人種や性別などの観点からも多様性を表現できると良い。

○区民

- ・区が多様性やジェンダーなどをどのように捉えているのか、しっかりと構想に示されたものに対して、懇談会の委員が意見を述べることで、双方向的な議論となり、懇談会も活気が出るのではないか。

○区民

- ・分野別の将来像のうち、「自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち」と「集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち」は千代田区の個性を感じられない。例えば、「自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち」については、財政力があること、「集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち」については、神田明神に集う様子などを反映出来たらよいのではないか。

○区民

- ・「集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち」で、IT化について触れてほしい。区のHPでは地元の祭りの情報などが見つからないことを問題に感じている。「人とのつながりを、ITを駆使して大切にし～」とすると、人とのつながりが広がるのではないか。

○区民

- ・ITを使える人とそうでない人の情報格差だけでなく、地元にながら根差していない人が地元の情報を取得できないという情報格差が起こっているため、地域情報の格差を無くしていくような要素があると良いのではないか。例えば、神田祭に参加したくても、自分がどこの町会に属しているのかもわからない。既存の地域コミュニティに入りづらい障壁をなくしてほしい。

○区民

- ・神田祭の区民パスを広報紙やホームページから取得できるようにすることで、区民としてお祭りに参加しているという意識を生み出すことができるのではないか。

○区民

- ・前回の部会で出た話だが、神田祭などの伝統を地域に広げるためにITのような現代的なツールを使うことが、伝統とモダンの融合の良い具体となるのではないか。分野別の将来像に千代田区らしさを出すためには、ビジネスの要素を打ち出しても良いのではないか。歴史と文化のあるまちは沢山ある一方で、ビジネスが集積しているのは千代田区が圧倒できる点である。「集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち」にビジネスの要素を追加しても良いと思う。また、「子どもからお年寄り」という表現は限定的で多様性を感じない。ダイバーシティ

ーアンドインクルージョンの考え方に沿い、多様な存在を認めるというニュアンスを追加できると良い。

○区民

- ・写真や絵で千代田区らしさを表現すると良いのではないかと。町会の様子を写真で紹介すると、「こうしたら地域を活性化できる」というイメージにつながるのではないかと。

○区民

- ・古い時代の千代田区と、現在の千代田区は様相が違い、住民も異なっている。歴史的な経過を踏まえて、今後の千代田区の将来像を示すべきではないかと。千代田区が考えている将来像は、言葉としては理解できるが、実態としてはどうなのか。今後千代田区の人口規模をどうしていくのか構想からは読み取ることが出来ない中で、まちづくりの議論をしても、今後も住みたいと思える千代田区をイメージすることができないのではないかと。構想策定にエネルギーを割いているが、本来は目指すまちの理念があり、その下に基本構想、基本計画、実施計画という段階を踏めば、スムーズなのではないかと。

◎事務局

- ・理念が見えないという意見に対しては、本日の資料 2 で基本構想のたたき台を示しているが、理念については、たたき台の各部分に盛り込んでいる。人口については、千代田区は当面、人口が増加すると推計されている。新しい基本構想では目標人口を設定せずに、想定される人口に対応していくこととする。現在の千代田区の人口は 6 万人を超えている中で、目標人口の適正な水準を設定することは難しい。仮に適正人口を設定したとしても、人口を増やすための施策は考えられるが、適正人口を超えた場合に人口を減らすための施策を打つことは難しいと考えている。

○区民

- ・千代田区の面積で人口を増やすためには、建物を高層化する他ない。区としては、高層の建物を今後も増やす方針なのか。基本構想たたき台は、庁内全体で検討したとのことだが、理念はどこなのか他部署に問い合わせると、それぞれで意見が異なっているようである。千代田区の理念が軸としてあれば、構想を策定することは困難ではないだろう。千代田区の理念は、「教育と文化のまち千代田区宣言」と「国際平和都市千代田区宣言」を基本に千代田区の自治を検討すれば良いのではないかと。また、自治は区民参画が前提であり、区民の賛成意見・反対意見をうまく調和させることで成り立つものであると考えている。

○区民

- ・一般的には人口は増加した方が良く考えるが、無尽蔵に高層ビルを建設すれば良いという話ではないため、バランスが難しいだろう。また、人口が増加するほど、安全であることがより大切になる。自然災害が多発している中で、千代田区は水害に対処できるのか疑問である。そのため、「やすらぎを感じ、安心して快適に暮らせるまち」の中に、これからの自然災害に対処すると同時に持続可能な社会を作ることの要素として加えられると良いのではないかと。

○区民

- ・単に転出・転入による人口の増加ではなく、出生率が上がると良いのではないかと。現在、千代田区には様々な子育てに関するサービスがあるが、自分が子どもを産む将来もそのようなサービスが持続しているのか不安に感じる。「ライフプランを構築しやすい」や「子どもを

産みたくなる」といった観点を「自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち」に盛り込んでほしい。

○区民

- ・3つの分野別の将来像の粒度感が異なっている。「やすらぎを感じ、安心して快適に暮らせるまち」は具体的だが、「自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち」・「集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち」は抽象的であるため、3つの分野別の将来像の粒度を揃えた方がよい。

○学識経験者

- ・文章の粒度は、そのまま議論の粒度にもつながる。将来像を具体化しすぎると長期的に活用しづらいものになることが懸念されるため、粒度感は揃える必要があるだろう。構想を長期的に使用するためには、今後生まれる子どもやこれから子ども産もうとしている人にも配慮すること、さらには、今は発言権を持たない未成年者の立場にも立って検討することも必要である。

○学識経験者

- ・千代田区は、エリアによって個性があることが特徴であり、懇談会の中でも委員の住居エリアによって、意見が異なっているようにも感じた。また、懇談会では、比較的、在住者の視点で議論をしているが、千代田区には昼間人口が多い地域もある中で、特定の地域には当てはまるが、別の地域では当てはまらないといったことが無いように構想を検討していく必要がある。

○学識経験者

- ・区民が主体的に発言し、トップダウンからボトムアップに変革するための議論が懇談会の場で展開されていくことを期待している。構想の「はじめに」の中で、「千代田の新時代を築く」とあるが、千代田の新時代とは具体的に何なのか考えることも重要であると考えます。

(3) その他

ア はじめに・区と基本構想の役割

イ 基本構想の実現に向けて

○区民

- ・「はじめに」の「千代田区は約400年にわたり・・・」という表現は間違っている。また、「子ども、女性、高齢者、障害者など」とあるが、ジェンダーマイノリティや外国人についても触れてほしい。「基本構想の実現に向けて」では、「国際都市東京の中心である千代田区として、国や文化などの多様性を尊重し」とあるが、ここでの多様性は日本人・外国人といった国籍を指していると思われるが、千代田区に既に存在するその他の多様性を無視しているように思われる。そのため、「はじめに」の多様性と同様にジェンダーマイノリティや障害者なども位置付けてほしい。

○区民

- ・「はじめに」が長すぎる。「私たちは～」以降の2段落だけでよいのではないかと。

○区民

- ・20年前と現在の大きな違いは、「多様性」、「国際化」、「IT化」であり、その3点が内包されていると良いのではないかと。

○区民

- ・「生み育つ」、「生まれ育つ」といった要素がこの構想では見受けられない。今後、千代田区として、転入で人口を増やしていくのか、それとも、千代田区で産まれる子どもを増やし、人口を増やしていくのか、区のスタンスを示した方が良いのではないか。

○区民

- ・昔から千代田区に在住している身として、これ以上人口を増やしてほしくないということを発言しているわけではないが、誰もが住みやすい社会として、千代田区の面積に対し、どの程度の人口が適切なのか構想で示してほしい。千代田区の子どもたちが、「空は四角い」と感じていることを知り残念に感じた。次の世代を産み育てるならば、面積に対する適切な人口が示されるべきなのではないか。

○区民

- ・区内で子どもが産まれることで人口が増加する考え方の方が望ましいと思う。

○区民

- ・高校授業料無償化や児童手当になどについては、千代田区民は所得制限で対象外となる人が多いと思う。対象外となってしまった人に対しても、都や国の施策とは別に、区の支援があるとありがたい。

○区民

- ・「はじめに」の「区民の命や健康を守る」については、区民ではなくとも区内で活動する人も含まれるようにするべきである。

○区民

- ・国で歯科健診の無償化が検討されているが、千代田区では以前から歯科健診の無償化施策は実施されており、それを国が模倣しているように感じた。同様に、モデルケースになれるような区を目指すという視点を区には持ってほしく、そのような内容を「はじめに」の中に入れても良いのではないか。

○区民

- ・社会的につながりがない人についても触れた方が良いのではないか。

ウ 構造等について

○区民

- ・「次期計画の構造案」について、予算の前には計画があるはずなので、予算の概要ではなく「計画&予算の概要」とした方が分かりやすいのではないか。

◎事務局

- ・次期基本構想の下では、基本計画をなくし、中期的な取組みの方向性を「予算の概要」に記載していくため、「予算の概要」は、実態としては計画&予算に近づいていく。
- ・資料の構造を示す図で、三角形に記入されているものは資料名で、グレーの四角に記入されているものが具体内容である。
- ・「予算の概要」は、これまでは次年度の具体的な事業とその方針を記入していた。

○学識経験者

- ・「その他の指標」では、「各部門で所管する個別計画の中で～」とあるが、個別計画が図に記載されていない。

◎事務局

- ・個別計画は基本構想を補完するものと位置付けている。個別計画の中で、具体的な事業や数値目標を記載している。図で示すとすれば、基本構想と予算の概要の図がある横に位置付けられ、基本構想を補完するようなイメージである。

○学識経験者

- ・図に記載されていた方が分かりやすいので、記載することを検討していただきたい。

○区民

- ・興味のある区民にとっては、基本構想と予算の概要の関係は理解できるが、実際にはそこまで理解している区民はそれほど多いとは思えない。予算の執行の在り方に問題がある場合、区民の意見がどう反映されていくのか、図の中で位置づける必要があると考える。

○区民

- ・基本構想は今後見直さないのか。

◎事務局

- ・10年を目途に見直す予定である。また、社会情勢の変化や首長の交代などによっては、10年を待たずに見直すこともある。

○学識経験者

- ・構想の見直しの際にも、区民から意見をもらえる仕組みを構築できると良い。

○学識経験者

- ・社会情勢の変化に伴って見直すこともあり、その際には区民の意見も伺う旨を明記できると安心感があると思うので、ご検討いただきたい。

○学識経験者

- ・基本構想をどれくらいの期間使うのかが気がかりである。今後長期的に使うものとして、一つ一つの言葉遣いを慎重に検討する必要がある。例えば、「人生100年時代」という表現を使用しているが、どのような意味合いで使用するかなど検討する必要がある。また、SDGsとの関連については、SDGsの中には「責任」という言葉が使用されているが、基本構想においても「責任」という言葉を取り入れるのか、検討が必要である。

7 今後の予定

◎事務局

- ・参考資料2・3に基づき説明

8 閉会

千代田区基本構想懇談会 第2回部会（教育と文化部会）

議事要旨

【開催概要】

- 1 開催日
令和4年9月2日（金）18時～20時00分
- 2 会場
千代田区役所4階 会議室A・B
- 3 出席状況
学識経験者1名（欠席者無し）
区民 6名（欠席者無し）
- 4 千代田区
古田政策経営部長
事務局： 夏目企画課長、沖田企画担当係長、岩森主任、落合主事、小野寺主事

【次第】

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 報告
属性別アンケート等の結果（子ども・高齢者・女性・障害等のある方）
- 4 協議
めざすべき姿について
- 5 今後の予定
- 6 閉会

【配布資料】

- ・資料1 : 属性別アンケート等の結果報告・本日の協議事項
- ・資料2 : （仮称）第4次基本構想（たたき台）
- ・別紙1 : 子ども・高齢者・女性・障害等のある方意見報告書

【議事要旨】

1 開会

2 挨拶

3 報告

(1) 属性別アンケート等の結果

◎事務局

- ・資料1に基づき、説明。

○区民

- ・4属性をピックアップした理由は何か。

◎事務局

- ・行政サービスの対象分野別の分類が必要と考えた。

○区民

- ・属性に属さない人はどうするのか。

◎事務局

- ・属性に属さない人は、第1回全体会で全体アンケートの結果において、全体の傾向として報告した。

○区民

- ・ピックアップしたものと全体と比較してどうなのか。他の情報との比較ができない。

◎事務局

- ・子どもの場合、千代田区のイメージで「教育が充実したまち」、「快適で便利なまち」などが出ているが、「治安のよいまち」については全体に比べて低い。また、「教育の充実」については、子どもは高い水準だが、全体ではさほど高い水準ではない。10年先の望む千代田区の姿については「住環境に恵まれたまち」が全体に比べて高い水準になっている。高齢者や女性の場合、両設問の上位・下位の意見はともに概ね全体と一致している。障害のある方の場合、アンケートの種類が異なるため、割愛させていただく。

○区民

- ・「平等に活躍できるまち」について水準が低いように見える。施策に活かされればもっと水準も上がってくると思う。

4 協議

・めざすべき姿について

(1) 自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち

■多様なライフスタイルに応じて安心して子育てができています

○区民

- ・具体的なイメージがつかない。

○区民

- ・「多様なライフスタイル」と「子育て」が結びついていない。

○区民

- ・「ライフスタイル」、「子育て」、「安心」の言葉が結びつかない。

○区民

- ・子育て支援をはじめ、いろいろな行政サービスがあるが、収入により受けられるサービスの制限もあると考えると恩恵を受けている人はそこまで多くないと思われる。

○区民

- ・「ライフスタイル」ではなく「ライフステージ」、「安心」ではなく「充実」に変更して、「ライフステージに応じて充実した子育て」に変更すべきではないか。

○区民

- ・共働きやシングルの方もいるので、それを踏まえた表現が良いと思う。「ライフスタイル」は残し、「ライフスタイル・ライフステージ」に変更するのはどうか。

○学識経験者

- ・充実した子育てができ、個性を尊重しながら子どもと一緒に成長するという意味を含めて、「多様なライフスタイル、ライフステージに応じて充実した子育てができています」という修正を検討しても良いだろう。

■ すべての子どもたちの個性や意思が尊重され、すくすくと成長しています

○区民

- ・「意思」とは具体的に何を指すのかわからない。個性や意思は勝手に育つわけではないため、個性や意思を「育む・育てる」や「考える力を伸ばす」という表現に変えた方が良いと考える。

○学識経験者

- ・「平等」という言葉が大事なポイントになる。一人ひとりの子どもに合った個性や意思を尊重できる機会を与えられることが必要である。

■ 生涯にわたり学びやスポーツに親しむことで、充実した人生を送れるようになっています

○学識経験者

- ・教育機関が多い地域性を活かして住民の学び直しを促進することは千代田区ならではの取組みであり、「人とのつながり」にも関係する。

○区民

- ・千代田区は大使館も多くある環境で、外国語学校だけでなく気軽に語学を学べるサークルのようなものがあると良い。

○区民

- ・国際的な交流ができる場があるとよいと思う。

○学識経験者

- ・国際的な学びの場や文化的な施設といった地域性を活かした内容が盛り込まれると良いかもしれない。

○区民

- ・国際的な面も強いことや地域に大学が点在していることも特徴だと思う。大学との連携を構想に入れ込めれば千代田区らしさが出てくると思う。

○区民

- ・千代田区の公民館は施設、部屋の数少なく、コンスタントに予約を取りにくいそうなので、その点が充実すれば、他区のように、在住在勤に限らず交流が深まる。音楽、書道、美術やスポーツ等、長く活動が続けられるようになると良いと思う。

■文化芸術に触れ、受け継ぎ、学んでいくことで、心が豊かになっています

○区民

- ・区民自身が、区内に文化財があることを理解して大事にしていく姿勢を、行政が育んでもらえれば、文化財を保護する1つの要因になると思う。文化財を保護し、いかに伝えていくかということを基本構想の中に活かしてほしい。

○区民

- ・東京都とともに文化財を保護していく姿勢も大切だと思う。

○区民

- ・日比谷図書文化館には「風ぐるま」が巡行していない。歴史的な収蔵物がある場所には風ぐるま等で行けるようにしてほしい。

○区民

- ・文京区のコミュニティバス「B-ぐる」は千代田区内の日本大学病院にも停留するので、千代田区の風ぐるまも東京医科歯科大学病院、順天堂医院の辺りまでルートがのびると良いと思う。

○区民

- ・竹橋の東京国立近代美術館は、常設展示は素晴らしいが、企画展は渋い内容が多いので、区が協賛して上野や六本木のように魅力的な展覧会を開催してほしい。

○区民

- ・（神田祭の伝統継承に関して）時代とともに形を変えている（現在は神輿だが、本来は山車等）ため、そういった伝統の継承をしていく必要があるのではないか。歴史の検証を含め、行政がしっかりとしてほしい。

○区民

- ・中国では京都の祇園祭は知られているが神田祭は知られていない。

○学識経験者

- ・区の財産としてどのように継承していくか考える必要がある。

（２）集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち

■人とのつながりが感じられ、支え合うことができます

○区民

- ・特に抽象的な表現な印象を受ける。人とのつながりが何を指すのかわかるように具体的に表現した方が良い。

(3) その他

■ 全体に関する意見

○学識経験者

- ・短いスパンで振り返りの場を設けるのは良いと思う。

○区民

- ・住民と行政とのつながりを示す構想にしてほしい。きれいな言葉ではなく実態に沿ったものを構想に盛り込む必要がある。

■ まちづくりに関する意見

○区民

- ・職住近接で保育園や幼稚園も近いことは、都市の集中化のおかげだが、まちが都市化して人口密度が高くなるとスラム化が同時に進む可能性があり、都市化は功罪両面がある。古い建物が更新されず放置されていたり、空き家が増えるとスラム化してしまうと考えている。基本構想に盛り込むかは別として、現在の千代田区はスラム化している場所はないが、都市化とスラム化を考えていく必要がある。

■ アンケートに関する意見

○区民

- ・子どものアンケート結果で望む千代田区の姿として「平等に活躍できるまち」という選択肢の割合が高く、他のアンケート結果と差があることから、その点を反映していく必要がある。

○区民

- ・教育や実際の社会の中でも平等に活躍できる場が提供されているという点を具体的に盛り込む必要があると考える。

○区民

- ・子どもがなぜ「平等ではない」と考えたのかを把握する必要がある。貧富の差と学歴の差が影響していると考えるが、千代田区のスローガンに貧富の差が全然出てこないことに違和感を覚える。

○区民

- ・「貧富」よりは「経済的基盤の強弱に関わらず」の表現にした方がよい。経済的弱者に寄り添う内容にする必要がある。

5 今後の予定

6 閉会

千代田区基本構想懇談会 第2回部会（くらしとまちづくり部会）

議事要旨

【開催概要】

- 1 開催日
令和4年9月2日（金）18時～20時00分
- 2 会場
千代田区役所4階 会議室A・B
- 3 出席状況
学識経験者1名（欠席者無し）
区民 5名中1名欠席
- 4 千代田区
古田政策経営部長
事務局： 夏目企画課長、沖田企画担当係長、岩森主任、落合主事、小野寺主事

【次第】

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 報告
属性別アンケート等の結果（子ども・高齢者・女性・障害等のある方）
- 4 協議
めざすべき姿について
- 5 今後の予定
- 6 閉会

【配布資料】

- ・資料1 : 属性別アンケート等の結果報告・本日の協議事項
- ・資料2 : （仮称）第4次基本構想（たたき台）
- ・別紙1 : 子ども・高齢者・女性・障害等のある方意見報告書

【議事要旨】

1 開会

2 挨拶

3 報告

(1) 属性別アンケート等の結果

◎事務局

- ・資料1に基づき、説明。

○区民

- ・4属性をピックアップした理由は何か。

◎事務局

- ・行政サービスの対象分野別の分類が必要と考えた。

○区民

- ・属性に属さない人はどうするのか。

◎事務局

- ・属性に属さない人は、第1回全体会で全体アンケートの結果において、全体の傾向として報告した。

○区民

- ・ピックアップしたものと全体と比較してどうなのか。他の情報との比較ができない。

◎事務局

- ・子どもの場合、千代田区のイメージで「教育が充実したまち」、「快適で便利なまち」などが出ているが、「治安のよいまち」については全体に比べて低い。また、「教育の充実」については、子どもは高い水準だが、全体ではさほど高い水準ではない。10年先の望む千代田区の姿については「住環境に恵まれたまち」が全体に比べて高い水準になっている。高齢者や女性の場合、両設問の上位・下位の意見はともに概ね全体と一致している。障害のある方の場合、アンケートの種類が異なるため、割愛させていただく。

○区民

- ・「平等に活躍できるまち」について水準が低いように見える。施策に活かされればもっと水準も上がってくると思う。

4 協議

○区民

- ・次の基本構想は期間を設定していないため、文章中に時間的な有限・無限が混在している。

○区民

- ・議論の仕方の話になるが、前回までの意見がたたき台に反映されていない。これでは同じ発言の繰り返しになってしまい、どのように議論すればいいかわからない。

◎事務局

- ・今回の意見を提言書としてまとめて、ヒアリング結果なども踏まえて修正作業を

行うので、まだ意見の反映については示すことができない。それまではたたき台に意見をいただくことを目的としている。部会と全体会での議論の繰り返しを行い最終的な提言書を作成する予定である。

○区民

- ・バージョンアップされたたたき台を見たかった。

◎事務局

- ・今回の意見についても全体会で共有し、提言に盛り込む予定である。

○学識経験者

- ・前回の議論で、めざすべき姿含め抽象的な意見はある程度出尽くしており、結論も出していた。今回同じメンバーで議論をするにあたって、前回の意見から積み上げて議論する方法もあっただろう。

◎事務局

- ・たたき台だけではなく、区政全般や、もう少し具体的な部分に対してでも構わないので、意見をいただきたい。

○学識経験者

- ・分野別の将来像「やすらぎを感じ、安心して快適に暮らせるまち」については、リード文と比べて、めざすべき姿がより具体的になっているわけでもなく、位置づけが分かりにくい。

◎事務局

- ・リード文は、分野別の将来像をイメージしやすくするため補足するような位置づけである。それに対して、めざすべき姿は行政分野を踏まえて人々のくらしの姿を示したものになっている。

○学識経験者

- ・2つに分ける意図は理解できるが、結局のところ文意として同じものになっており、リード文で網羅しきれているようにも見える。

○区民

- ・行政分野別ではなく部署別にめざすべき姿を定める方が分かりやすいと思う。

○区民

- ・めざすべき姿を削除してリード文を充実させる方法や、リード文の抽象度を上げて、めざすべき姿との分けを明確にする方法もあるのではないかな。

○区民

- ・「伝統と歴史あるまち」がアンケートでも上位であり、ニーズがあると思うので、もっと重視をし、具体的に基本構想の中に表現しても良いのではないかな。

○区民

- ・教育について、高校や大学は充実している一方で、生涯学習ができるような環境づくりにも努めてほしい。

○区民

- ・子どもに対するアンケートにおいて、「環境に優しいまち」の水準が低かった。これは、子どもがよく利用する公園などの自然環境が豊かではないということの示唆ではないかな。良好な環境を次世代に継承する前に、まずは更なる緑化に努める必要があるのではないかな。

○区民

- ・「良好な環境が次世代に継承され」の部分がリード文で読み取れないので、この枠組みで考えるのであればそれを加えるべきだと思う。

○学識経験者

- ・めざすべき姿の主語は「私たち（区民）」だと思うが、「強靱な都市基盤や災害に備えた体制が構築され、」の部分の主語は「私たち（区民）」ではなく「行政」ではないか。

○区民

- ・各パーツの粒度が整列されていないので議論が難しくなっていると感じる。

○区民

- ・第4次基本構想は無期限を前提に作っているが、中身は20年期限だった第3次基本構想とほぼ変わっていない。アンケートでは10年の後の姿について聞いており、今回の基本構想も10年を期限とするなど、対応が必要ではないか。

○区民

- ・恒久的な構想として考えるのであれば、時勢の変化に対応できるような内容にするべきである。

○学識経験者

- ・伝統を守るだけではなく、多様性を受け入れるなど、時代に合わせて変化していくことも大切である。

○区民

- ・多様性について、「LGBTs」のように概念が細分化・変化している中で、「千代田区民」として表現する方法もあるように思う。

○区民

- ・障害者などのマイノリティを重視する姿勢を示したり着目してもらうためにも、あえて「LGBTs」など具体的な言葉を使う必要があると思う。

◎事務局

- ・多様性は少数派が肩身の狭い思いをしてしまうということが1つ問題だと思うが、その要因は何だと思うか。

○区民

- ・社会的基盤や体制が用意されていないからではないかと考える。

○学識経験者

- ・マイノリティの存在は知っているが、実態が分からないということも要因の1つだといわれている。

○区民

- ・区民の声として具体的で実現性の高い話や意見をしたかったが、かなり抽象度が高く議論しにくい。

○区民

- ・提供されるデータや前提がもう少し種類豊富に、揃ったかたちであれば議論がしやすいのではと感じた。また、抽象的な議論が多い中で、今回のような議論だけで「区民の声を集めた」と言われてしまうと残念である。

○区民

- ・自治体のトップランナーとして現状に満足するのもいいが、トップランナーを維持するには努力が必要だと思う。10年後、20年後もトップランナーを維持するための取り

組みなどを議論し、表現するべきではないか。

○区民

- ・トップランナーという言葉は、とても良い言葉であり、反映されていないのは良くない。トップランナーとして千代田区がどうあるべきかをアピールしても良いと思う。教育分野などにおいては、現在も特色のある取組みをしているが、全国ナンバーワンとして挑戦的・実験的・先端的な取組みを更に進めてもいいのではないか。

○区民

- ・トップランナーでいられるのは千代田区が首都であるからだと思う。もし首都が移転したら大企業などは千代田区を離れ、千代田区の財政基盤も崩れる可能性もある。千代田区は小規模な商店や企業への支援があまりないので、自治体を支える小さな商店・起業に対して支援を行う必要があると思う。また、千代田区がトップランナーであり続けるためには魅力的であり続ける必要があるだろう。

5 今後の予定

6 閉会

千代田区基本構想懇談会 第2回部会（福祉と保健部会）

議事要旨

【開催概要】

- 1 開催日
令和4年9月9日（金）18時～20時00分
- 2 会場
千代田区役所4階 402・403会議室
- 3 出席状況
学識経験者1名（欠席者無し）
区民 6名（欠席者無し）
- 4 千代田区
古田政策経営部長
事務局： 夏目企画課長、沖田企画担当係長、岩森主任、落合主事、小野寺主事

【次第】

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 報告
属性別アンケート等の結果（子ども・高齢者・女性・障害等のある方）
- 4 協議
めざすべき姿について
- 5 今後の予定
- 6 閉会

【配布資料】

- ・資料1 : 属性別アンケート等の結果報告・本日の協議事項
- ・資料2 : （仮称）第4次基本構想（たたき台）
- ・別紙1 : 子ども・高齢者・女性・障害等のある方意見報告書
- ・参考資料1 : アンケート結果比較表

【議事要旨】

1 開会

2 挨拶

3 報告

(1) 属性別アンケート等の結果

◎事務局

- ・資料1に基づき、説明。

○区民

- ・女性を対象とした調査では、子どものいる女性といない女性の回答は区別しているか。

◎事務局

- ・今回の調査では女性、高齢者、障がい等のある方、子どもという属性に注目しており女性の子どもの有無についての属性調査はしていない。

4 協議

・めざすべき姿について

(1) 自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち

■多様なライフスタイルに応じて安心して子育てができています

○区民

- ・アンケート結果では、障害児を預けられる場所を増やしてほしいなどの意見が出ていたが、構想で記載されている「多様なライフスタイル」とは、親に関する多様性なのか、子どもに関する多様性なのかが分かりにくいため、表現をもう少し工夫した方が良いのではないか。

◎事務局

- ・事務局として想定しているのは、子育てをする側のライフスタイルの多様性だが、子どもの多様性といった観点もあると思うので、そういった意見も頂戴したい。なお、子どもに関するめざすべき姿については、「教育と文化」部会で扱っている「すべての子どもたちの個性や意思が尊重され、すくすくと成長しています。」に記載している。

■誰一人取り残されることがなく、自分らしく、自立した生活を送ることができています

○区民

- ・アンケート結果では、「区民が支え合うまち」という回答が、千代田区の現在のイメージ、将来に望むイメージ共に低いが、「誰一人取り残されることがなく」という表現は支え合うといったイメージもあるため、「誰が誰から取り残されることがなく、支え合っていく」のか、もう少し具体的に書くと思う。

○区民

- ・「誰一人取り残されることがなく」と記載されているが、取り残されている人は実際に

いるのか。その具体的な例はあるか。また、「支え合う」に関しては、千代田区として最低限の公的保障・サービスを整える必要があると思う。

○区民

- ・一人で病院の待合時間を過ごしていると孤独を感じることもある。また、妊婦の自殺者が増加していることなども踏まえると、孤独を感じている人はおり、そのような人たちにとっては、「誰一人取り残されることなく」という表現は、響くのではないかな。

○区民

- ・そのような声は表に出てきにくいいため、そのような声も拾えるようなオープンな行政であってほしいと思う。

○学識経験者

- ・「誰一人取り残されることなく」という表現は、物理的に孤独感を感じるケースと時間軸の中で孤独感を感じるケースがあると思う。普段困っていないような人であっても、取り残されたように感じる瞬間はあるだろう。そのような場合に、公的サービスだけではなく、相談できる相手があり、支え合えるような状況があることは、理想なのだろう。

○区民

- ・自分が取り残されていると感じていない人には、この文章は分かりにくいかもしれないため、具体的に誰のことを指しているか記載すると良いかもしれない。

○区民

- ・しかし、例えばパラリンピックのように障害があるかどうかで人を区別することは良くないと思う。区別することなく、同じ社会でお互いを支え合う事が理想的な社会の在り方だと思う。

○区民

- ・確かに私もそう思うが、マイノリティといった立場にない人にとっては、「取り残される」という意味が伝わりにくく、「めざすべき姿」がイメージしにくいと思う。構想の中で、取り残されている人たちを明示することで、取り残されているマイノリティが社会にいることを気付かせることが大事だと思う。最終的に平等な社会を目指すためには、まずはマイノリティの「特別扱い」をするような段階を踏む必要があると思う。

○学識経験者

- ・様々な考え方があって良いと思う。
- ・同じ社会にいる全員に平等な機会を公正に提供するには、それぞれの立場に応じた配慮が必要である。例えば障がい等ある方へのアンケート結果では、駅のインフラ整備を充実してほしいといった話もあったが、そのような障壁が取り除かれれば、平等な社会に近づくのではないかな。

○区民

- ・「誰一人取り残されることなく」よりも「すべての人」という言葉のほうが分かりやすい。ただ、敢えて「誰一人取り残されることなく」と記載することで、困っている

ような人への配慮を明確にできるのであれば、この表現でも良いと思う。

○区民

- ・自分が社会から取り残されていると感じている方のために、「誰一人取り残されない」という表現を使った方が良い。

○区民

- ・「誰一人取り残されることなく」という表現は、SDGsから引用された言葉なのではないか。私は障害者となった立場であり、社会に取り残されていると感じることがあるので、この言葉は意味があり良い表現だと思う。「誰一人取り残されることなく」という言葉を、千代田区として噛み砕いて使用し、障害者に対する意識が高まっていけば、ありがたいと思う。

○区民

- ・「自分らしく自立した生活」とあるが、アンケート結果とどのように対応しているのか。逆に自分らしく自立できていない生活とはどのような生活なのだろうか。

○区民

- ・例えば、親の介護で自由に友達と遊ぶことや学校に行くことなどができないヤングケアラーは、それに該当するかもしれない。やむを得ない事情で自分のやりたいことや本来やるべきことをできていない人たちは該当するのではないか。

○区民

- ・引きこもりなども該当するかもしれない。また、「誰一人取り残されることがなく」で対象となる人でも、後半の「自分らしく、自立した生活を送ることができています」では対象とならない人もいると思うので、前半と後半の対象を一致させると良いのではないか。

○学識経験者

- ・ヤングケアラーについては、自分がヤングケアラーである自覚がない場合や、親の介護をしたくないとも思っていない場合もあるが、自分の時間を確保できないことに悩みを抱えている調査結果が出ている。相談ができる相手がいることが重要だろう。また、幼い子どもについては、自分が置かれた環境が全てであり、そのような環境下でのヤングケアラーは、自分が特別な状況にあり「遊ぶ権利」や「教育を受ける権利」が保障されていないことに気付かず、「子どもらしく」、「自分らしく」といった事自体が分からない子も多くいると思う。「誰一人取り残されることがなく」という言葉は、自分が取り残されているという自覚がある人、無い人どちらも内包すると捉えると良いのではないか。

○区民

- ・港区では、マンションの空きスペースを活用して、看護ステーションを誘致した民間の事例がある。そのような取組みを行政が民間に紹介をすることや、助成金を支出するなどの支援をしてほしい。

○学識経験者

- ・そのような取組みは、官民連携や助成金を支出するなどの方策が取れるだろう。人々の暮らしの中に看護ステーションなどを取り込むことで、気軽に相談ができるよう

になるだろう。他には、薬局の中で薬剤師と相談のできるコーナーを設置している事例もあると伺っている。

■衛生的な環境のもと、いきいきと健康に暮らしています

○区民

- ・「衛生的」という言葉は少し学問的な印象があるので、例えば「清潔で快適」という表現のほうが分かりやすいのではないか。

○区民

- ・ゴキブリの対策についてもここに入ると思う。

○区民

- ・今年は、ネズミもよく見かけるようになった。

○区民

- ・このような問題が出ると区民は不快な思いをするので、清潔で快適に暮らせることが重要だと思う。

○学識経験者

- ・高齢化が進んだ社会では、自分で衛生な環境を維持できない方も増えるだろう。そういった方への支援という視点も重要である。

○区民

- ・千代田区は公衆トイレが清潔で、衛生的である。

○学識経験者

- ・公衆トイレが清潔、衛生的であることは、安全・安心にも関連するだろう。

○区民

- ・「いきいきと健康に」については、区のスポーツセンターをより利用しやすいようにすると良いと思う。スポーツセンターは利用しにくいイメージがある。

○区民

- ・区内の公園には遊ぶ遊具だけではなく、運動用の遊具なども設置してある。また、ラジオ体操や皇居ランをしている人もおり、既にいきいきと健康に暮らしているイメージがある。

○学識経験者

- ・歩いているだけで健康になるようなまちづくり（ウォーカブルシティ）という考え方がある。運動に興味のない人でも自然と歩きたく、動きたくなるようなまちづくりも大切だろう。他自治体では、公共バスの運賃箱の位置、バスのルート、停留所の位置といった視点から、健康づくりを促進している事例もある。さらには、バスの IC カードと公共施設の入館カードを連携させ、運行ルートから区民の活動傾向の分析に繋げることや、ポイントシステムを導入することなどで、運動に興味を持っていない人も自然と運動ができるよう取り込む事例がある。健康づくりは、まちづくりと連動しながら検討することが必要になるだろう。

○区民

- ・私もまちづくりという言葉が好きで、例えば「いきいきと健康に暮らせるまちづく

りをする」というような表現にすると良いかもしれない。

(2) 集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち

■人とのつながりが感じられ、支え合うことができます

○区民

- ・以前の部会の議論では、お祭りに参加したいと思っている方が多いように感じた。自分から「支えにいく」といったニュアンスも表現できて良いのではないか。

○区民

- ・アンケート結果では、「区民が支え合うまち」や「行政が身近なまち」といった千代田区のイメージは低い。だからこそ、「人とのつながりが感じられ」という表現は非常に重要だろう。それは、「誰一人取り残されない」というめざすべき姿の実現にもつながると思う。また、この文章に、行政がより関与していくような表現が入ると、「行政が身近なまち」という千代田区のイメージをもっと上げることができるのではないか。

○区民

- ・この文章に地域の催しなどの言及もあるといいと思う。

○区民

- ・小学生から千代田区に在住しているが、区内在住者との繋がりは薄いと感じているが、同じ学校に通っていた友人やその親との繋がりはあると感じている。そのため、学校などの既存コミュニティを活用して、そのコミュニティに属していない人も楽しめるようなイベントがあると良いのではないか。

○区民

- ・近年、池袋では公園のリニューアルをして、子連れの家族が集えるような公園ができた。アフターコロナの社会でこそ、人々が集える場所を作ることが重要であり、賑わいを取り戻す必要があると思う。

○学識経験者

- ・「まちづくり」や「人が集う」ことは、「健康」との結びつきがあるのだろう。

○区民

- ・新住民も気軽にお祭りなどに参加ができるようなプラットフォームが必要だと考える。また、ボランティアなど出会いのきっかけを行政が積極的に周知し、少しずつ人との繋がりを形成できると良い。また、それは、単発的な取り組みではなく、継続的に取り組めると良い。

○区民

- ・子どもがいないと、千代田区外から区民となった人たちは、地域のイベントに参加しにくいと思う。子ども、子育て以外に繋がれるようなルートがあったら良いと思う。

◎事務局

- ・団体関係者ヒアリングで、子育てのコミュニティでは、子どもの進路（私立、公立）が異なると疎遠になってしまうことがあると伺ったが、実際に進路の違いで疎遠に

なったことを感じたことはあるか。

○区民

- ・個人的には、私立と公立という進路の違いで、疎遠になったという感覚はなく、単に通う学校が異なることで一緒に過ごす時間が減った程度である。関係が疎遠になるかどうかについては、中学校受験をするか否かで変わってくるのかもしれない。千代田区の小学生の場合、大半が中学校受験をする。

5 今後の予定

6 閉会

千代田区基本構想懇談会 第3回全体会 議事要旨

【開催概要】

- 1 開催日時
令和4年10月6日（木）18時～20時30分
- 2 会場
千代田区役所4階 会議室A・B
- 3 出席状況
学識経験者4名中1名欠席
区民 17名中3名欠席
- 4 千代田区
樋口区長、古田政策経営部長
事務局： 夏目企画課長、沖田企画担当係長、岩森主任、落合主事、小野寺主事

【次第】

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 報告
 - ・第2回部会の振り返り
 - (1) 教育と文化
 - (2) 福祉と保健
 - (3) くらしとまちづくり
- 4 協議
 - ・提言書たたき台について
 - (1) 提言書の構成
 - (2) 基本構想についての提言
 - (3) その他区の取組みに対する意見
- 5 今後の予定
- 6 閉会

【配布資料】

- ・資料1 : 第2回部会の振り返り・協議事項について
- ・資料2 : (仮称) 第4次基本構想(たたき台)
- ・資料3 : 提言書たたき台
- ・資料4 : 意見記入用紙
- ・参考資料1 : 団体関係者ヒアリングの結果(追加分)

1 開会

2 挨拶

3 報告

(1) ヒアリング結果の共有・第2回部会の振り返り（各部会長補足説明）

◎事務局

- ・資料1、参考資料1に基づき説明。

○学識経験者

- ・これまでの議論を上手く纏めていただいているため、特にない。

○学識経験者

- ・部会での活発な議論を簡潔にまとめていただいた。第2回全体会で、全ての委員の皆さまの意見を共有できたことが、第2回部会の活発な議論に繋がったと考えている。補足説明をすると、「繋がり」に関しては、「誰一人取り残されない」という表現は極めて重要であり、政策上の観点からではなく、自分たちで作りあげていくものだという意見があった。そのためには、既存のコミュニティ以外の方でも参加できるようなプラットフォームを作成すると良いという提案があった。また、このような議論を深めていくと、健康づくりはまちづくりとも連動することが分かってきた。

○学識経験者

- ・第1回部会で、既に活発な議論を行っていたため、第2回部会では基本構想のフレームにかかる議論など、部会に留まらないような「その他」に対する意見・議論が多かったのが特徴であった。
- ・団体ヒアリングの報告で、「新しく千代田区に住むようになった住民は、地域との関わりが無い」といった意見が紹介されていた。くらしとまちづくり部会の委員は、比較的新しく千代田区に住みだした委員が多いが、「千代田区の先進性やリーダーシップを強くアピールして日本を引っ張ってほしい」といった意見があったように、千代田区に対して十分プライドを持っているように感じられた。

(2) 質疑応答及び追加意見等

○区民

- ・資料1の7ページの「起業」は「企業」という意味か。

◎事務局

- ・誤字である。正しくは、「企業」である。

○区民

- ・資料1の3ページに『意思』とは」と始まる文章がある。個人的には、個性や意思を「育む・育てる」という言い方は上から目線のように少し違和感がある。子どもの個性や意思を「育てる」のではなく「尊重する」という表現のほうが適切なのではないか。

○区民

- ・自分たちが自信を持っている事を相手に伝えることは、「育てる」に繋がるのではないか。そういった意味では、「育てる」という表現は重要なのではないか。

○区民

- ・言葉の使い方の問題であると思うが、単に「育む・育てる」のではなく、「育み、育てる場」が提供され、それを活用するかどうかは、本人の個性や意思を尊重できるような意図が伝わるように工夫すれば良いのではないか。

○区民

- ・様々なバリアを取り払っていくことを基本構想の中に盛り込むと良いのではないか。例えば、高齢者の健康寿命を延ばすために、モビリティを改善（風ぐるまの無料化、レンタル自転車の値下げなど）することや、高校授業料の無償化、さらには出産に係る支援（経済的な支援、子育ての支援など）を行うなどの区独自の施策を通じ様々なバリアを取っていく必要があると考える。

○学識経験者

- ・「誰一人も取り残されない」ためには、まさにバリアを取り払っていくことが重要である。

○区民

- ・先ほどの意見と同様に考える。また、区独自施策に限らず、例えば東京都が実施している施策に、区が独自に上乘せして支援していくような視点も重要である。

○区民

- ・分野別の将来像の「文化芸術に触れ、受け継ぎ、学んでいくことで、心が豊かになります。」についてだが、上野には文化芸術施設が多くあり、そのような近隣区との連携を進めていく事も良いのではないか。

○区民

- ・千代田区は劇場が多くあるが、そのような場に劇団をこの20年の中で誘致できれば良かったのではないかと思う。周辺区には中央区や台東区など文化が集積している区も多いため、そのような区とも連携し、文化施策を推進しても良いのではないか。

○区民

- ・千代田区の広報紙に日比谷の劇場が特集されていたが、千代田区民以外からも関心を持たれていたと伺っている。まちづくりというと、ディベロッパーが関与するものだと思いますが、千代田区と一緒に劇団などを誘致しても良いのではないかと。

4 協議

(2) 基本構想についての提言

○学識経験者

- ・全体会や部会に出た多岐にわたる意見を分かりやすく簡潔にまとめていただいた。また、再検討が必要な事項には、理由も明記している点は良いと思う。
- ・一般的な提言書の構成は、提言の主たる意見のみを記載することが多いが、今回の提言書には、基本構想への主たる意見のみならず、具体的な施策に対する意見である「その他区の取組みに対する意見」も敢えて提言書の中に盛り込んでいる点はかなり珍しく、それは区民の意見を尊重し、実現していこうという表れなのではないかと感じている。

○学識経験者

- ・くらしとまちづくり部会でも多様性が千代田区の魅力の一つであり、それをどのように担保していくかが重要であると議論されてきた。多様性の観点は分野別の将来像の1つ目に内包されていると思うが、多様性を担保する基盤を構築していくという意味も3つ目の分野別の将来像に持たせても良いのではないかと。

○学識経験者

- ・分野別の将来像は3つの部会で重なる部分が多いように感じており、その点を意識しながら議論を進めてきた。教育と文化の視点であれば、区民誰もが学び直しできるような地域のプラットフォームづくりがハード面、ソフト面どちらにおいても必要になるのではないかと。

○区民

- ・資料1の12ページ、2段落目では、コロナウイルスの拡大と国際化の進展が記載されているが、コロナウイルスによって入国制限などが設けられている中で、相反する要素が同じ段落に記載されていることは少し違和感がある。

○学識経験者

- ・ここでの国際化は、国外から来日する外国の方を想定しているだけでなく、区の中での国際化の話も含まれていると思う。

○区民

- ・基本構想（たたき台）の「はじめに」の１～４段落目では、過去の歴史に関する記載がされているが、誤った記載が含まれている。（「千代田区は、約 400 年にわたり、政治・経済・文化の中心として歴史を刻み、発展してきました。」）その点は修正を行うべきである。
- ・５段落目では、コロナウイルスを「未曾有の危機」と称しているが、これまでの歴史上、人類はコレラなどの感染症と向き合ってきた経緯があり、コロナウイルスは「未曾有」では無いと思う。この点も修正すべきであると思う。

◎事務局

- ・今、ご指摘いただいた歴史に関する記述については、これまでの全体会でもご指摘を受けた箇所であり、資料１の 30 ページにて「最後に、本基本構想が千代田区に関わるすべての人と共有するものだということを鑑み、正確な記述に努め、多くの人から理解されやすい用語を使用するよう留意されたい。」といった形で提言内容に包含させていただいている。

○区民

- ・「はじめに」に係る提言内容に「正確な記載をしてほしい」という表現が抜けてしまっている点が問題なのではないか。

◎事務局

- ・全体を通じて同じような意見を頂戴していたことも踏まえ、資料１の 30 ページの「基本構想全体に関わる意見」の中で、「正確な記述に努めること」に関する記載をしている。

○学識経験者

- ・内容に関する事項ではないが、資料３の２ページにある懇談会構成員については、この懇談会の主役は区民の方であることを踏まえ、区民の方の氏名を先に掲載していただきたい。

○区民

- ・基本構想（たたき台）に記載されている「伝統とモダン」や「千代田区は、約 400 年にわたり～」などの表現については、これまでの懇談会でも様々な意見が出ている。具体的にこういった表現に修正するべきかについて、様々な案を吸い上げた方が良いのではないか。例えば、「はじめに」の「千代田区は、約 400 年にわたり～」の表現については、「現在の千代田区があった地域は、約 400 年にわたり～」にした方が良いなど、懇談会で具体的な代案を出し、後に区が基本構想を策定する際の材料として活用していただければ良いのではないか。

○学識経験者

- ・本日の目的は、具体的に基本構想（たたき台）をどう修正するかについてではなく、提言書（たたき台）の表現について議論することが目的だと理解している。

◎事務局

- ・これまでの懇談会でいただいた意見を積み上げた結果が提言書のたたき台であり、本日の全体会ではその提言内容について確認をしていただきたい。

○区民

- ・懇談会では基本構想（たたき台）への具体的な修正案も意見として出たが、今回の提言書（たたき台）は意見が抽象化されているため、もったいないように感じる。例えば、懇談会委員による基本構想（たたき台）の具体的な代案をまとめ、提言書の参考資料として添付するのはどうか。

◎事務局

- ・委員の皆さまから頂いた基本構想（たたき台）への具体的な修正案の意見は、提言書の参考資料として議事要旨を添付する予定であり、具体的な意見も確認できる想定でいる。また、資料3の提言書（たたき台）10ページ以降に「基本構想に対する懇談会構成員からの主な意見」という項目を設けており、委員に皆さまから頂いた具体のご指摘を基本構想（たたき台）の章ごとに確認できるようにしている。

○学識経験者

- ・具体的な修正案を提言書に記載するのではなく、例えば、「はじめに」の「千代田区は、約400年にわたり～」への提言としては、「歴史的な表現も含めて正確な記載をしてほしい」といった記載をすることで、解決できるのではないかと。現在の提言書（たたき台）の「はじめに」の箇所には、そのような記載は無いので、そういった点を追記していただければ良いのではないかと。

○区民

- ・少しでも良いので、基本構想（たたき台）の代案を記載しても良いのではないかと。

○区民

- ・例えば歴史という観点で見た時に、政治、経済、文化など様々な切り口があるため、一つ一つ修正するのは困難なのではないかと。

○区民

- ・そもそも、「はじめに」の前段で記載している歴史や政治の話は誰でも分かるような話なので、基本構想に敢えて記載する必要はないように感じる。ここで、伝えたいことは、「変化が激しく、不確実な世の中にあっても、リスクや環境変化に的確に対応し、持続可能な地域社会を築いていきます。」以降の内容だと思うので、その内容をストレートに記載すべきなのではないかと。「はじめに」の部分は、かなり長いため、本筋が見えにくくなっているのではないかと。

○区民

- ・資料 1 の 12 ページでは、「行政機関と区民との距離が近い」と書いてあるが、これまでの部会でそのような話が出た記憶がない。そのような意見は出たのだろうか。

◎事務局

- ・別途実施したヒアリングにて、そのような表現があったので、このように記述していると記憶している。

○区民

- ・目指すべき将来像にかかる提言書自体は上手くまとめられていると思うが、漢字ではなくひらがなで「まち」が何度も記載されているのはなぜか。

◎事務局

- ・漢字の「町」や「街」であると、区域やハード面の印象が強いため、コミュニティの形成などのソフト面の意味合いも含めてひらがなで「まち」と記載している。資料の一部に漢字の「町」が紛れているが、その点は後ほど修正させていただく。

○区民

- ・資料 1 の 18 ページに記載されている「生み育てたいと願う人が増え」については、生み育てたいと願っているが、経済的な事情などにより生むことができない若者も多くいるため、ここで重要なのは、願うことではなく、その願いが実現されることであると考え。そのため、「生み育てたいと願う人が安心してその願いを実現できる」のような表現にしたほうが良いのではないか。

○区民

- ・資料 1 の 18 ページの「ライフステージ・ライフスタイル」について、千代田区には、すでに多くのライフステージを経験した高齢者層も多くいるため、そのような方たちも想定した表現を「誰一人取り残されることなく～」の箇所に反映させた方が良いのではないか。

○区民

- ・資料 1 の 19 ページでは「安心でき希望をもてる将来像」と記載されているが、この「安心」はどこから来たのか。主な参考意見の「支え合うといったイメージもあるため、『誰が誰から取り残されることなく、支え合っていく』のか、もう少し具体的に書くと良いと思う。」といった発言が「安心」という表現に纏められているのかもしれないが、「支え合い」という表現の方が相応しいのではないか。

○学識経験者

- ・「誰一人取り残されないように」という意味も含まれているのかもしれない。

○区民

- ・資料 1 の 16 ページの「3 つ目は、～」と始まる段落では、「千代田区は地域のつながりを大事にしてきた」と記載されているが、主な参考意見を確認すると、「地域のつながりを大事にしてきた」までは発言していないのではないかと。少しニュアンスが異なるのではないかと。思う。

◎事務局

- ・団体関係者ヒアリングの結果の中で、そのような意見があったように記憶している。頂いたご指摘を踏まえ、提言の表現を修正させていただく。

○区民

- ・資料 1 の 25 ページに「ハード面の整備や持続可能な社会を実現」との記載があるが、災害対策に関し、「持続可能」という表現を使用するイメージはあまり無い。また、「持続可能」という表現を使用することで、経済、暮らし、災害などの様々なイメージが想定されるため、何について言及しているのか分かりにくくなってしまっている。そのため、例えば、「ハード面の整備などを通じ、災害に強いまちを実現していく」など、明確に記載しても良いのではないかと。

○区民

- ・資料 1 の 16 ページの主な参考意見に、「地域のつながりや人間味があることを守りながら」という意見があるが、個人的には他区と比較して千代田区は人間味が薄いように感じている。例えば、八百屋や果物屋など小規模な商店が少ないように感じる。

○区民

- ・資料 1 の 24 ページの「また、これからのまちづくりにあたっては～」の提言が、主な参考意見と一致していないように感じる。「生活を便利にしていく」というかなり大きな括りの表現に置き換わっているが、ここに記載の主な参考意見をベースに提言を作るのであれば、「交通」の要素を十分に反映させる必要があるのではないかと。

○学識経験者

- ・私も同様に思う。多様性を担保できるような安心して生活できる生活基盤が重要であるところとまちづくり部会では議論していたが、この提言を見るとそのような議論が抜けてしまい、かなり抽象的な提言となっている。

○区民

- ・資料 1 に記載されている「主な参考意見」は、これまでの懇談会の議論が網羅的に反映されているのか。

◎事務局

- ・基本的にはこれまでの懇談会の意見を網羅しているが、反映されていない箇所があればご

指摘いただきたい。

○学識経験者

- ・「モダン」という表現は、賛否両論あったと記憶しているので、提言書としてはどちらが正しいかを定めるのではなく、「モダンに対しては様々な意見があった」記載するのが望ましいのではないか。

○区民

- ・「モダン」という表現については、千代田区は、これまでも、そして現在も日本の中心地であり、モダンの要素を備えつつも、歴史など古いものが残っているように感じる。そのように考えると、「モダン」という表現はそのままでも良いのではないか。また「とけ合う」という表現に関しては、現実的にとけ合うことは無いだろうが、日本語の表現としては問題ないのではないか。

(3) その他区の実施に対する意見

○区民

- ・資料3の22ページの災害対策にかかる懇談会構成員からの意見の記載が、その上にあるまちづくりにかかる意見と同様のことが記載されているが、これは誤植なのか。

◎事務局

- ・誤植である。修正させていただく。

○区民

- ・資料3の17ページでは、「親が共働きで子どもが放置され、ゲームに夢中になりすぎている家庭がある。」と記載されているが、親が共働きで子どもが放置されている状態が問題なのであり、ゲームそのものは問題ないため、ここでの記載の仕方には注意してほしい。

○学識経験者

- ・基本構想についての提言内容よりも、「その他区の実施に対する意見」での記載の方が、表現が簡潔で上手く整理されており、ここでの表現を上手く基本構想についての提言内容に反映できると良いのではないか。

○区民

- ・「その他区の実施に対する意見」と同様に、「基本構想についての提言」においても、それぞれの提言ごとに具体的な意見を記載してはどうか。

◎事務局

- ・資料3の10ページから16ページにおいて、提言を作成するにあたっての具体的な意見を参考に記載させていただいている。また、「その他区の実施に対する意見」での表現の方が

簡潔で上手く整理されているという指摘に対しては、工夫できる箇所については、対応していく。

○区民

- ・「その他区の取組みに対する意見」における「教育関連」、「文化関連」などの分野の分け方が分かりやすいように感じる。基本構想の分野別の将来像の「分野」もこのような分類の仕方が良いのではないか。

○区民

- ・資料3の20ページに、「それ故に」が漢字で記載されているが、ぱっと見ると「故人」に見えてしまうので、表現を工夫した方が良いのではないか。

○区民

- ・基本構想（たたき台）の言葉使いや表現（「千代田区は、400年にわたり～」や「伝統とモダンがとけあい」など）を具体的にどう修正するか、この場で示していただかないと同じような議論の繰り返しになってしまう。また、「基本構想についての提言」で用いられている一つ一つの言葉、特に本日の議論で出た「行政機関と区民との距離が近い」などについては、根拠もしっかりと示してほしい。

◎事務局

- ・議論の度に基本構想（たたき台）をブラッシュアップするような方法もあるが、この懇談会では、基本構想のたたき台を修正するための提言をとりまとめていく予定である。

○区民

- ・資料3の20ページの「昼間区民と在住区民の差が大きい千代田区」について、おそらく人口の差について言及しているのだと思うが、人口の差が大きいことがコミュニティ形成を困難にさせているとは考えにくい。それよりも、昼間区民と在住区民の交流が少ないことがコミュニティ形成を困難にさせており、その点を踏まえて、表現を工夫した方が良い。

○区民

- ・千代田区の物価は高いように感じている。昼間区民も本当は千代田区に在住したいと考えているだろうが、物価が高いため千代田区に住むことが難しいのではないか。

○区民

- ・資料3の17ページに「親が共働きで子どもが放置され、ゲームに夢中になりすぎている家庭がある。」と記載されているが、「共働き」が当然となっている現代において、共働きが問題であるような表現は問題なのではないか。また、子どもが放置されることと、ゲームに夢中になりすぎていることは、因果関係がなく、提言書に掲載する表現としてももう少し注意していただきたい。

○区民

- ・私も「共働き」という言葉遣いには、違和感を覚える。親が共働きであることと、子どもへ目が行き届かないことは、無関係であり、誤解を招かないような表現を考える必要があると思う。
- ・資料3の20ページにおいて、「千代田区は転入者が多く、新たに住み始めた住民が多い」とあるが、新たに転入してきた者に問題があるような表現に思われる。転入者自身に問題があるのではなく、急激な人口増加と高齢化が原因で区内のつながりが希薄になってしまったのではないか。その事実も提言書で反映できると良いと思う。

○学識経験者

- ・「その他区の取組みに対する意見」での「懇談会構成員からの意見」は、現状認識と、要望の2つが混在しているので、このような議論になってしまうのではないか。現状認識については、発言者の価値観にもよるため、場合によっては誤解を招くような表現として受け取られてしまう可能性があり、提言とは別の取り扱いをした方が良いのではないか。

○区民

- ・資料3の21ページで、生活環境にかかる記載があるが、客引き行為の対策については、国が実施することを想定しているのか、それとも区として何か対策をとることを想定しているのか。

◎事務局

- ・現段階では、これまでの懇談会で出た意見を提言という形でまとめているだけである。今後頂いた提言を基に、区としてどのような取組みが可能か検討は行っていく。

○区民

- ・資料3の21ページの「生活環境」では、路上喫煙や客引き行為に関する記載があるが、ここに騒音による被害についても触れてほしい。特に靖国神社の周辺は、騒音トラブルが多いように感じている。

5 今後の予定

6 閉会

千代田区基本構想懇談会 第4回全体会

議事要旨

【開催概要】

- 1 開催日時
令和4年11月8日（火）18時～19時30分
- 2 会場
千代田区役所4階 会議室A・B
- 3 出席状況
学識経験者4名（欠席者なし）
区民 17名中2名欠席
- 4 千代田区
樋口区長、古田政策経営部長
事務局： 夏目企画課長、沖田企画担当係長、岩森主任、落合主事、小野寺主事

【次第】

- 1 開 会
- 2 挨 拶
- 3 報 告
・提言書の修正
- 4 協 議
・提言書（案）について
- 5 今後の予定
- 6 閉会

【配布資料】

- ・資料1 : 提言書の修正点
- ・資料2 : （仮称）第4次基本構想（たたき台）
- ・資料3 : 提言書（案）
- ・資料4 : 新旧対照表
- ・資料5 : 提言書（たたき台）に対する意見及び対応一覧

【議事要旨】

1 開会

2 挨拶

3 報告

◎事務局

- ・資料 1、4、5に基づき説明

4 協議 提言書（案）について

（１）「1. はじめに」、「2. 懇談会の概要」について

○学識経験者

- ・資料 4 の 2 ページの「はじめに」において、「区民から意見を募るため、千代田区基本構想懇談会（以下「懇談会」という。）が設置されました。」とあるが、消極的な表現に感じ取られた。例えば、「新たな基本構想を策定に向け、区民の参画と協働により、基本構想を策定するために懇談会を設置した」という趣旨にすると良いのではないか。

○区民

- ・私も同様に感じるため、表現を修正した方が良いと思う。

（２）「3. 提言内容」について

○学識経験者

- ・資料 4 の 10 ページの中段に「年齢、性別、障害、国籍などの多様性に関わらず」とあるが、この「多様性に関わらず」という表現が少し否定的に聞こえる。「年齢、性別、障害、国籍などに関わらず、多様性を尊重し、誰一人ひとり取り残されることなく～」というような表現にすると良いのではないか。また、障害者の「害」はひらがなの方が良いのではないか。

◎事務局

- ・改めて確認するが、千代田区の福祉関係の計画では、「障害者」という表現をしている。表現は千代田区のルールと統一する。

○区民

- ・「障害」に関して、文章によっては、「障害」や「障害の有無に関わらず」と記載されているようである。意味としては、「障害の有無」に統一した方が良いのではないか。

○区民

- ・資料4の15ページに、「住民自治は区民参画が前提であり、区民の意見を尊重し、賛成意見・反対意見をうまく調和させることで成り立つもの～」とあるが、「うまく調和する」というよりは、例えば「賛成意見・反対意見という対立する構造を避ける」というような表現にすると良いのではないか。区政運営にあたり、区民から賛成意見、反対意見があると思うが、区にはそれらの意見を上手く調和することで、曖昧にしてほしくない。

○学識経験者

- ・この提言に関しては、行政が提案したものに対し、住民が賛成や反対をするような表現に受け止められる。しかし実際は、区政運営にあたり様々な意見があり、それらを踏まえて、調和させていく努力をする必要があると思う。そのような趣旨を盛り込んだ方が良いのではないか。

○区民

- ・この提言では、賛成と反対の二元論で語られているが、実際には賛成反対だけでなく、どちらでも良いという声も含め、多様な意見があると思う。そのような意見を踏まえて合意を目指すような趣旨がここでは伝わると良いのではないか。

○区民

- ・区民の多様な意見を尊重しながら、最終判断を民主的にしていただけるような趣旨が提言内容に反映されれば良いと思う。

○区民

- ・資料4の資料16ページに「正確な記述に努め」が2回記載されている。誤植だと思われるため、修正してほしい。

(3) 「4. 区の実施に対する留意点」について

○区民

- ・17ページの(1)教育関連「子育てについて」の個別意見において、黄色マーカーで記された「共働き」に関する表現が追記されているが、これは、当初から記載されていた「親が共働きで子どもが放置され、ゲームに夢中になりすぎている家庭がある。」という意見に対しての意見であると思う。追記された意見が元々記載されていた意見と関連する意見だと分かるように、記載方法を工夫した方が良いと思う。

◎事務局

- ・記載方法については、工夫させていただく。

(4) 提言書全体について

○区民

- ・提言の中に、「風ぐるま」を「100 円バス」と記載している箇所があるが、「風ぐるま」と記載した方が良いのではないか。なお、「無料にした方がよい」という意見もあったが、小学生以上 1 人に同伴する未就学児は、2 人までは風ぐるまを無料で利用できるケースもある。

○学識経験者

- ・発言したご本人に確認した上で、修正して問題ないようであれば、修正していくこととする。

○区民

- ・資料 4 の 11 ページにおいて、「障がい者」と記載されている箇所があるが、表現を統一した方が良いのではないか。

○区民

- ・資料 4 の 5 ページにおいて、「また、歴史に触れる場合には正確な記述に努めるようにされたい。」とあるが、「正確な記述」は人によって異なる可能性もあるので、「客観的」という表現を追記すると良いのではないか。

○区民

- ・歴史に関する記述については、これまでも多く議論されてきた。例えば「私達が住む地域は」などに主語を変えても良いかもしれない。

○区民

- ・「正確な記述」という表現は誰か一人から見て正確であるという印象があるが、「客観的」と追記すると、誰もが認める事実という印象が出ると思うので、「客観的」という表現が追記された方が良いのではないか。

○学識経験者

- ・「正確かつ客観的に」というような表現に修正していく方向性とする。

○区民

- ・資料 4 の 6 ページに、「千代田区は、日本をリードし発展し続けている自治体の 1 つであり、今も躍進し続けていることが伝わるようにされたい。」とあるが、「自治体」という言葉に違和感を感じる。自治体には住民や区などの行政機関という意味合いがあるようだが、ここでは、企業や千代田区で働いている人たちも意味合いとして含めているので、「自治体」と表現すると区民と行政以外の主体が含まれないため表現を修正した方が良いのではないか。その上で、日本をリードしているのは、千代田区だけではないという趣旨を表現できると良いのではないか。

○学識経験者

- ・ご発言の趣旨はよく分かるが、「千代田区」を主語にすると、「自治体」という言葉で受けざるを得ないだろう。他自治体では、自治基本条例を制定し、「住民」の定義を広げているケースもある。つまり、在勤者や学生も住民であると捉えている自治体もある。そのような点も踏まえると、区民以外の在勤者や学生なども含め自治体と捉えていく事でも良いのではないか。修正は難しいかもしれないが、事務局でも検討していただきたい。

○区民

- ・「日本をリードする」という表現について、確かに経済的にはリードしていると思うが、子育てサービスの面では他自治体の方がリードしていると思う。ここでは、経済的な話だけではないと思うので、あえて「リード」という表現を入れなくても良いのではないか。

○区民

- ・具体的にどの面でリードしているかを明確に記載した方が良いと思う。

◎事務局

- ・基本構想のたたき台の「めざすべき将来像」においては、「政治、経済、文化の中心であり」という表現があり、その点がベースの提言だと認識している。

○学識経験者

- ・その点を踏まえると、この提言においても「千代田区は、政治、経済、文化の中心として、日本をリードし発展し続けており～」というような表現にしていけるのはどうか。

○区民

- ・「日本をリードする」という表現にすると、他自治体の方がリードしている分野もあり、正確ではない。そのため、皇居や国会などがあるという事実を踏まえ、「千代田区は日本の中心であり」と表現しても良いのではないのか。

○学識経験者

- ・くらしとまちづくり部会の議論では、行政サービスも含めて千代田区には先駆的な取り組みがあることや質の高いサービスを受けることが出来る点を誇りに思っているため、そのような趣旨を含めて「日本をリードする」という表現にしていた。

○区民

- ・千代田区はたまたま行政や企業を中心となっているが、区民にとってどうかと考えるとまた別の話であると思う。私も「日本をリードする」という表現については少し違和感を覚える。

○学識経験者

- ・「日本をリードする」という表現については、様々な意見があるが、これまでの議論を踏ま

え、行政サービスが良い、政治・経済・文化の中心であるという２つの要素を入れて、事務局に修正案を検討していただきたい。

○区民

- ・資料４の 22 ページにおいて、「秋葉原地区では先日も風俗が摘発されていた。」とあるが、この発言は、事実に基づいた適切な表現なのか。

○区民

- ・今年度の上半期にあった事件を基にその意見を述べた。

◎事務局

- ・その事件に関しては、風営法の違反で摘発されている可能性がある。改めて事実をこちらで確認し、適切な記載に努める。

○区民

- ・資料４の 22 ページにおいて、「特に古くからある銀座線など、地下鉄駅にエレベーターをつけてほしい」とあるが、事実として確かなものなのか確認していただきたい。

◎事務局

- ・確認させていただく。「銀座線」というのは具体的な例示だと思われるので、特定の表現ではなく、「地下鉄」と表現を改めることで意味を幅広く捉えることも可能かと思う。

○区民

- ・資料４の 5 ページにおいて、「東京 2020 大会」と記載があるが、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会」と表現した方が良いのではないか。

◎事務局

- ・そのように表現を修正させていただく。

5 今後の予定

◎事務局

- ・提言書の提出について、説明

6 閉会

（３）団体関係者ヒアリング結果

団体関係者ヒアリング結果

目次

1. ヒアリングでの意見

- (1)めざすべき将来像について
- (2)分野別の将来像について
- (3)その他、全体に関することについて

1 ヒアリングでの意見

■対象団体の関係分野一覧

子ども／子育て／教育／女性／高齢者／障害者／地域福祉／保健衛生／
スポーツ・文化／コミュニティ／町会／マンション／商工観光／環境／
まちづくり（エリアマネジメント）／外国人・国際平和／ジェンダーなど

1 ヒアリングでの意見

(1)「めざすべき将来像」について

- 現在はなくなってしまったが、昔はあった千代田区の良いものや、千代田区の最高地点、最低地点など千代田区のいろいろな情報を次世代に引き継いでいくべきだと思う。町名の由来などそういったものを次世代に伝えていきたい。
- 「伝統とモダンがとけあう」とあるが、「共存」や「ともに活かす」でも良いのではないかな。無理に一緒にする必要はないと感じる。古いものがしっかりと残って、新しいものと相互刺激になっているのが良い。
- たたき台の「4 基本構想の実現に向けて」の（2）の「国際都市東京の中心である千代田区として～」、あるいは（3）の「地域課題の解決や新たな活力の創出に～」といった記述は重要なことであり、「2. めざすべき将来像」にも、重複感が出ない形にして、同様の記述があった方がメッセージとして伝えられる。
- 「都心」や「モダン」、「歴史」とあるが、違和感を覚える。
- 伝統とは担う人が必要であり、そういった人がいなくなると伝統は途絶えてしまう。
- 「分野別将来像」の中で「笑顔で成長し合えるまち」とあるが、東京の人は表情が暗いと感じる。日常のふとした瞬間に笑顔になれる取組を意識してほしい。
- 基本構想については素晴らしいと思う。「伝統とモダンがとけあい未来に躍進する」の部分はまさに千代田区はこうあるべきだと思った。そして、問題は実際にどう進めるかだと思う。現基本構想において掲げた人口5万人は達成した。これはマンションができたからだと思う。しかし、マンションに住んでいる人の千代田区に対する愛着の度合いには幅があるように感じる。人口の数字的な目標だけに目を向けるのではなく、中身を充実させるべきである。
- 目指すべき将来像を読むとどここの自治体のことだか分からない。
- 彩、モダンなど難しい言葉を使っても区民は理解できないのではないかな。

1 ヒアリングでの意見 (2)「分野別の将来像」について

自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち

- 子どもがしっかりと遊べる場が必要だと思う。子ども達にとって住みよいまちにしてほしい。
- 障害のある方が運動できる場所が少ない。障害のある方も楽しめる場を作してほしい。
- 知的障害や精神障害を持つ方は、自ら声を上げたいが、自分の意見を発言する場や、自分の意見を発言できるようになる学びの場がない。当事者が自分の意見を発言できるようになることは重要であると思う。
- 「自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち」においては、人を活かすポイントがあっても良いと思う。千代田区の住民はいろいろなものを持っている。そこが、千代田区の長所だと思う。健康になれる環境（公園内の健康器具や散歩道のベンチなど）が重要であり、まちづくりとも連携する必要がある。
- 家族や地域との関係性が保たれてこそ、健康が維持されると考えられているため、そのような視点も重要である。（ソーシャルキャピタル）
- 文化に触れることは大切である。千代田区には都や国の文化資源もあり、本物に触れることができる望ましい環境がある。千代田区の子育ての課題としては、働いている人が多い、また、新たに転居してきた人で孤独な人が多い。最近千代田区に転入された方がスポーツの分野でなにを求めているのかが分からない。私たちは町会に入っているので、町会員の意見は聞けるが新しい住民の意見を聞く機会がない。
- 今は新しい区民が増えていて子どもを対象とした取組みや施設を建てることが重要でも、将来的に、子どもが成長した後には何が必要かを見据えて考えないといけない。

1 ヒアリングでの意見 (2)「分野別の将来像」について

集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち①

- 今はマンション住民にいかにも町会活動に参加していただくのが課題である。
- 地域のつながりが薄れてきている。
- マンション内のコミュニティや、マンションと周辺地域のコミュニティがしっかり形成されていないことは大きな課題であると認識している。また、地域の取組みに参加する人が増えないと、災害時の対応など新たな課題が生まれる。
- 多様性を活かしながらブランディングできていけると良い。既に「千代田」という名前がブランドイメージを持っていると思う。シビックプライドなど「千代田」に対する住民の想いを活かすことがコミュニティづくりのポイントだと思う。
- 「集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち」では、新しいものが生まれやすいまちというニュアンスを含んでも良いと思う。例えば、コミュニティの在り方も多様で良いと思うし、そのコミュニティ同士が横連携できていることが重要だと思う。
- 人との支え合いについては、伝統的な町会のようなしっかりしたつながりだけでなく、もっとライトなつながりなどいろいろな関わり方を支持するような書き方にすると、少し都会的で千代田らしくなるのではないかな。
- 千代田区には多くの教育機関があるので、分野別将来像の2つ目「集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち」の中にそのことに触れても良い。
- 何か区が課題に考えていることがあれば、お題として大学に持ってきてほしい。学生は、突飛なアイデアを出す印象があるかもしれないが、現場を見続けると、現場目線の保守的なアイデアを出すようになる。一長一短ではあるが、思っているよりもずっと現実的な提案もでき、学生にとってもいい経験になるだろう。それがひいては、「集い、つながるまち」にもつながってくると思う。
- マンションが増えているが、マンション住民で町会に協力してくれる人は少ない。また、入ってもすぐ抜けてしまう。根付いてくれる人を増やさないといいけない。
- 人のつながりが「村」のように強いから、それ故新しくきた人は入り込みにくいのではないかな。古くからいる人も、新しくきた人も双方正當な言い分がありなかなか交わらないのが課題ではないかな。

1 ヒアリングでの意見

(2)「分野別の将来像」について

集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち②

- 地域とどの程度関わられたかによって、子育ての充実度が違う。例えば私立学校に子どもが通っている場合、地域との関わりがない。地域と関わりがあることによって、お祭りに参加したり、地域のおじさん、お婆さんとあいさつをしたり関わりが生まれてくる。
- 以前は八百屋や魚屋などの商店が多くあって人が繋がっていたし、住民もお互いに干渉しながら生活していた。今はお互いに顔を合わせる機会も少なくなって、また、人によって価値観が違うのは当然で、以前のようなコミュニティの形は難しいのかもしれない。それに代わるようなコミュニティの在り方を考えていく必要がある。そのためには、一人ひとりでは限界があるので、区にアイデアを出してもらい、人が集まれる環境づくりや情報発信などを行ってほしい。
- 数十年後を見据えた基本構想ならば、持続可能な町会や商店街ができるよう考えないといけない。それには新しい方がどのように参加してくれるか考えていかないとけない。

1 ヒアリングでの意見

(2)「分野別の将来像」について

やすらぎを感じ、安心して快適に暮らせるまち

- 障害のある方にとって歩きやすい道、使いやすい公園といったまちづくり、場所づくりが必要と考える。
- 「やすらぎを感じ、安心して快適に暮らせるまち」については、千代田区は自然を大事にしていると感じる。皇居を中心に、緑や生物を大事にしているので、基本構想の中で「まちの中にある自然を大事にする」といったメッセージを入れると良いのではないかと感じる。
- 分野別将来像の「都市基盤や災害の体制」に関して、ハード面だけではなくソフト面の災害対応も重要である。
- リサイクルなど環境に貢献していくことを謳えるのではないかと感じた。
- 災害対策に関する記述の中で「安心」について強調したほうが良い。どのような事業を行っていくかなどの具体的な話は、別につくる計画に落とし込むのかもかもしれないが、安心についてももう少し触れてほしい。
- 障害者のための道路の利便性を改善してほしい。
- 施設は千代田区の財産となるものなので、考えて整備していかなければいけない。

1 ヒアリングでの意見

(3)その他、全体について①

- 「目指すべき将来像」について、中期的にみるのか、長期的にみるのか、それとも明日のことなのかが分からない。
- 株式会社の事業報告書のようなものである。株式会社の事業報告は、キャッチコピーもありながら数値目標や具体的な事業の記載がある。こちらの叩き台は具体性がなくただビジョンを掲げているだけである。
- 読者の多くは高齢者になると思うが、高齢者には新しい言葉はなじまない。できるだけ、高齢者にも馴染みのある言葉を使ってほしい。
- 分野別将来像は選挙で掲げる公約のようなものである。
- 「差別しない」ことが重要。差別が諸悪の根源であり差別をなくすことを前面にだしてほしい。
- たたき台の「はじめに」の部分で「リスク」という言葉が2回使われているが意味が分かりにくく違和感があるし、高齢化を「リスク」と表現すると高齢者はあまり良い気持ちをしないのではないかと。「少子・高齢化」の「進展」という言葉にも違和感がある。
- 住民だけでなく、他区の人や外国の人など、区外の人々の視点も大事にしてほしい。
- 若干読んでいると住民寄りの文章に感じられるので、外からどう写るか、品格のようなものも大事にしてほしい。
- 千代田区が企画したイベントに参加するだけでなく、個人が住民生活の向上のための意見をだして実現していく「参加型のまち」を将来像として提案する。
- 「3 分野別将来像」を見ても「働く」という視点、言葉がそんなに多くない。リモートワークが進んでおり、コロナ前のようなワーカーの戻りはないかもしれないが、区内全域において働く環境を整備していく姿勢が読み取れる表現があった方がよい。
- 「3 分野別の将来像」について、それぞれが何の分野がわかりづらい。
- もう少し具体性を持たせた方がよいと思う。内容が包括的になっている。

1 ヒアリングでの意見

(3)その他、全体について②

- 総花的な基本構想になっているが、例えば丸の内地区では子育てはあまり関係ない。個人的には災害に強いまちが重要だと思うが、各地域の優先順位が分かるとよい。
- 千代田区の良いところは人的な配置が充実しているところ。今後ITなどが発展していくと思うが、直接的な人の優しさを読み取れるとよい。
- 基本構想について、多様性の中で子ども、女性、高齢者が強調されているが、今まで語られてきた部分のみとなっている。今まで語られてこなかった障害者やLGBTを単語として取り入れるだけでもより多様性が協調できると思う。
- 良いものは残し、変えるべきところ（差別や偏見）は変える、という考え方がベースになるとよい。
- ジェンダーという言葉が出てこないことにも違和感を覚える。あえて使われていないのだと思うが、国際的にはジェンダーと使うことが多いため、使ってもよいのではないかと。
- 第3次基本構想の反省を踏まえて第4次基本構想に進んでいただきたい。
- 千代田区として、行政の役割ではなくまちづくりのあり方をどう考えているかも興味がある。「普通の生活の価値」といっても、人それぞれ「普通」の定義が異なる。例えば、住民同士の温かいおせっかいや豊かな自然環境は、地方では普通だが東京ではなかなか味わえない。こうした「地方の普通」と「東京の普通」を足して2で割り、それでも全員が「普通」と感じられるような落としどころを追求してほしい。
- 内容を読むとどこの区でも同じに見えてしまう。
- 記載内容が区民に寄りすぎているので、企業や産業、大学に対する文言がない。千代田区に本社や大学があることがステータスだと思うので、そういった人に響く文言がほしい。
- 今住んでいる人は、どうしても短期的な目線で考えてしまいがちだが、基本構想は、非常に長期的な視点で考えていく必要があり、将来を考えて持続可能性を意識してほしい。

1 ヒアリングでの意見

(3)その他、全体について③

- 基本的に構想には賛成です。ただし、実現していくためには、かなりな困難があると思われます。マンション等の新区民と、代々住まわれている方々との融和などを筆頭に、教育の平等という面から、公立学校に通う為に交通費がかかる等、細々にはたいへんな事が多いかと思われます。一つ一つ解決していく為に、住民参加で、丁寧に進めていただきたいと思います。
- 総論では良い言葉が並んでいるので問題はないと思う。
- 住民以外の「働いている人」や「学んでいる人」のための取組みも必要ではないか。そういった人たちに向けた取組みは事業者任せになっていると感じる。区も働く人や学ぶ人に向けた取組みを行うべきではないか。
- 住んでいたい住み続けにくい。住み続けられるまちにしてほしい。人口は増加していくかもしれないが、受け継ぐ人を増やしていかなければいけない。
- 「4基本構想の実現に向けて（3）参画・協働の推進」については、地域課題だけでなく、区民一人ひとりの課題まで対応するような表現があると良い。
- 活動の場を確保することと、子ども達にスポーツに親しんでいただくことが重要だと思う。そのためには企業の力を借りることも重要だと思う。
- インクルージョンの視点で多様な方々に対する支援の視点を次期構想には取り入れてほしい。特に障害のある子について少数派であるが故に行政の取組みとしてはあまり充実していない。

(4) アンケート結果等

アンケート結果

目次

- I 子どもの意見
- II 高齢者の意見
- III 女性の意見
- IV 障害等のある方の意見

I 子どもの意見

I 子どもの意見

調査概要

子どもの意見を収集するため、区内の小学校・中学校に協力を依頼し、アンケートを実施しました。

子どもアンケート概要

【調査目的】

千代田区で現在取り組んでいるさまざまな課題などについて、より良い行政サービスの提供へ向けた検討を行うための基礎資料とします。

【対象者の抽出方法】

区内の小学校・中学校に在籍する小学5年生～中学3年生の児童・生徒

【配布回収方法】

オンラインアンケート(Microsoft forms)の回答URLを各学校に配布し、各クラスにて趣旨説明、回答操作の補助を実施いただきました。

【調査期間】

令和4年7月11日(月)～令和4年7月20日(水)

【回収結果】

回収数	無効数	有効数
1689	0	1689

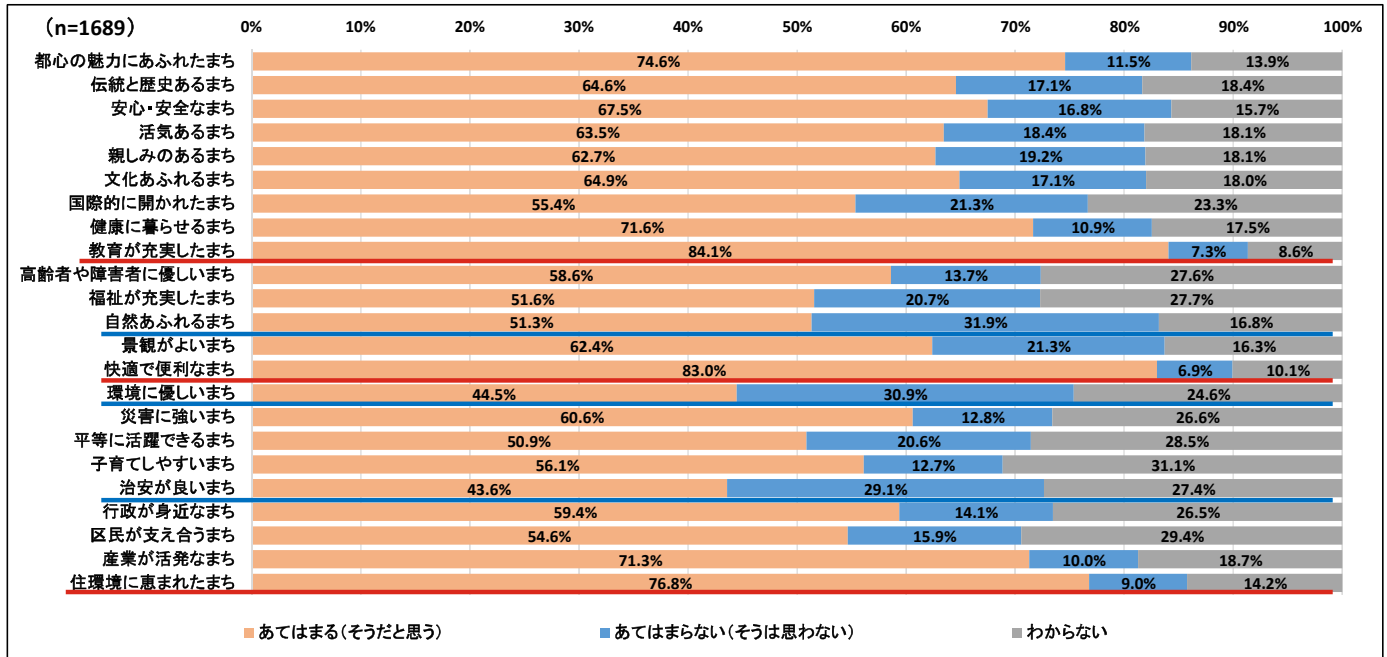
報告書の表記について

- 一部の設問の回答結果を抜粋しています。
- 複数回答形式の場合、構成比の合計が100%を超えることがあります。
- 質問の内容は意味を損なわない程度に省略した表現を用いていることがあります。(実際のアンケートでは平易な表現を使用しています)
- 表示している単位未満については、四捨五入をしています。

今の千代田区のイメージ

- 現在の千代田区のイメージについて、最もあてはまると回答した人が多かったのは「教育が充実したまち」で84.1%でした。次いで、「快適で便利なまち」、「住環境に恵まれたまち」がそれぞれ75%以上の回答を獲得しています。
- 一方で、あてはまらないと回答した人が多かったのは、「自然あふれるまち」の31.9%で、「環境にやさしいまち」が30.9%、「治安が良いまち」が29.1%と続きます。

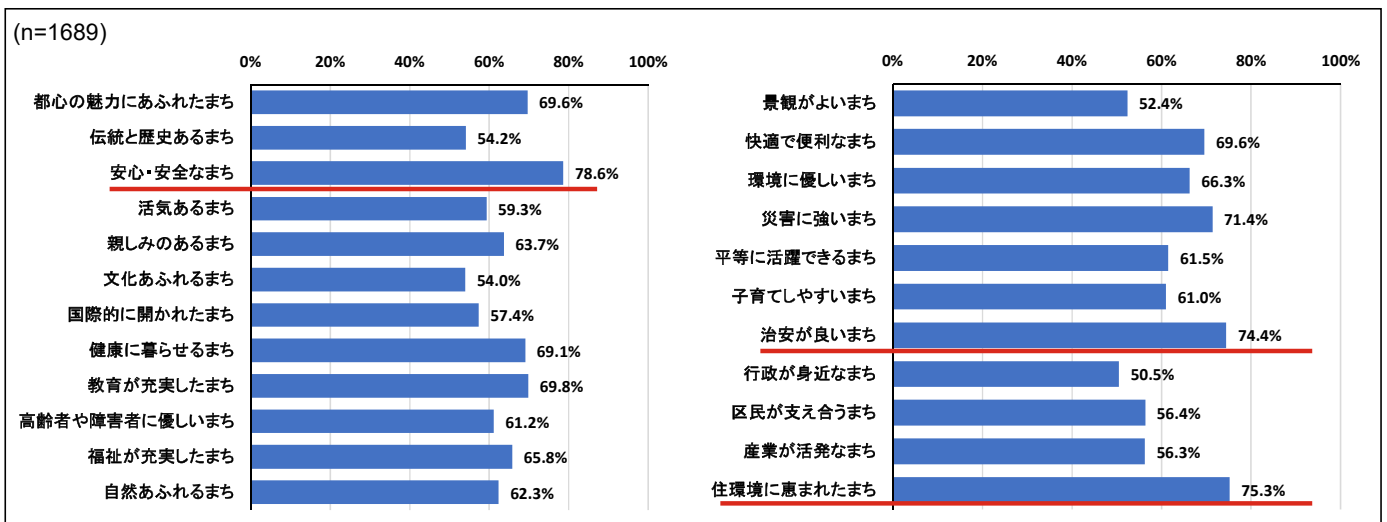
子どもが抱く今の千代田区のイメージ



10年先を見据えたときの、望む千代田区の姿(あてはまるものすべて)

- 千代田区の望む姿について、最も回答した人が多かったのは「安心・安全なまち」で78.6%でした。次いで、「住環境に恵まれたまち」、「治安が良いまち」が続きます。
- 一方で、最も回答割合が低かったのは、「親しみやすい区役所や出張所などがあるまち」で、「歴史や伝統、自然などの風景や景色がたくさんあるまち」、「文化あふれるまち」と続きます。

子どもが望む10年先の千代田区の姿



Ⅱ 高齢者の意見

Ⅱ 高齢者の意見

調査概要

以下のとおり実施された在住区民アンケートのうち、65歳以上の回答者の回答データを抽出し、高齢者の意見の分析を実施しました。

在住区民アンケート概要

【調査目的】

千代田区で現在取り組んでいるさまざまな課題などについて、より良い行政サービスの提供へ向けた検討を行うための基礎資料としました。

【対象者の抽出方法】

千代田区在住の満18歳以上の男女のうち、令和4年1月19日現在の住民基本台帳から、4000名を居住地区、年齢別に層化したのちに無作為抽出しました。

【配布回収方法】

アンケート調査用紙を抽出した4000名に郵送し、同封した返送用封筒を用いて郵送による返信、及び回答専用ページからの回答(web回答)を依頼しました。

【調査期間】

令和4年1月20日(金)～令和4年2月9日(金)

【回収結果】

配布数	回収数	Web回答数	無効数	有効数	65歳以上回答数
4,000	767	534	1	1,300	368

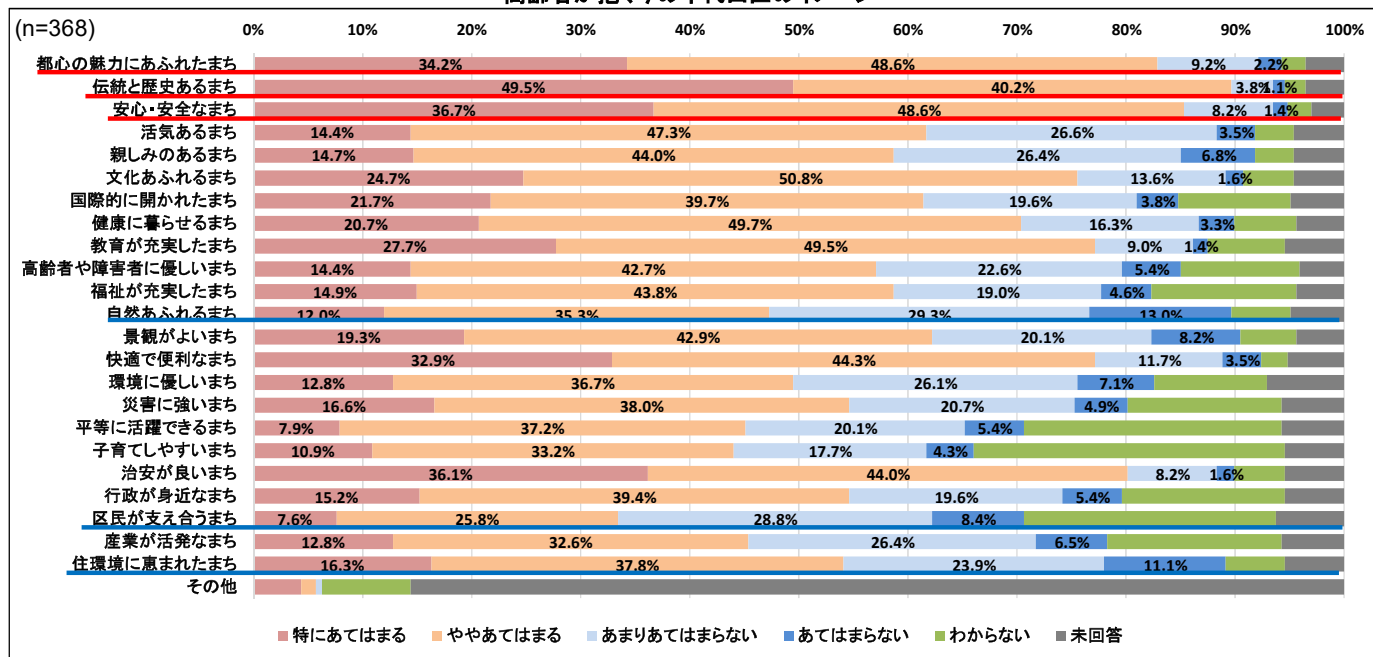
報告書の表記について

- 一部の設問の回答結果を抜粋しています。
- 複数回答形式の場合、構成比の合計が100%を超えることがあります。
- 質問の内容は意味を損なわない程度に省略した表現を用いていることがあります。
- 表示している単位未満については、四捨五入をしています。

今の千代田区のイメージ

- 現在の千代田区のイメージで「特にあてはまる」、「ややあてはまる」の合計が最も大きかったのは「**伝統と歴史あるまち**」の89.7%で、続いて「**安心・安全なまち**」が85.3%、「**都心の魅力にあふれたまち**」が82.9%となっています。
- 一方、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」の合計が最も多かったのは「**自然あふれるまち**」の42.4%で、続いて「**区民が支え合うまち**」が37.2%、「**住環境に恵まれたまち**」が35.1%となっております。

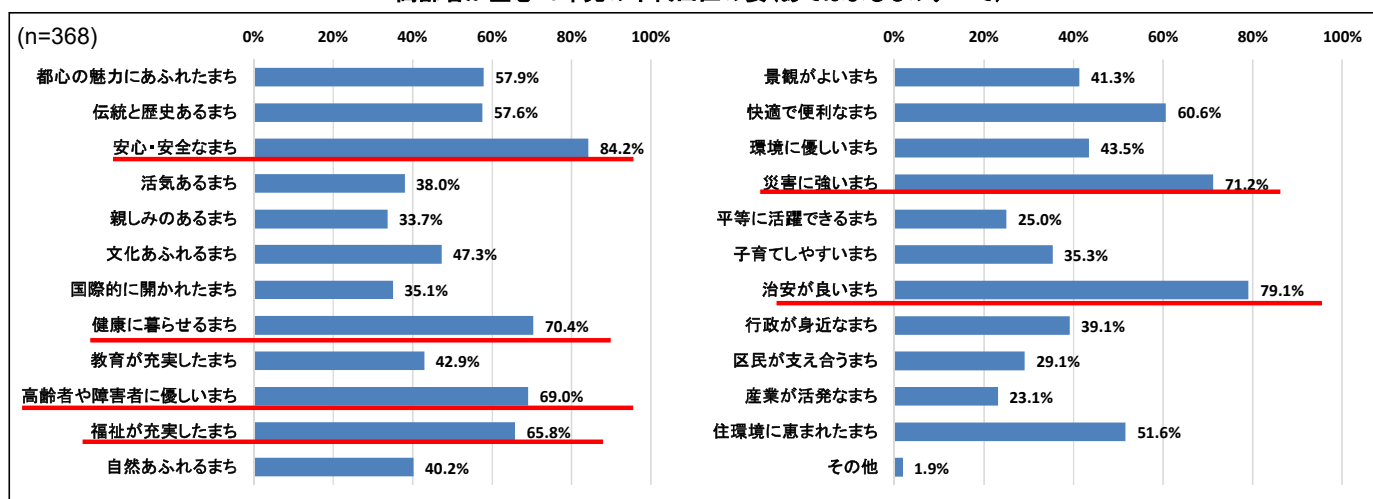
高齢者が抱く今の千代田区のイメージ



10年先を見据えたときの、望む千代田区の姿(あてはまるものすべて)

- 千代田区の望む姿について最も多かったのは「**安心・安全なまち**」の84.2%で、続いて「**治安が良いまち**」が79.1%、「**災害に強いまち**」が71.2%となっています。上位3つがすべて安心や安全に関わるものとなっています。
- また、次には「**健康に暮らせるまち**」が70.4%、「**高齢者や障害者に優しいまち**」が69.0%、「**福祉が充実したまち**」が65.8%と続いており、健康や福祉分野への関心が高いことが分かります。

高齢者が望む10年先の千代田区の姿(あてはまるものすべて)



Ⅲ 女性の意見

Ⅲ 女性の意見

調査概要

以下のとおり実施された在住区民アンケートのうち、女性の回答者の回答データを抽出し、意見の分析を実施しました。

在住区民アンケート概要

【調査目的】

千代田区で現在取り組んでいるさまざまな課題などについて、より良い行政サービスの提供へ向けた検討を行うための基礎資料とします。

【対象者の抽出方法】

千代田区在住の満18歳以上の男女のうち、令和4年1月19日現在の住民基本台帳から、4000名を居住地区、年齢別に層化したのちに無作為抽出しました。

【配布回収方法】

アンケート調査用紙を抽出した4000名に郵送し、同封した返送用封筒を用いて郵送による返信、及び回答専用ページ(web回答)からの回答を依頼しました。

【調査期間】

令和4年1月20日(金)～令和4年2月9日(金)

【回収結果】

配布数	回収数	Web回答数	無効数	有効数	女性回答数
4,000	767	534	1	1,300	752

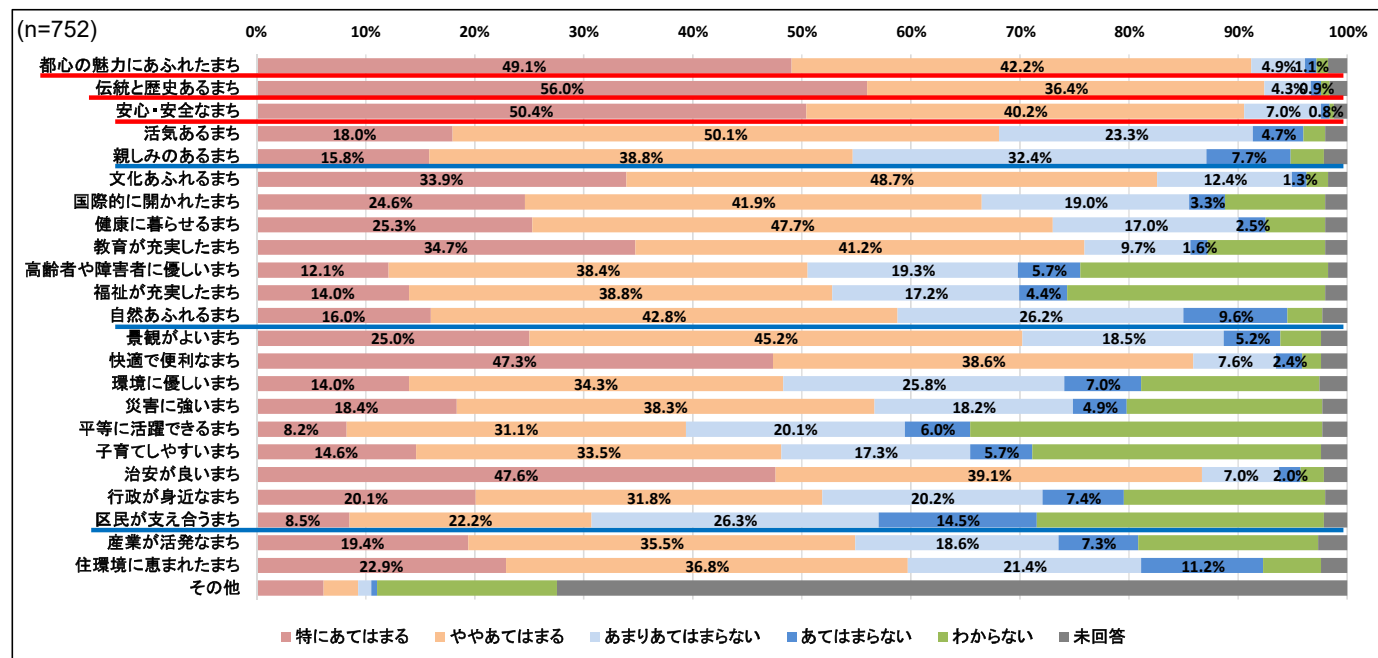
報告書の表記について

- 一部の設問の回答結果を抜粋しています。
- 複数回答形式の場合、構成比の合計が100%を超えることがあります。
- 質問の内容は意味を損なわない程度に省略した表現を用いていることがあります。
- 表示している単位未満については、四捨五入をしています。

今の千代田区のイメージ

- 「特にあてはまる」、「ややあてはまる」の合計が最も大きかったのは「**伝統と歴史あるまち**」の92.4%で、続いて「**都心の魅力にあふれたまち**」が91.2%、「**安心・安全なまち**」が90.6%となっています。
- 一方、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」の合計が最も多かったのは「**区民が支え合うまち**」の40.8%で、続いて「**親しみのあるまち**」が40.2%、「**自然あふれるまち**」が35.8%となっております。

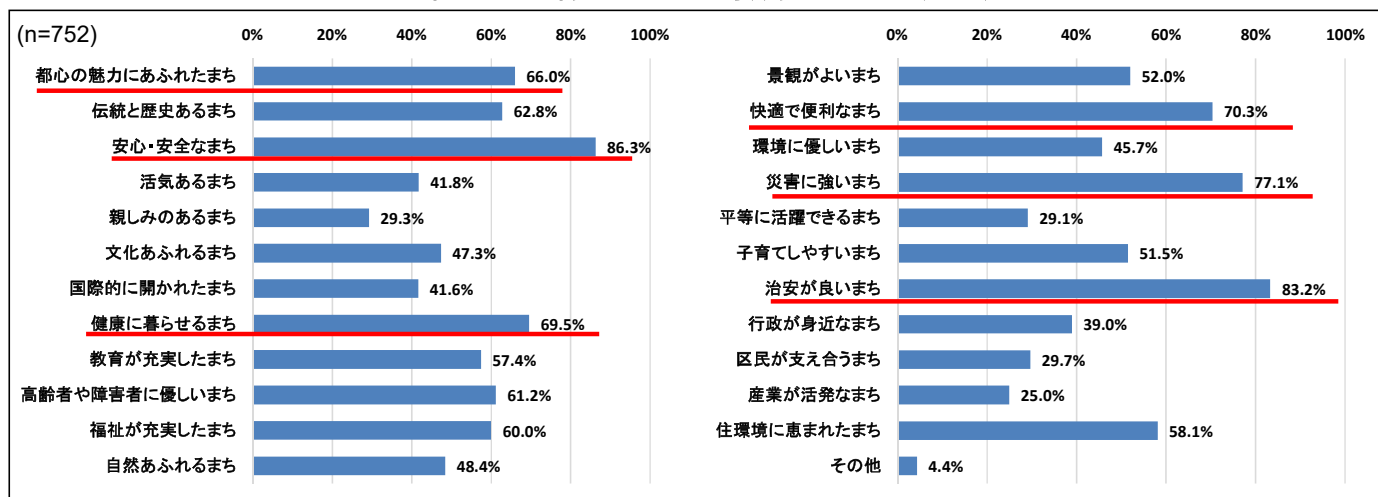
女性が抱く今の千代田区のイメージ



10年先を見据えたときの、望む千代田区の姿(あてはまるものすべて)

- 千代田区の望む姿について最も多かったのは「**安心・安全なまち**」の86.3%で、続いて「**治安が良いまち**」が83.2%、「**災害に強いまち**」が77.1%となっています。上位3つがすべて安心や安全に関わるものとなっています。
- また、次には「**快適で便利なまち**」が70.3%、「**健康に暮らせるまち**」が69.5%、「**都心の魅力にあふれたまち**」が66.0%と続いており、利便性、健康、魅力への関心が高いことが分かります。

女性が望む10年先の千代田区の姿(あてはまるものすべて)



Ⅳ 障害等のある方の意見

Ⅳ 障害等のある方の意見

調査概要

調査目的

千代田区では、障害等のあるなしに関わらず、地域を構成するすべての人が互いを尊重し、支え合う共生社会の実現に向けて、障害や障害等のある方に対する理解の促進を図っています。

不便だった「コト」や「モノ」の改善に向け、困ったことや悪かったことを調べる従来の「不便さ調査」とは発想を変えた、プラス面（良かったこと）をより活かす調査として実施したものです。

区内の障害等のある方を対象に、区内で良かった「コト」や「モノ」などについて、主にアンケートによる調査結果を整理・分析し、共生社会の実現のための障害者施策の展開に活かすとともに、地域での理解の輪を広げていくことを目的としています。

調査設計及び回答件数

- 調査対象 アンケート調査：千代田区内の障害等のある方 2,069人
ヒアリング調査：視覚障害1級または同等程度で、1人暮らし等で支援が得られず1人での回答が困難な方 8人
- 調査方法 アンケート調査：郵送配布・郵送回収
ヒアリング調査：障害者よろず相談MOFCA職員・区職員立会いの元で直接聞き取り
- 回答件数 790人（アンケート調査：786人、ヒアリング調査：4人）

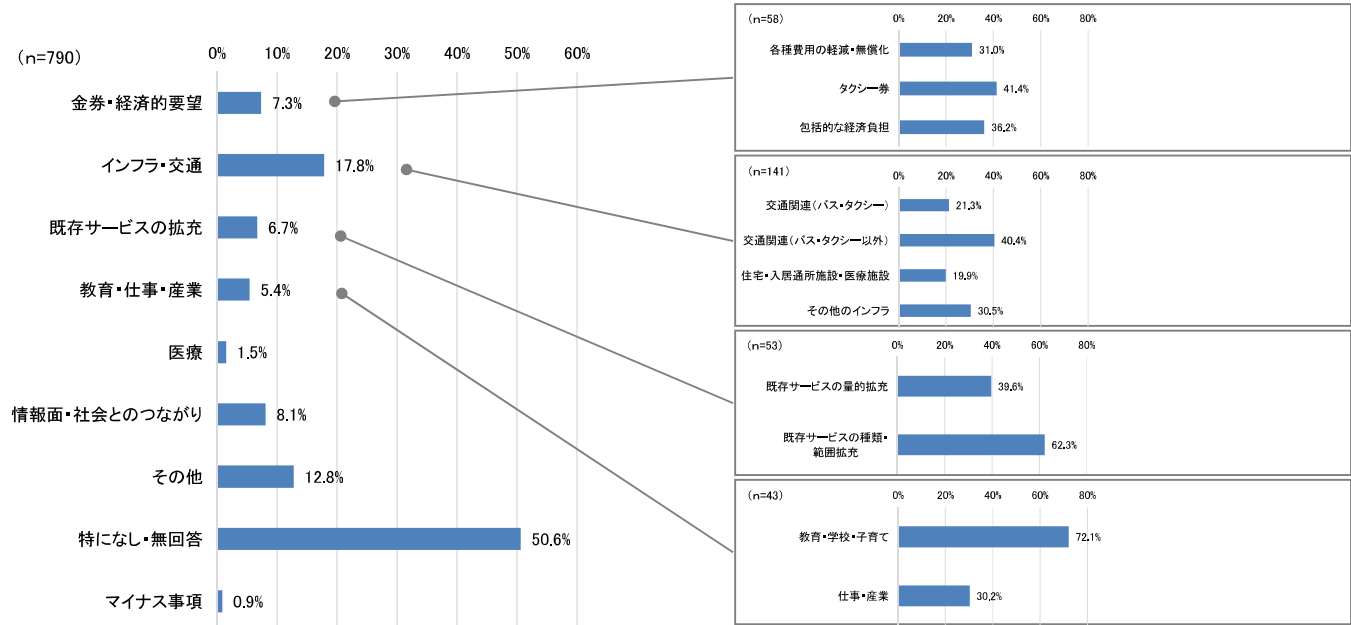
報告書の表記について

- 一部の設問の回答結果を抜粋しています。
- 調査結果の構成比はすべて百分比(%)で表しており、その質問の回答者総数を基数として、小数点第2位以下を四捨五入して算出しています。なお、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。
- 複数回答形式の場合、構成比の合計が100%を超えることがあります。
- 質問の内容は意味を損なわない程度に省略した表現を用いていることがあります。
- 基本構想（たたき台）の検討にあたり、必要とするサービス等のニーズ部分について、アンケート調査の集計結果を抜粋しています。

今後の千代田区の障害者施策で具体的に必要とするサービスや充実してほしい内容

- 「インフラ・交通」の割合が17.8%と最も高く、次いで「情報面・社会とのつながり」の割合が8.1%、「金券・経済的要望」の割合が7.3%となっています。
- 「金券・経済的要望」の中では、「タクシー券」の割合が最も高く、次いで「包括的な経済負担」となっています。
- 「インフラ・交通」の中では、「交通関連（バス・タクシー以外）」の割合が最も高く、次いで「その他のインフラ」となっています。
- 「既存サービスの拡充」の中では、「既存サービスの種類・範囲拡充」の割合が最も高く、次いで「既存サービスの量的拡充」となっています。
- 「教育・仕事・産業」の中では、「教育・学校・子育て」の割合が最も高く、次いで「仕事・産業」となっています。

必要とするサービス・充実してほしい内容（全体集計）



今後の千代田区の障害者施策で具体的に必要とするサービスや充実してほしい内容

- 全体では、「インフラ・交通」の割合が最も高くなっていますが、知的障害と障害児では「教育・仕事・産業」、精神障害では「情報面・社会とのつながり」の割合が最も高くなっています。

必要とするサービス・充実してほしい内容（属性別集計）

	合計（n）	金券・経済的要望				インフラ・交通					既存サービスの拡充			教育・仕事・産業			医療	情報面・社会とのつながり	その他	特になし・無回答	マイナス事項
			償化	各種費用の軽減・無	タクシー券		包括的な経済負担	交通関連（バス・タクシー以外）	交通関連（バス・タクシー）	住宅・入居通所施設・医療施設		その他のインフラ	既存サービスの量的拡充		既存サービスの種類・範囲拡充	教育・学校・子育て					
全体	790	7.3%	31.0%	41.4%	36.2%	17.8%	21.3%	40.4%	19.9%	30.5%	6.7%	39.6%	62.3%	5.4%	72.1%	30.2%	1.5%	8.1%	12.8%	50.6%	0.9%
身体障害	480	7.9%	21.1%	50.0%	34.2%	18.8%	28.9%	41.1%	12.2%	32.2%	7.3%	37.1%	65.7%	2.7%	76.9%	23.1%	1.3%	5.4%	13.8%	52.9%	0.8%
知的障害	63	1.6%	0.0%	0.0%	100.0%	22.2%	14.3%	7.1%	71.4%	21.4%	9.5%	16.7%	83.3%	25.4%	81.3%	25.0%	1.6%	17.5%	3.2%	39.7%	0.0%
精神障害	105	10.5%	63.6%	9.1%	54.5%	14.3%	6.7%	26.7%	33.3%	40.0%	6.7%	71.4%	28.6%	6.7%	14.3%	85.7%	2.9%	16.2%	18.1%	36.2%	1.9%
指定難病	95	5.3%	40.0%	60.0%	0.0%	14.7%	7.1%	57.1%	7.1%	28.6%	2.1%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	5.3%	11.6%	61.1%	1.1%
障害児	19	5.3%	0.0%	0.0%	100.0%	15.8%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	15.8%	66.7%	33.3%	31.6%	100.0%	0.0%	0.0%	15.8%	0.0%	36.8%	0.0%
無回答	28	7.1%	50.0%	50.0%	0.0%	17.9%	0.0%	80.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	100.0%	0.0%	0.0%	7.1%	10.7%	64.3%	0.0%

(仮称) 第4次基本構想(たたき台)に対する意見募集の結果について

No	意見提出者の区分	意見内容
1	1.区内に住所を有する方	・建物、ビルやマンションの外観を白色にする。玄関、入口をそこに住んでる住民が建物、ビルやマンションの住民の好みの色に一色塗る。
2	4.その他利害関係を有する方	・現代社会には、随時、変遷するため、"何かを求めるのか"の議論も大切だが、世界の人、誰もが何時でも穏やかな平和な地であることを実感できる環境を備えた理想郷が、千代田のあるべき姿である。現実を築く多種・多様・多彩なる人たちが集う地には、計り知れない自然の恵み、科学の進展による景観が構築されているだろう。 ・社会、環境、衛生、福祉の拠点の確立を描くためには、「新型病床探求機構(仮称)の設立」や「機構設立推進委員会による手続き準備を遂行」が考えられる。
3	1.区内に住所を有する方	・現在の神田駅西口地区は飲食店が多数ありとても魅力的である一方、街の景観が綺麗とは言えず、飲食店やマッサージのキャッチも多く、清潔さに欠けていると感じている。駅前の道路を綺麗に舗装してもらい、建物の建替え、改修を行ってもらいたい。また、飲食店やマッサージのキャッチについても規制を頂きたい。 ・神田駅西口地区をファミリーでも安心して歩ける地域にってもらいたい。その上で、神田地区も日本一(の食、文化、教育等を)目指す街として計画をお願いしたい。
4	1.区内に住所を有する方	・千代田区は、区外も含めて色々なエリアがつながり、互いにそれらの特性を享受するとしている。区の施策として、これらの基本的な特徴を充分に見極め活用することに注力し、短期的な視点での開発・変更を行わないという方針を持つべきである。先般策定された千代田区都市計画マスタープランを遵守し、千代田区の特徴のあるエリアを、どこにでもある町にしないように工夫すべきである。住民が区と作り上げた地区計画も破る超高層ビルの建設を区が先導して許容してはならないと思う。自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち、集い、つながり、活気と賑わいのあるまち、やすらぎを感じ、安心して快適に暮らせるまちをつくるには、伝統と歴史と特徴を変えずに、工夫次第で実現可能である。区民の意見を充分に把握する工夫をしていく必要があり、現在はこれが欠けている。区民に対する情報発信を適時適切に行い、区政への区民の主体的な参画を推進していくとの方針は、具体的にはどのようにすべきかとの研究を行い、区民に問うことを求めたい。
5	1.区内に住所を有する方	・目指すべき将来像として、「千代田に住み、働き、学び、集うすべての人びと」に焦点を当てていることを高く評価したい。これまで「人」よりも「企業・会社」に焦点が当てられてきたように感じられるからである。これからの時代は、行政が「そこに住み、働き、学び、集うすべての人びと」に焦点をあてることを期待したい。 ・(仮称)第4次基本構想(たたき台)はよく書かれてはいるが、もう一步、踏み込んで、例えば「ハード」から「ソフト」への重視を謳って頂けないか。「ビルが建ち並ぶ千代田区」ではなく、「人々の笑顔がある千代田区」を望む。 ・「町会」、「隣組」、「回覧」などを通じた住民の意向集約はもはや機能しづらくなっている。インターネットを使ったアンケートなどをもっと利用して住民の意向集約に努める、そのことを基本構想で謳ってほしい。
6	1.区内に住所を有する方	・分野別の将来像で示されている3項目(健康な暮らし・賑わい・住環境)は、それぞれ千代田区の重要な政策目標であり、賛成する。 ・千代田区の中の地域別特色を十分反映出来ていないと思う。 ・千代田区の魅力は、国際的ビジネス街、国政の中心、江戸時代からの商業地、閑静な住宅街、といった地域がそれぞれその特徴を維持している事である。それぞれの地域の特徴を伸ばし、千代田区の高多様性を促す基本構想作りをお願いしたい。
7	1.区内に住所を有する方	・人口増が現在のインフラに与える影響や区の考えを明示する必要があると思う。心地の良い言葉が並んだ「たたき台」ではなく、重要な課題である「人口問題」への区の取り組み態勢を述べていただきたい。

8	1.区内に住所を有する方	・はじめにでは、「アフターコロナの暮らしに明るさと豊かさを実感できる千代田の新時代」とあるが、アフターコロナの千代田区の課題（現状認識）が何かを具体的に提示頂きたい。区民としては、「住み続けられ住みたくない街造り」が依然として重要な価値だと考えている。 ・千代田区は長い歴史もあり、また国会、官庁、ビジネス、学校や住宅地区など多様性に富んだ地域だと思う。将来像は、「分野別」だけではなく「地域別の将来像」も掲げて頂く方が良い。「人が主役」との認識であれば、住居環境や学校・文教施設の充実などにも是非ご配慮頂きたい。 ・「区民の主体的な参画」とあるが、千代田区からの発信だけでなく、区民の声の幅広い吸い上げにもより丁寧な対応が望まれる。
9	1.区内に住所を有する方	・以下の要素を「めざすべき将来像」に挿入してほしい。 【皇居を中心とし、その東南に議事堂、官庁街。東側には大丸有に代表される我が国最大のビジネスエリア、北側には神田の誇る古書店街、若者文化を牽引する秋葉原、また西側の番町は明治政府の俊英たちの居住地となったことから、西欧の情報の太いパイプとなりました。江戸文化と西欧風の香りが番町個々の知的な風土を作り上げました。とりわけ近代教育、それも女子の近代教育にその風土は見て取れます。現在でも設立100年を超す有名校が7校存在します。これらの歴史的背景が、番町固有の住環境・教育環境を作り上げました。】 ・主にまちづくり事業に関し、参画・協働が円滑に働いていないと思われる。より丁寧な情報発信、意向調査を目指す趣旨を盛り込んでほしい。
10	2.区内に事務所または事業所を有する個人および法人その他の団体	・目指すべき将来像について、また実現に向けた方策について、現状認識をまず明確にすることが必要である。 ・「良好な環境」については、千代田区は首都東京の中でも中心部であり、率先して取り組んでいく必要がある。千代田区の地球温暖化対策の効果はCO₂の排出量で測られているが、途中から効果が下がっている。それは、この数年容積率が緩和され、高いビルが増えた時と一致している。この現実を目を背け、さらなる高層建築物を作ることとは、地球温暖化を促進する。建築物の高層化はこの現実において、やってはならないことである。もう一つは、現在ある樹木を守ること、一本も切ってはならない。 ・「区民の主体的な参画」は歓迎する。風通しのいい開かれた区、ジェンダー平等、全員参加で地球温暖化対策に取り組んでいく必要があると考える。今回の基本構想には、CO₂排出量を減らすことを具体的に進めていくことをうたってほしい。
11	1.区内に住所を有する方	・住民は自分たちが大切にされ、幸せに暮らせることを願っている。千代田区は住民との信頼関係を再構築する必要があるのではないかと。 ・目標に年次がないのはなぜか。いつまでに何を達成するのか期限を決めることは重要である。 ・担当部署で町会長を集めての推進協議会では住民自治が機能しない。神田警察通りのイチョウ伐採に関する住民訴訟で明らかになったのは住民参加を担保する条例があるにもかかわらず、遵守されていないことである。 ・デジタル民主主義の時代を先取りするシステムの構築を期待したい。
12	1.区内に住所を有する方	・現役時代に、海外駐在を合計5カ国で22年ほど経験した。街並みと景観を考えたとき、一つだけ、決定的に残念に思うことがある。それは電柱の存在である。どうして電柱をなくせないのか不思議である。
13	1.区内に住所を有する方	・第3次基本構想を廃案にしてほしい。 ・目標年を決めないで美辞麗句等抽象的な文言を羅列した構想は、意味がない。どの自治体でも通用するものは意味がない。 ・地球規模の異常気象による千代田区への影響をいかに軽減できるか、集中豪雨、台風の大規模化、熱波、必ず発生する首都直下型地震等への備えではないか。 ・千代田区で人口の適正規模はどの程度か。これ以上住民を増やしたときのデメリットを区は真剣に考えなければならないのではないか。 ・街づくりにおいて、あまりにも前近代的である。当たりまえのことが遅れすぎている。

14	1.区内に住所を有する方	・区の立場「区民の命と生活を守る」をまず約束してほしい。 ・情報発信が区民全域に周知されていない。今までの広報、意見聴取のやり方では駄目だということである。住民への周知の徹底とファックスを持っていない、メールを送信出来ない区民の意見も聴取出来るシステムが必要である。区と区民一丸となったまちづくりを千代田区全体で実現してほしい。 ・「だれもが豊かさを享受できるまちをめざす」とあるが、大丸有、神田・秋葉原の商業地域、番町・麹町のようなそれぞれ特色をもつ地域から成っており、それをひとまとめにしては無理があるので将来像は地域別に掲げるべき。 ・「暮らし続けられる様に決め細かな行政の施策を行う。」と行政の義務も書いてほしい。区と区民が一丸となって、暮らし続けたいと思える住環境を作してほしい。 ・基本構想には「文教地区」という視点が欠けている。千代田区は文教を重視していないのか。文教地区だどののに番町地域では事業者と一丸になって高層ビルを建てる為の地区計画変更に行政が力をいれていることは大変残念な事である。区民や団体、企業だけでなく、教育機関およびそこで学ぶ学生が魅力あるまちを目指すことを盛り込んでほしい。
15	1.区内に住所を有する方	・行政は番町の文教地区としての歴史の重みを、本当に理解されているとは思えない。活気とは、華やかさや利便性ではなく、穏やかな学びと、そこに住んだり働く人々が、信頼とともに築く日常性の上に成り立つものではないではないか。歴史ある文教地区、住宅街に、見知らぬ回遊者が大勢闊歩することは、活気ではない。また、治安の維持にも結びつかない。教育こそが、差別のない、戦争のない、他者を思いやる事ができる心を育てる為の、最も重要な鍵である。100年後200年後の価値に繋げていく為の都市構想を実現して頂きたいと切に願う。
16	1.区内に住所を有する方	「行政を自らの判断と責任において」とあるが、基本的には「行政裁量に委ねる」と言う意味にも捉えられかねない表現である。基本構想に「住民の意見を聞くこと」は全く必要なく行政主導で進められるのではという事なのかという疑念が湧く。 ・千代田区は住民の人口が何名になることを目標としているのか。どのような世帯を増やすことを目標としているのか。生活に根付いた具体的な数値目標をご提示されことで非常に共感を得られやすいと考える。 ・千代田区に長く住む人たちの話を聞くと、昭和の時代の千代田区の「にぎわい」は住民たちの「にぎわい」である。今の秋葉原などの「にぎわい」とは毛色が違う。この構想は何を目指し、どのようなタイムラインで、どのような人たちが構想及び決定に関わっているのか。 ・「まちには「人」がいて、はじめて活気とにぎわいが生まれます。」とあるが、本当に全てのまちに「にぎわい」が必要なのでしょうか。夜に自宅で「やすらぎを感じたい」と思うときに、自宅周辺で「にぎわい」があると「安心して快適に」暮らせませんか。住民目線も忘れずお考え頂きたい。 ・今回の基本構想と都市計画マスタープランの違いは何か。どちらも都市、まちの未来を構想するものだと思うのですが、何が違うのか。 ・良好な環境を次世代に継承するためには、最新の技術を取り入れるだけでなく、先人たちに学ぶ必要もあると考える。例えば、いちょうの木々は街路樹として植えられているが、これらは関東大震災の時に焼失しなかったことから「火伏せの木」として植えられた。千代田区は、政治・経済・文化の中心として歴史を刻んできた地域なので、過去のを古くなったから更新する、というだけでなく、維持・保存し将来への教訓とする姿勢を持つべきであり、それがまちの「魅力」であると思う。 ・『はじめに』には「千代田区は、約400年にわたり」と書かれているが、歴史の改竄はやめてほしい。千代田区は昭和22年に成立した区である。昭和22年以来、日本の中心としての役割を果たしてきた、といったような書き方が良い。 ・行政としては、どのように「住民自治」を促していく計画なのか。 ・子育て世代は千代田区に住み続けるのか。高い教育を受けた子どもたちが千代田区に住み続け歴史を継承してける可能性を秘めた魅力ある基本構想を打ち出して頂きたい。
17	1.区内に住所を有する方	・景観的視点が欠けている。千代田区は各地域別に特色があり、その土地の持つ記憶を踏まえて、独特の発展をしてきたことを考え、むしろ地区別の将来展望を提示すべき。 ・景観の項目があるべきである。 ・将来像を実現するために、区民、事業者、行政だけではなく、多様な専門家、NPO等々を積極的に取り込んで、全てを公開形式で、より優れたまちづくりを目指すシステムの構築が希求されている。

18	2.区内に事務所または事業所を有する個人および法人その他の団体	・時宜にかなった素晴らしい取組だと思う。内容については、SDGsのコンセプトが盛り込まれており、概ね好感している。 ・多くの住民やステークホルダーにとって納得できるたたき台だと思う。 ・「危機」に対する取組を構想の柱の一つに示すべきである。（（１）千代田区の住民に対する生命や生活の安全性に取組むこと（２）千代田区に本社のある上場企業にとって安全な地域と判断されるよう取組むこと） ・本たたき台に示されるように区民の安全を第一と置く場合、その実現可能性に至る道筋はこれまでと同じというわけにはいかない。 （１）住民の安全…令和の時代となってきた大きな環境の変化は、①コロナ禍における様々な危機、②気候変動と自然災害による危機、③紛争や犯罪に巻き込まれる有事における危機である。とりわけ基礎自治体として、国や都とは異なる目線で取組まなければならない。国や都が目を向けられない千代田区の住民に対する生命の安全性に向けた取組は、区の使命として明らかにすべきではないか。 （２）企業の安全…大企業が集積する特殊性を鑑み、国や都の立場とは異なる千代田区の独自性を出すべきである。
19	1.区内に住所を有する方	以下のとおり代案を検討した。 １．はじめに 千代田区は、特に、江戸幕府により飲料水の確保、水運、水害対策などのために川の整備がされたことから、江戸城を中心とした巨大都市へと発展し、約４００年にわたる日本の政治の中心に加え、経済・文化の中心としても歴史を刻んできました。「千代田」の名称は、この江戸城の別名である千代田城に由来します。区内の川の機能については、近代水道の整備や第二次世界大戦後に輸送手段が陸路へと変遷したことにより衰退傾向にありましたが、近年、人々が生きるために必要な自然環境や防災機能といった観点から水辺空間の重要性が再認識されてきています。区の人口については、昭和３０年代以降、業務地化の進行により定住人口は減少傾向でしたが、平成１３年以降は定住人口の増加に転じ、今後も増加傾向が予測されているものの、日本全体では少子・高齢化の進展などにより活力の低下が懸念されています。また、近時においては、令和２年の新型コロナウイルス感染症の発生や、令和４年のロシアによるウクライナに対する軍事侵攻は、天然痘、麻疹、コレラ、ペストといった感染症や戦争、その他自然災害や飢饉といった人類の歴史を想起させ、生命の危機に直結する様々な問題が私たちの生活において常に隣り合わせであることをまざまざと実感させました。私たちは、このような歴史的教訓を踏まえた上で、変化に耐えうる機動的で柔軟な対応を行い、区民や区に関わる全ての人々と一体となって、豊かな地域社会を継承していくために、千代田区の新たな基本構想を定めます。 ２．区と基本構想の役割 （１）区の役割 地方公共団体は、日本国憲法で定める地方自治の本旨に基づき、住民福祉の増進を図るために、地域における行政を自らの判断と責任において総合的に実施する役割を広く担う存在です。住民に最も身近で基礎的な地方公共団体である千代田区は、住民の暮らしに直接関わる仕事を優先的に行っています。今後とも、安定的な財源の確保に取り組むとともに、自らの意思と責任で主体的に取り組める住民自治を確立し続けていきます。 （２）基本構想の役割 基本構想は、千代田区の様々な行政計画の最上位に位置付けられる基本的理念であるとともに、行政運営の基本となる指針です。さらに、区民や区に関わる全ての人々と共有し、一体となって実現、継承していくための指針としての役割を持つものです。 ３．基本構想 （１）江戸時代以降、近代日本の礎を築いてきた伝統を守り、千代田区民として誇りを持って生きられる社会にします。 （２）地域に根ざした人間性豊かな教育を行い、歴史的に培われた文化及び自然遺産の保護及び継承を行い、将来世代を育みます。 ≪「教育と文化のまち千代田区宣言」(昭和５９年３月１５日告示第１５号)≫ （３）国際都市東京の中心である千代田区は、世界の恒久平和を実現するために、家族といった最小単位から、地域や世界の人々まで連帯して積極的に行動します。 （次ページに続く）

		≪「国際平和都市千代田区宣言」(平成7年3月15日告示第29号)≫ 4. 基本構想実践のための心得 (1) 変化に耐えうる機動的で柔軟な対応 私たちは、歴史的教訓から将来の予測が可能な事象が生じた場合や、たとえ歴史上類を見ない事象が生じた場合であっても、機動的で柔軟な区政運営を行っていかねばなりません。そのために、日常的に社会の事象を客観的に分析し、効果的、効率的な行財政運営に努めるとともに、新たな技術や民間活力などを積極的に活用していきます。 (2) 多様性を尊重する社会づくり 豊かな地域社会を持続可能なものとするためには、多様な価値観や考え方を尊重し、互いに認め合うことが重要です。このため、多様性を包摂する社会づくりを推進します。 (3) 参画・協働の推進 区と区民が一体となって基本構想を実現、継承していくために、区民に対する情報発信を適宜行い、区政への区民の主体的な参画や多様な主体との連携、協働を推進していきます。
20	1.区内に住所を有する方	・人口減少、少子高齢化問題として、千代田区独自の考え、施策…企業が多い千代田区であれば、たとえば、育児休業取得者の男女別なく取得させること。全国の先例となってほしい。 ・猛暑が続いている。根本的なヒートアイランド対策、緑を守る活動等をより考えてほしい。 ・温暖化の原因にもなっている脱炭素についての千代田区の取り組みはなにか。 ・日比谷ミッドタウンの三井不動産系会社は無償で区有地を提供したり、企業活動では考えられないような事が起きてがっかりしている。再開発の企画・周知・実行活動の透明化、コンプライアンス遵守をぜひともお願いしたく、区としていただきたい。区有地を使用する場合の区の規則の見直し、再開発ありきで区有地を使うのではなく、区の財産で、いったん売却したり、等価交換したりしたら、のちのち大変面倒な事も起きるので、区有地売却については、住民の意見も広くつり、公平に判断してほしい。 ・どうもまだ町会への依存度が高く、一般住民への周知や説明会が足りない。町会という面だけではもう住民の意向は拾いきれないのだと認識し、10年も前の計画だからとかそういう言い訳を言うってしまうような事は現代の柔軟性に欠けている。 ・最近、地区開発の説明会だとか、意見募集とか千代田区からの発信を多く見るようになった。良い方向に進むのではないかと期待している。
21	4.その他利害関係を有する方	・たたき台に記されていること全体として、特に問題として指摘することはないが、漠として具体性に欠け、これでは今後の区のあり方として何をを目指すのが甚だ不明確ではないか。千代田区は、大丸有地域、神田地域、永田町・霞ヶ関地域、番町等の地域、とおおよそ4分類に分けられるのであるから、基本構想においてもそういう特性に少なくとも言及し、これらを明確に意識しながら練り上げる必要があるのではないか。 ・それぞれの地域の特性・特徴を活かし、尊重するまちづくりをすすめるべきである。番町地域では昨年改定されたばかりの都市計画マスタープランにうたわれている考え方とはまるで合致しない。超高層ビル建設を進めようとする動きがある。概念的・観念的な議論ではなく、具体的・実証的なツメを行って、より良いまちづくりをしてほしい。 ・区民からの意見聴取を行うに際しては、ただ賛否両論を聞いて両論併記というような形ではなく、極力賛成と反対がどの程度のウエイトを持つのかを見極めていただきたい。そういう配慮やキメの細かさが必ずしも十分ではなかったのではないか。
22	1.区内に住所を有する方	・基本構想は行政計画の最上位であるため、まず「区民の命と生活を守る」を構想の一番最初に明記してほしい。 ・言っている事は素晴らしいと思う。具体的な方法の段階ではかなり難しいと思う。 ・情報発信のみならず「多くの区民からの意見の聴取も適時適切に行う」旨の文言も入れてほしい。今までの情報発信、今までの情報発信、意見聴取のやり方では駄目だという結果が出ている。 ・千代田区は大丸有に代表されるビジネスエリア、番町・麹町などの住宅・文教地区、神田・秋葉原などの商業地域とそれぞれ異なる特徴をもつ地域から出来ているので、豊さがなにかは人によってちがうので、分野別の将来像は地域別に分けて考えなくてはならない。 ・「暮らし続けられる様にきめ細やかな行政の施策を行う」と行政の義務も書いてほしい。 ・基本構想には「文教地区」という視点が欠けている。文教地区に事業者と一丸になって高層ビルを建てる為の地区計画変更にも力をいれている千代田区の本物の姿の現れで、残念な事である。現在、千代田区には教育機関が多数存在しており、区民や団体、企業だけでなく、教育機関およびそこで学ぶ学生にとっても魅力のあるまちを目指すことを盛り込んでほしい。

23	3.区内の事務所または事業所に勤務する方	・千代田区で一番欠けているのは「対話」である。区民に対する情報発信を適時適切に行えば、区政への主体的な参加が促進されるのか。これは、上から目線ではないか。適時適切とは誰が決めるのか。上からの適時適切ではないか。必要なのは、情報に基づいた対話の場である。 ・神田警察通り道路整備の例でも明らかなように、そこには対話はなく、絶望しかない。有無を言わせぬ乱暴なやり方は、全国に千代田区の酷政をさらした。千代田区の恥である。事業をスムーズに推進するのが目的となっていないか。行政と区民、区民相互の対話の場をつくるのが行政の仕事である。 ・「（３）参画・協働の推進」は、締めくくりとして、大変重要な部分であるため、情報を流しておけば参画が進むという考え方は、あらためるべき。対話によって新しい道が開けるような場をつくることを求める。
24	1.区内に住所を有する方	・千代田区は区内においても、いくつか特徴を持った地域に分けられると思う。たとえば、皇居の東側はビジネス・国政・商業の町であり、私が住んでいる番町地域は、マンションが多く居住地であると同時に、大学、学校、会社があり、また大使館も多く、日中は多様な多くの人々が出会うことのできる地域である。それゆえに、多様な住民と共に、日中過ごすさまざまな職種人々が、教育機関、劇場、博物館など文化を共有し、また緑を共有するような落ち着いた街並みとして発展したら良い。
25	1.区内に住所を有する方	・「千代田市」を目指すを廃止すべき。新型コロナの蔓延を経験し、国・東京都と一体となる必要がある。広域対策も必要な時に。またたたき台に、「区民、事業者、他自治体など、様々な主体との連携、協働を推進」と有る様に、「千代田市」構想は現代の状況には合っておらず、廃止を宣言すべきである。 ・ 目指すべき将来像では「モダン」と表現されているが、伝統との対比では「現代風」とか近代化を表記が正しい。 ・ 分野別の将来像では、分野だけでは無く千代田区の各地域の特色・特徴を活かした将来像とすべき。 ・ 「めざすべき将来像」でも先人が築いてきた伝統を大切に表現されているが、伝統は、非常に重要な資質でも有り、その点を重視すべき。 ・ 「集い、つながり、活気にぎわいのあるまち」でも上記と同じように各地域で異なる。単純な「にぎわい」の表現では地域の特色を表現しているとは思えない。多様性を活かすにはお互いが理解を深め、他人の意見を尊重できる機会を「千代田区行政」は作る努力が必要である。 ・ 基本構想の実現に向けてでは、情報をすべて開示することを明記すべきである。行政からの情報開示が重要で、情報公開では無く基礎的自治体の構成員である区民への「情報開示」を進めるべきである。 ・ 基本構想は、「区民」「事業者」「昼間区民」「他の自治体」だけでなく、「千代田区行政」も守るべきものである。
26	1.区内に住所を有する方	・ 皇居の西側地区は、私立中等教育機関（中学校・高等学校等）、大学や専門学校という教育機関が集まっている地区であると同時に、比較的落ち着いたマンションが建ち並び良質な住宅地区として発展してきている。この環境は、治安の安全と落ち着いた町並みが維持されていてこそ成り立っているため、この地区を商業化し過ぎないことがこれからの50年の課題だと考える。
27	1.区内に住所を有する方	・ 千代田区の特性は地域ごとに雰囲気が違うことだと思うため、分野別のみならず地区別の細やかな配慮が必要だと思う。 ・ 多様性を尊重するのであれば、それぞれの地区の持つ歴史的、文化的背景を大事にすべき。 ・ 大手町や丸の内などの働きやすい官庁・オフィス街、遠くから電車を乗り継いで人が集まってくる有楽町、人情味にあふれた個性豊かな商店街のある神田地区、安心して通える園や学校と静かな住宅街が共存する番町麹町など、それぞれの魅力を失わないようなまちづくりを、住民の意見を尊重しながらプランニングすることが重要である。

(5) 千代田区基本構想懇談会設置要綱

○千代田区基本構想懇談会設置要綱

令和4年7月5日

4千政企画発第45号

(設置)

第1条 千代田区の基本構想（議会の議決を経て、その地域における総合かつ計画的な行政の運営を図るために定める構想をいう。以下同じ。）の策定に向けた検討に当たり、区民から多様な意見を募るため、千代田区基本構想懇談会（以下「懇談会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 懇談会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 千代田区の基本構想に関すること。
- (2) 前号に掲げるもののほか、区長が必要と認める事項に関すること。

(組織)

第3条 懇談会は、次に掲げる構成員で組織する。

- (1) 区民 20人程度
- (2) 学識経験者 4人程度

2 構成員の任期は、令和5年3月31日までとする。

(会長及び副会長)

第4条 懇談会に会長を置き、構成員の中から区長が指名する。

- 2 会長は、懇談会を代表し、会務を総理する。
- 3 懇談会に副会長を置き、会長が指名する構成員をもってこれに充てる。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議の招集等)

第5条 懇談会は、区長が招集する。

- 2 懇談会の会議は、公開とする。

(部会)

第6条 基本構想のうち分野別の事項について意見を募るため、懇談会に部会を置く。

- 2 部会の構成員は、区長が指名する。
- 3 部会に部会長を置き、構成員の中から区長が指名する。
- 4 部会長は、会務を総理し、部会が所管する事項に係る意見等について会長に報告する。
- 5 部会の会議は、公開とする。

(庶務)

第7条 懇談会及び部会の庶務は、政策経営部企画課において処理する。

(報償費)

第8条 懇談会又は部会に出席した構成員には、別に定めるところにより報償費を支給する。

(補則)

第9条 この要綱に定めるもののほか、懇談会及び部会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、令和4年7月5日から施行する。